

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニシヨウガクシャ 学校法人 二松学舎							
フリガナ大学の名称	ニシヨウガクシャダイガク 二松学舎大学 (Nishogakusha University)							
大学本部の位置	東京都千代田区三番町6-16							
大学の目的	<p>本大学は、東洋の精神による人格の陶冶を旨とし、学校教育法に基づき、広く一般の基礎教養に関する学術と、更に深く専門の学芸を教授研究し、知的・道徳的及び応用的能力を展開させるとともに、世界文化の進展に寄与し、国家社会に貢献する国際性豊かな有為の人物を養成することを使命とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>【国際政治経済学部】 ア 政治・経済・法律・文化などの各分野の国際政治経済事象を教育研究する融合学部とし、応用実践的な専門知識を修得させ、外国語運用能力を涵養し、東アジア諸地域に関する政治経済の実態を把握させ、国際的、学際的視野に立って国際政治経済を学問的に考究でき、かつ国際政治経済に関する豊富な実践的知識を修得した国際社会に貢献する有為な人材を養成する。 イ 所定の単位を取得し、以下のような能力を身につけた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。 ① 日本国内並びに国際的な政治・経済事情や、法行政に関する基本的な知識を修得している。 ② 基本的な知識に裏付けられ、現実の社会・国際社会を理解する基礎的な技能を修得している。 ③ 世界の諸地域の特性や異文化を理解し、多様な価値を尊重することができる。 ④ 正確な日本語による表現能力と、高い外国語能力を有している。</p> <p>【国際経営学科】 ア 国際経済事象の学習・研究を通し、企業経営を巡る諸領域の応用実践的な専門知識を修得させるとともに、情報・外国語の運用能力を涵養する。さらに、国際的な企業活動に生じる課題を見極め解決する力、国際社会を生き抜く実践的な「創造的思考力」と社会の変化に対応して自らのキャリアを主体的に切り開く力を身につけた、より豊かで生産性の高い国際社会の発展構築に貢献する人材を養成する。 イ 所定の単位を取得し、以下のような能力を身につけた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。 ① グローバル社会における市場経済、企業の経営機構や統治、企業法制に関する基本的な知識を修得している。 ② 知識に基づいて現実の社会構造・国際社会の有様を理解し、課題の発見とそれを解決するためのITをはじめとした技能を修得している。 ③ 世界の諸地域の特性や異文化を理解し、多様な価値を尊重することができる。とともに、倫理感をもって接することができる。 ④ 正確な日本語による表現能力と、実用的な高い外国語能力を有している。 ウ 商社、金融・保険、企業の海外事業部門、外資系企業、起業・事業継承、会計・税務専門職、公務員、旅行・観光業など</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	国際政治経済学部 (Faculty of International Politics and Economics)	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	東京都千代田区三番町 6-16 千葉県柏市大井2590
	国際経営学科 (Department of International Business)	4	80	-	320	学士(経営学)	平成30年4月 1年次	
	計		80		320			
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	国際政治経済学部 国際政治経済学科〔定員減〕(△40)(平成30年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
	国際経営学科	講義	演習	実験・実習	計	124単位		
		208科目	115科目	4科目	327科目			

教員	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 分 設	国際政治経済学部国際経営学科		7人 (5)	3人 (5)	1人 (1)	0人 (0)	11人 (11)	0人 (0)	115 (115)
	計		7 (5)	3 (5)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	— (—)
組 織 の 設 分	既 設	国際政治経済学部国際政治経済学科	11 (14)	4 (2)	3 (1)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	123 (123)
		文学部国文学科	16 (19)	5 (1)	3 (3)	0 (0)	24 (23)	0 (0)	134 (134)
		文学部中国文学科	10 (9)	1 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	130 (130)
		文学部都市文化デザイン学科	3 (2)	1 (1)	2 (3)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	91 (91)
		教職支援センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	11 (11)
		計	43 (47)	11 (6)	8 (7)	0 (0)	62 (61)	0 (0)	— (—)
合 計			50 (52)	14 (11)	9 (8)	0 (0)	73 (71)	0 (0)	— (—)
教員 以外 の職 員の 概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事務職員		76人 (76人)		4人 (4人)		80人 (80人)		
	技術職員		0人 (0人)		0人 (0人)		0人 (0人)		
	図書館専門職員		3人 (3人)		0人 (0人)		3人 (3人)		
	その他の職員		0人 (0人)		0人 (0人)		0人 (0人)		
	計		79人 (79人)		4人 (4人)		83人 (83人)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校舎敷地	3,376.53㎡	18,145㎡		0㎡		21,521.53㎡		
	運動場用地	0㎡	105,337㎡		0㎡		105,337㎡		
	小 計	3,376.53㎡	123,482㎡		0㎡		126,858.53㎡		
	そ の 他	0㎡	0㎡		0㎡		0㎡		
	合 計	3,376.53㎡	123,482㎡		0㎡		126,858.53㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		40,779.4㎡ (40,779.4㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		40,779.4㎡ (40,779.4㎡)		
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		
	63室	20室	9室		5室 (補助職員0人)		2室 (補助職員0人)		
専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		国際経営学科			11 室				
図書・ 設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	国際政治経済学部 国際経営学科	347,690 [20,891] (347,690 [20,891])	6,984 [744] (6,984 [744])	2,032 [1,924] (2,032 [1,924])	8,652 (8,652)	0 (0)	0 (0)		
	計	347,690 [20,891] (347,690 [20,891])	6,984 [744] (6,984 [744])	2,032 [1,924] (2,032 [1,924])	8,652 (8,652)	0 (0)	0 (0)		
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			
		3,311 ㎡		498 席		323,375 冊			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,231.03㎡		武道館 —					

(共用)附属高校、附属柏中・高校(設置基準面積)27,200㎡(収容定員 900名、1,146名)
(借入面積・期間)
2,733㎡、2年間

学部単位での特定不能なため、大学全体の数

大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		教員1人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円	0千円	0千円			
		共同研究費等		4,400千円	4,400千円	4,400千円	4,400千円	0千円	0千円			
		図書購入費	14,200千円	12,600千円	13,200千円	13,600千円	14,200千円	0千円	0千円			
		設備購入費	28,000千円	8,400千円	9,100千円	9,800千円	10,500千円	0千円	0千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次					
		1,276千円	996千円	996千円	996千円	0千円	0千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等									
既設大学等の状況	大学の名称		二松学舎大学								平成29年度入学定員減(△50人)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
		年	人	年次	人		倍					
	文学部						1.20		東京都千代田区三番町6-16			
	国文学科	4	260	—	1040	学士(文学)	1.22	昭和24年度	千葉県柏市大井2590			
	中国文学科	4	90	—	510	学士(文学)	1.16	昭和24年度				
	都市文化デザイン学科	4	50	—	50	学士(文学)	1.10	平成29年度				
	国際政治経済学部						1.16		同上			
	国際政治経済学科	4	200	—	800	学士(国際政治経済学)	1.16	平成3年度				
	大学院文学研究科						0.45					
	博士前期課程国文学専攻	2	16	—	32	修士(文学)	0.62	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16			
	博士前期課程中国学専攻	2	16	—	32	修士(文学)	0.27	昭和41年度				
	大学院文学研究科						0.26					
博士後期課程国文学専攻	3	5	—	15	博士(文学)	0.33	昭和41年度	東京都千代田区三番町6-16				
博士後期課程中国学専攻	3	5	—	15	博士(文学)	0.20	昭和61年度					
大学院国際政治経済学研究科						0.25						
国際政治経済学専攻修士課程	2	10	—	20	修士(国際政治経済学)	0.25	平成13年度	東京都千代田区三番町6-16				
附属施設の概要		該当なし										

教育課程等の概要

（国際政治経済学部国際経営学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	基礎ゼミ	1前・後	2					○			7	3	1			兼 1
	エグゼクティブ・プレップゼミナール	1 後	2					○			7	3	1			兼 9
	フレッシュマンイングリッシュⅣ-ディニング&ライティング	1 通	2					○								兼 7
	フレッシュマンイングリッシュⅣXニニング&スピーキング	1 通	2					○								
	ITリテラシーA	1 前	2					○			1					
	ITリテラシーB	1 後	2					○			1					
	経営学概論A	1 前	2				○						1			
	経営学概論B	1 後	2				○						1			
	統計学入門A	1 前	2				○				1					
	統計学入門B	1 後	2				○					1				
	経済学A	1 前	2				○				1					
	経済学B	1 後	2				○				1					
	法学A	1 前	2				○				1					
	法学B	1 後	2				○				1					
	キャリアデザイン①	1 前	2				○									兼 1
小計（15科目）		—	30	0	0	—	—	—	—	7	3	1			兼 15	—
専門教養科目	海外社会事情ⅠA	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅠB	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅡA	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅡB	1・2 後		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅢA	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅢB	1・2 後		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅣA	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅣB	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅤA	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅤB	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅥA	1・2 前		2			○									兼 1 隔年開講
	海外社会事情ⅥB	1・2 後		2			○									兼 1 隔年開講
	社会の発展と科学A	1・2 前		2			○				1					
	社会の発展と科学B	1・2 後		2			○				1					
	情報システム概論	1・2 後		2			○									兼 1
	日本史概論A	1・2 前		2			○									兼 1
	日本史概論B	1・2 後		2			○									兼 1
	東洋史概論	1・2 後		2			○									兼 1
	西洋史概論	1・2 前		2			○									兼 1
	地理学概論A	1・2 前		2			○									兼 1
	地理学概論B	1・2 後		2			○									兼 1
	地誌学概論	1・2 前		2			○									兼 1
	社会学概論A	1・2 前		2			○									兼 1
	社会学概論B	1・2 後		2			○									兼 1
	哲学・倫理学概論A	1・2 前		2			○									兼 1
	哲学・倫理学概論B	1・2 後		2			○									兼 1
	宗教学概論A	1・2 前		2			○									兼 1
	宗教学概論B	1・2 後		2			○									兼 1
	心理学概論A	1・2 前		2			○									兼 1
	心理学概論B	1・2 後		2			○									兼 1
小計（30科目）		—	0	60	0	—	—	—	—	1	0	0			兼 16	—

専攻基礎科目	プラクティカルイングリッシュ	2 通	2				○											兼 3	
	経営管理論A	2 前	2				○					1							
	経営管理論B	2 後	2				○					1							
	ビジネス統計学A	2 前	2				○											兼 1	
	ビジネス統計学B	2 後	2				○											兼 1	
	企業法A	2 前	2				○			1									
	企業法B	2 後	2				○			1									
	簿記A	2 前		2			○											兼 1	
	簿記B	2 後		2			○											兼 1	
	マーケティング概論A	2 前	2				○					1							
	マーケティング概論B	2 後	2				○					1							
	ゲーム理論	2 後		2			○			1									
	キャリアマネジメント I	2 後		2			○											兼 1	
	小計 (13科目)	—	18	8	0	—	—	—	—	2	1	1						兼 6	—
専攻発展科目	マーケットデザイン	3・4 前		2			○			1									
	会社法A	3・4 前	2				○			1									
	会社法B	3・4 後	2				○			1									
	国際関係論A	3・4 前		2			○			1									
	国際関係論B	3・4 後		2			○			1									
	経営戦略論A	3・4 前		2			○					1							
	経営戦略論B	3・4 後		2			○					1							
	市場戦略論A	3・4 前		2			○					1							
	市場戦略論B	3・4 後		2			○					1							
	経営組織論A	3・4 前		2			○						1						
	経営組織論B	3・4 後		2			○						1						
	経営実践A	3・4 前		2				○										兼 1	
	経営実践B	3・4 後		2				○										兼 1	
	流通システム論A	3・4 前		2			○											兼 1	
	流通システム論B	3・4 後		2			○											兼 1	
	国際ビジネス論A	3・4 前		2			○					1							
	国際ビジネス論B	3・4 後		2			○					1							
	ファイナンスA	3・4 前		2			○											兼 1	
	ファイナンスB	3・4 後		2			○											兼 1	
	ビジネス法特別講義A	3・4 前		2			○			1									
	ビジネス法特別講義B	3・4 後		2			○			1									
	キャリアマネジメントII	3・4 後		2			○											兼 1	
	ベンチャービジネス論(起業家論)	3・4 後		2			○											兼 1	
	英語で学ぶ経営学A	3・4 前		2			○											兼 1	
	英語で学ぶ経営学B	3・4 後		2			○											兼 1	
	英語で学ぶ経済学A	3・4 前		2			○											兼 1	
	英語で学ぶ経済学B	3・4 後		2			○											兼 1	
	フィールドワーク論A	3・4 前		2			○					1							
	フィールドワーク論B	3・4 後		2			○											兼 1	
	簿記演習	3・4 休		2				○										兼 1	集中
	民法演習	3・4 休		2				○										兼 1	集中
	商品開発論	3・4 前		2			○											兼 1	
	広告戦略論	3・4 後		2			○											兼 1	
スポーツマネジメント	3・4 前		2			○											兼 1		
観光ビジネス論	3・4 後		2			○											兼 1		
消費者心理分析	3・4 前		2			○											兼 1		
ビジネスアイデア論	3・4 前		2			○											兼 1		
ブランド・マネジメント	3・4 前		2			○					1								
健康・医療ビジネス論	3・4 後		2			○					1								
イングリッシュセミナー	3 通		2				○											兼 3	
小計 (40科目)	—	6	74	0	—	—	—	—	3	3	1						兼 15	—	

両学部共通科目	情報科学①A (総合)	2 前		2	○							兼 1	
	情報科学①B (総合)	2 後		2	○							兼 1	
	情報科学②A (総合)	2 前		2	○							兼 1	
	情報科学②B (総合)	2 後		2	○							兼 1	
	情報処理① (総合)	1・2前・後		2	○							兼 5	
	情報処理② (総合)	1・2前・後		2	○							兼 5	
	情報統計学A (総合)	2 前		2	○							兼 1	
	情報統計学B (総合)	2 後		2	○							兼 1	
	マスメディア論A(総合)	1・2 前		2	○							兼 1	
	メディアと社会的責任A (総合)	1・2 後		2	○							兼 1	
	小計(10科目)	—	0	20	0	—	0	0	0	0	0	兼 8	—
学芸員科目	生涯学習概論	3 後		2	○							兼 1	
	博物館概論	3 前		2	○							兼 1	
	博物館経営論	3 前		2	○							兼 1	
	博物館資料論	3 後		2	○							兼 1	
	博物館資料保存論	3 後		2	○							兼 1	
	博物館展示論	3 後		2	○							兼 1	
	博物館教育論	3 後		2	○							兼 1	
	博物館情報・メディア論	3 前		2	○							兼 1	
	博物館実習Ⅰ	3 後		1	○							兼 2	
	博物館実習Ⅱ	4 前		2	○							兼 2	
	表象メディア史A	2・3 前		2	○							兼 1	
	表象メディア史B	2・3 後		2	○							兼 1	
	芸能・演劇研究①A	3・4 前		2	○							兼 1	
	芸能・演劇研究①B	3・4 後		2	○							兼 1	
	日本文化史A	2・3 前		2	○							兼 1	
	日本文化史B	2・3 後		2	○							兼 1	
	仏教文化A	2・3 前		2	○							兼 1	
	仏教文化B	2・3 後		2	○							兼 1	
	日本文化特殊研究①A(有職故実)	3・4 前		2	○							兼 1	
	日本文化特殊研究①B(有職故実)	3・4 後		2	○							兼 1	
	日本文化特殊研究②A(日本の民俗信仰)	3・4 前		2	○							兼 1	
	日本文化特殊研究②B(日本の民俗信仰)	3・4 後		2	○							兼 1	
	日本文化特殊研究③A	3・4 前		2	○							兼 1	
	日本文化特殊研究③B	3・4 後		2	○							兼 1	
	比較文学・文化研究②A	3・4 前		2	○							兼 1	
	比較文学・文化研究②B	3・4 後		2	○							兼 1	
	比較文化講義A	3・4 前		2	○							兼 1	
	比較文化講義B	3・4 後		2	○							兼 1	
小計(28科目)	—	0	0	55	—	0	0	0	0	0	兼 16	—	
図書館司書課程科目	図書館概論	3 前		2	○							兼 1	
	図書館制度・経営論	3 後		2	○							兼 1	
	図書館情報技術論	3 後		2	○							兼 1	
	図書館サービス概論	3 前		2	○							兼 1	
	情報サービス論	3 前		2	○							兼 1	
	児童サービス論	3 前		2	○							兼 1	
	情報サービス演習Ⅰ	3前・後		1		○						兼 2	
	情報サービス演習Ⅱ	3 後		1		○						兼 1	
	図書館情報資源概論	3 前		2	○							兼 1	
	情報資源組織論	3 前		2	○							兼 1	
	情報資源組織演習	3 通		2		○						兼 1	
	図書館サービス特論	3 後		1	○							兼 1	
	図書館情報資源特論	3 後		1	○							兼 1	
	図書・図書館史	3 後		1	○							兼 1	
小計(14科目)	—	0	0	23	—	0	0	0	0	0	兼 8	—	
合計(327科目)		—	68	484	78	—	7	3	1	0	0	兼 117	—

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
総合科目群から10単位以上、基礎科目から30単位必修、専門教養科目から8単位以上、外国語科目から6単位以上（うちトピック2単位必修）、専攻基礎科目から16単位以上（うちプラクティカルイングリッシュ2単位必修、企業法A・B必修）、専攻発展科目から30単位以上（うちイングリッシュセミナー2単位必修、会社法A・B必修、「経営戦略論A・B」、「市場戦略論A・B」、「経営組織論A・B」から同一科目のA・Bを4単位選択必修）、ゼミナール12単位必修、自由科目12単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録上限：40単位（年間）（卒業年次生のみ49単位（年間）））		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要

（国際政治経済学部国際経営学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎科目	基礎ゼミ	1前・後	2				○		7	3	1			兼1
	エグゼクティブ・プレップゼミナール	1後	2				○		7	3	1			兼9
	フレッシュマンイングリッシュⅣ-ディニング&ライティング	1通	2				○							兼7
	フレッシュマンイングリッシュⅣ-スリーピング&スピーキング	1通	2				○							
	ITリテラシーA	1前	2				○		1					
	ITリテラシーB	1後	2				○		1					
	経営学概論A	1前	2			○					1			
	経営学概論B	1後	2			○					1			
	統計学入門A	1前	2			○			1					
	統計学入門B	1後	2			○				1				
	経済学A	1前	2			○			1					
	経済学B	1後	2			○			1					
	法学A	1前	2			○			1					
	法学B	1後	2			○			1					
	キャリアデザイン①	1前	2			○								兼1
小計（15科目）		—	30	0	0	—	—	7	3	1			兼15	—
専門教養科目	海外社会事情ⅠA	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅠB	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅡA	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅡB	1・2後		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅢA	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅢB	1・2後		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅣA	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅣB	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅤA	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅤB	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅥA	1・2前		2		○								兼1 隔年開講
	海外社会事情ⅥB	1・2後		2		○								兼1 隔年開講
	社会の発展と科学A	1・2前		2		○			1					
	社会の発展と科学B	1・2後		2		○			1					
	情報システム概論	1・2後		2		○								兼1
	日本史概論A	1・2前		2		○								兼1
	日本史概論B	1・2後		2		○								兼1
	東洋史概論	1・2後		2		○								兼1
	西洋史概論	1・2前		2		○								兼1
	地理学概論A	1・2前		2		○								兼1
	地理学概論B	1・2後		2		○								兼1
	地誌学概論	1・2前		2		○								兼1
	社会学概論A	1・2前		2		○								兼1
	社会学概論B	1・2後		2		○								兼1
	哲学・倫理学概論A	1・2前		2		○								兼1
	哲学・倫理学概論B	1・2後		2		○								兼1
	宗教学概論A	1・2前		2		○								兼1
	宗教学概論B	1・2後		2		○								兼1
	心理学概論A	1・2前		2		○								兼1
	心理学概論B	1・2後		2		○								兼1
小計（30科目）		—	0	60	0	—	—	1	0	0			兼16	—

専攻基礎科目	プラクティカルイングリッシュ	2 通	2				○												兼 3
	経営管理論A	2 前	2				○					1							
	経営管理論B	2 後	2				○					1							
	ビジネス統計学A	2 前	2				○												兼 1
	ビジネス統計学B	2 後	2				○												兼 1
	企業法A	2 前	2				○			1									
	企業法B	2 後	2				○			1									
	簿記A	2 前		2			○												兼 1
	簿記B	2 後		2			○												兼 1
	マーケティング概論A	2 前	2				○					1							
	マーケティング概論B	2 後	2				○					1							
	ゲーム理論	2 後		2			○			1									
	キャリアマネジメント I	2 後		2			○												兼 1
	小計 (13科目)	—	18	8	0	—	—	—	—	2	1	1							兼 6
専攻発展科目	マーケットデザイン	3・4 前		2			○			1									
	会社法A	3・4 前	2				○			1									
	会社法B	3・4 後	2				○			1									
	国際関係論A	3・4 前		2			○			1									
	国際関係論B	3・4 後		2			○			1									
	経営戦略論A	3・4 前		2			○					1							
	経営戦略論B	3・4 後		2			○					1							
	市場戦略論A	3・4 前		2			○					1							
	市場戦略論B	3・4 後		2			○					1							
	経営組織論A	3・4 前		2			○						1						
	経営組織論B	3・4 後		2			○						1						
	経営実践A	3・4 前		2				○											兼 1
	経営実践B	3・4 後		2				○											兼 1
	流通システム論A	3・4 前		2			○												兼 1
	流通システム論B	3・4 後		2			○												兼 1
	国際ビジネス論A	3・4 前		2			○					1							
	国際ビジネス論B	3・4 後		2			○					1							
	ファイナンスA	3・4 前		2			○												兼 1
	ファイナンスB	3・4 後		2			○												兼 1
	ビジネス法特別講義A	3・4 前		2			○			1									
	ビジネス法特別講義B	3・4 後		2			○			1									
	キャリアマネジメントII	3・4 後		2			○												兼 1
	ベンチャービジネス論(起業家論)	3・4 後		2			○												兼 1
	英語で学ぶ経営学A	3・4 前		2			○												兼 1
	英語で学ぶ経営学B	3・4 後		2			○												兼 1
	英語で学ぶ経済学A	3・4 前		2			○												兼 1
	英語で学ぶ経済学B	3・4 後		2			○												兼 1
	フィールドワーク論A	3・4 前		2			○					1							
	フィールドワーク論B	3・4 後		2			○												兼 1
	簿記演習	3・4 休		2				○											兼 1
	民法演習	3・4 休		2				○											兼 1
	商品開発論	3・4 前		2			○												兼 1
	広告戦略論	3・4 後		2			○												兼 1
	スポーツマネジメント	3・4 前		2			○												兼 1
観光ビジネス論	3・4 後		2			○												兼 1	
消費者心理分析	3・4 前		2			○												兼 1	
ビジネスアイデア論	3・4 前		2			○												兼 1	
ブランド・マネジメント	3・4 前		2			○					1								
健康・医療ビジネス論	3・4 後		2			○					1								
イングリッシュセミナー	3・4 通		2				○											兼 3	
小計 (40科目)	—	6	74	0	—	—	—	—	3	3	1							兼 15	—

集中
集中

総合科目	情報統計学B	2 後	2	○							兼 1
	マスメディア論A	1・2 前	2	○							兼 1
	メディアと社会的責任A	1・2 後	2	○							兼 1
	情報処理①	1・2前・後	2	○							兼 5
	情報処理②	1・2前・後	2	○							兼 5
	情報処理アドヴァンス①	2 前	2	○							兼 2
	情報処理アドヴァンス②	2 後	2	○							兼 2
	地球環境論A	1・2 前	2	○							兼 1
	地球環境論B	1・2 後	2	○							兼 1
	総合英語Ⅰ (コミュニケーション)	1・2 通	2		○						兼 2
	総合英語Ⅱ (TOEIC)	1・2 通	2		○						兼 1
	総合英語Ⅲ (映画)	1・2 通	2		○						兼 1
	総合英語Ⅳ (日常生活)	1・2 通	2		○						兼 1
	総合英語Ⅴ (海外旅行)	1・2 通	2		○						兼 1
	総合英語Ⅵ (ビジネス)	1・2 通	2		○						兼 2
	総合英語Ⅶ (メディア)	1・2 通	2		○						兼 2
	総合英語Ⅷ (アカデミック)	1・2 通	2		○						兼 1
	ドイツ語① (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	ドイツ語② (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	ドイツ語③ (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	フランス語① (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	フランス語② (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	フランス語③ (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	ロシア語① (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	ロシア語② (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	ロシア語③ (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	中国語① (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 5
	中国語② (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 2
	中国語③ (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	韓国語① (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 2
	韓国語② (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	韓国語③ (外国語科目)	1・2 通	2		○						兼 1
	日本語①A (外国語科目)	1・2 前	1		○						兼 1
	日本語①B (外国語科目)	1・2 後	1		○						兼 1
	日本語②中級A (外国語科目)	1・2 前	1		○						兼 1
	日本語②中級B (外国語科目)	1・2 後	1		○						兼 1
	日本語②上級A (外国語科目)	1・2 前	1		○						兼 1
	日本語②上級B (外国語科目)	1・2 後	1		○						兼 1
	日本語③中級A (外国語科目)	1・2 前	1		○						兼 1
	日本語③中級B (外国語科目)	1・2 後	1		○						兼 1
	日本語③上級ⅠA (外国語科目)	1・2 前	1		○						兼 1
日本語③上級ⅠB (外国語科目)	1・2 後	1		○						兼 1	
日本事情A (外国語科目)	1・2 前	2		○						兼 2	
日本事情B (外国語科目)	1・2 後	2		○						兼 2	
外国大学科目①	1・2	2		○							
外国大学科目②	1・2	2		○							
外国大学科目③	1・2	2		○							
外国大学科目④	1・2	2		○							
外国大学科目⑤	1・2	2		○							
短期海外研修①	1・2 休	2		○						集中	
短期海外研修②	1・2 休	2		○						集中	
健康スポーツ科学A	1・2 前	2		○						兼 2	
シーズンスポーツ①	1・2 休	2				○				兼 1 集中	
シーズンスポーツ②	1・2 休	2				○				兼 1 集中	
小計 (73科目)	—	0	136	0	—	1	0	0		兼 41	—

両学部共通科目	情報科学①A (総合)	2 前		2	○							兼 1
	情報科学①B (総合)	2 後		2	○							兼 1
	情報科学②A (総合)	2 前		2	○							兼 1
	情報科学②B (総合)	2 後		2	○							兼 1
	情報処理① (総合)	1・2前・後		2	○							兼 5
	情報処理② (総合)	1・2前・後		2	○							兼 5
	情報統計学A (総合)	2 前		2	○							兼 1
	情報統計学B (総合)	2 後		2	○							兼 1
	マスメディア論A(総合)	1・2 前		2	○							兼 1
	メディアと社会的責任A (総合)	1・2 後		2	○							兼 1
小計(10科目)	—	0	20	0	—	0	0	0	0	0	兼 8	—
学芸員科目	生涯学習概論	3 後		2	○							兼 1
	博物館概論	3 前		2	○							兼 1
	博物館経営論	3 前		2	○							兼 1
	博物館資料論	3 後		2	○							兼 1
	博物館資料保存論	3 後		2	○							兼 1
	博物館展示論	3 後		2	○							兼 1
	博物館教育論	3 後		2	○							兼 1
	博物館情報・メディア論	3 前		2	○							兼 1
	博物館実習Ⅰ	3 後		1	○							兼 2
	博物館実習Ⅱ	4 前		2	○							兼 2
	表象メディア史A	2・3 前		2	○							兼 1
	表象メディア史B	2・3 後		2	○							兼 1
	芸能・演劇研究①A	3・4 前		2	○							兼 1
	芸能・演劇研究①B	3・4 後		2	○							兼 1
	日本文化史A	2・3 前		2	○							兼 1
	日本文化史B	2・3 後		2	○							兼 1
	仏教文化A	2・3 前		2	○							兼 1
	仏教文化B	2・3 後		2	○							兼 1
	日本文化特殊研究①A(有職故実)	3・4 前		2	○							兼 1
	日本文化特殊研究①B(有職故実)	3・4 後		2	○							兼 1
	日本文化特殊研究②A(日本の民俗信仰)	3・4 前		2	○							兼 1
	日本文化特殊研究②B(日本の民俗信仰)	3・4 後		2	○							兼 1
	日本文化特殊研究③A	3・4 前		2	○							兼 1
	日本文化特殊研究③B	3・4 後		2	○							兼 1
	比較文学・文化研究②A	3・4 前		2	○							兼 1
	比較文学・文化研究②B	3・4 後		2	○							兼 1
	比較文化講義A	3・4 前		2	○							兼 1
	比較文化講義B	3・4 後		2	○							兼 1
小計(28科目)	—	0	0	55	—	0	0	0	0	0	兼 16	—
図書館司書課程科目	図書館概論	3 前		2	○							兼 1
	図書館制度・経営論	3 後		2	○							兼 1
	図書館情報技術論	3 後		2	○							兼 1
	図書館サービス概論	3 前		2	○							兼 1
	情報サービス論	3 前		2	○							兼 1
	児童サービス論	3 前		2	○							兼 1
	情報サービス演習Ⅰ	3前・後		1		○						兼 2
	情報サービス演習Ⅱ	3 後		1		○						兼 1
	図書館情報資源概論	3 前		2	○							兼 1
	情報資源組織論	3 前		2	○							兼 1
	情報資源組織演習	3 通		2		○						兼 1
	図書館サービス特論	3 後		1	○							兼 1
	図書館情報資源特論	3 後		1	○							兼 1
	図書・図書館史	3 後		1	○							兼 1
小計(14科目)	—	0	0	23	—	0	0	0	0	0	兼 8	—
合計(322科目)	—	68	474	78	—	7	3	1	0	0	兼 112	—

学位又は称号	学士（経営学）	学位又は学科の分野	経済学関係
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
総合科目群から10単位以上、基礎科目から30単位必修、専門教養科目から8単位以上、外国語科目から6単位以上（うちトピック2単位必修）、専攻基礎科目から16単位以上（うちプラクティカルイングリッシュ2単位必修、企業法A・B必修）、専攻発展科目から30単位以上（うちイングリッシュセミナー2単位必修、会社法A・B必修、「経営戦略論A・B」、「市場戦略論A・B」、「経営組織論A・B」から同一科目のA・Bを4単位選択必修）、ゼミナール12単位必修、自由科目12単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録上限：40単位（年間）（卒業年次生のみ49単位（年間）））		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要

（国際政治経済学部国際経営学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
科共学 目通部	東アジアの政治と経済 I	2 後		2		○			1						
	小計（1科目）	—	0	2	0	—			1	0	0				—
科外国 語目	中国語①（総合科目）	1・2 通		2		○									兼 1
	小計（1科目）	—	0	6	0	—			0	0	0				兼 1 —
総合 科目	心理学A	1・2 前		2		○									兼 1
	心理学B	1・2 後		2		○									兼 1
	中国語①（外国語科目）	1・2 通		2		○									兼 1
	健康スポーツ科学A	1・2 前		2		○									兼 1
	健康スポーツ科学B	1・2 後		2		○									兼 1
	健康スポーツ①	1・2 通		2				○							兼 1
	健康スポーツ②	1・2 通		2				○							兼 1
小計（7科目）	—	0	8	0	—			0	0	0				兼 3 —	
合計（9科目）		—	0	8	0	—			1	0	0				兼 3
学位又は称号		学士（経営学）		学位又は学科の分野			経済学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
総合科目群から10単位以上、基礎科目から30単位必修、専門教養科目から8単位以上、外国語科目から6単位以上（うちトピック2単位必修）、専攻基礎科目から16単位以上（うちプラクティカルイングリッシュ2単位必修、企業法A・B必修）、専攻発展科目から30単位以上（うちイングリッシュセミナー2単位必修、会社法A・B必修、「経営戦略論A・B」、「市場戦略論A・B」、「経営組織論A・B」から同一科目のA・Bを4単位選択必修）、ゼミナール12単位必修、自由科目12単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録上限：40単位（年間）（卒業年次生のみ49単位（年間）））						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

授業科目の概要			
（国際政治経済学部国際経営学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	基礎ゼミ	<p>【科目の概要】 これから始まる4年間の大学生活を有意義に過ごすために必要なこと がらを学ぶ。学習方法のみならず、学習以外での場面での学生生活の あり方も学ぶ。なお、具体的には下記の授業計画にある項目を学ぶこ とになるが、各項目の順序や分量は各クラスごとに必要に応じて異な ることがある。</p> <p>【到達目標】 1. 履修計画を立てるに際し、必要な授業科目を自ら選択できるよ うにする。2. 大学での学習・クラブ・サークル活動・アルバイト等を 含め、目標に従って時間を計画的に使えるようにする。</p>	
基礎科目	エグゼクティブ・プレップゼミナ ール	<p>【科目の概要】 2年次以降の専門ゼミナール履修の準備のため、主としてゼミナール 担当教員が自らの研究テーマに関して課題を設定し、グループごとの アクティブラーニング形式で問題解決に努める。その成果をチーム単 位でプレゼンする。</p> <p>【到達目標】 担当教員の専門テーマを理解するとともに、様々な問題に進んで取り 組む力を養成する。さらにグループによる課題解決作業を通して多様 な人々とともに目標に向けて協力する力を身につける。効果的なプレ ゼンスキルを身につける。</p>	
基礎科目	フレッシュマンイングリッシュリー ディング&ライティング	<p>【科目の概要】 この授業では、大学での専門的な勉強や将来の仕事において必要とさ れる英語での読む力と書く力を養います。効果的な英語での読み書き に不可欠な知識や技術を身に付け、語い力と文法力も強化します。ま た、それらを駆使して英語で読んだり書いたりする練習を実際に行い ます。様々な文章に取り組むことにより、自信を持って幅広い読み書 きの場面に対応できる力を身に付けます。また、クラスメートとの協 働的な活動を通して学びを深めていきます。</p> <p>【到達目標】 リーディングでは、読むための知識と技術を活かして正確に且つ速く 読むことができる。また、文章内容を反映させた要約を書くことがで きる。更には、文章を分析的に読み、自分の見解を形成することがで きる。ライティングでは、書くために必要な知識と技術を活かし、一 連のライティングの過程に沿って、目的に応じた文章を作成すること ができる。</p>	
基礎科目	フレッシュマンイングリッシュリス ニング&スピーキング	<p>【科目の概要】 この授業では、時事問題から身近な事柄に関する様々なトピックを取 り上げ、英語での聞く力と話す力の向上を目指します。英語で聞いた り話したりする際に必要な知識や技術を身に付け、それらを目的や場 面に応じて適切に使用する練習を行います。様々な活動を通して、聞 く力と話す力の向上を図るばかりでなく、国際社会における英語の役 割を認識し、英語をコミュニケーションの手段として使用する意識を 高めます。また、原稿を作成し、クラスメートの前で発表を行いま す。</p> <p>【到達目標】 時事問題から身近な事柄に関して、大意や詳細を聞き取ることができ る。英語での聞く力と話す力に必要な知識や技術を、目的や場面に 応じて適切に使用することができる。聞き取ったことを基に自分の見 解を形成し説得力ある発信をすることができる。発表原稿を作成し、ク ラスメートの前で自信をもって分かりやすい発表を行うことができ る。</p>	

基礎科目	ITリテラシーA	<p>【科目の概要】</p> <p>コンピュータを扱う上での基礎固めを目的とし、特に初心者を想定してパソコンの各種基本操作・Wordによる文書作成・Excelでの表計算等を重点的に学習する。実習形式の授業により実践的なスキルを習得し、課題作成を通じて応用力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>社会人として、最低限身につけておかなければならない技術を習得し、Microsoft Office Specialist、パソコン検定3級に合格できるレベルを目標とする。</p>	
基礎科目	ITリテラシーB	<p>【科目の概要】</p> <p>PowerPointを用いたプレゼンテーション、コンピュータネットワーク・インターネットの基礎知識、HTML言語によるホームページ作成等を学習する。実習形式の授業により実践的なスキルを習得し、課題作成を通じて応用力を養う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>社会人として、最低限身につけておかなければならない技術を習得し、Microsoft Office Specialist、パソコン検定3級～準2級に合格できるレベルを目標とする。</p>	
基礎科目	経営学概論A	<p>【科目の概要】</p> <p>経営学のベーシックな概念や枠組みを理解することが本講義の目的です。企業組織と、その活動をテーマとして考えていきます。精緻に活動を計画しても、組織がこれを適切に遂行できなければ、期待するような成果を得ることはできません。そこで、組織の対外的な活動と、これを計画し遂行する組織内部の問題について学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>経営及び会社組織を対象として、経営学の基本的な概念について広く理解し、実社会の中に様々な形で現出する経営現象について、一定の解釈ができるようになることを目指します。</p>	
基礎科目	経営学概論B	<p>【科目の概要】</p> <p>経営学概論Aの内容をさらに発展させ、経営学の概念や枠組みへの理解をさらに進めることが本講義の目的です。精緻に活動を計画しても、組織がこれを適切に遂行できなければ、期待するような成果を得ることはできません。そこで、組織の対外的な活動と、これを計画し遂行する組織内部の問題について学びます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>経営及び会社組織を対象として、経営学の基本的な概念について広く理解し、実社会の中に様々な形で現出する経営現象について、一定の解釈ができるようになることを目指します。</p>	
基礎科目	統計学入門A	<p>【科目の概要】</p> <p>統計学の基礎を学ぶと同時に、経済データの入手方法、データを扱う際の注意点、データの整理や要約の方法、表計算・統計ソフトの使い方など実証分析を行う上で必要な実践的な知識を養う。実証的な論文を作成する際に必要なデータの取り扱い方、分析手法、分析結果の解釈の仕方の土台となる統計学の基礎を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>統計学の基礎を理解し、データと表計算・統計ソフトの操作に習熟し、自分の興味対象分野についてデータを用いて統計的な分析を行い、結果を解釈する技術を身につけることを到達目標とする。</p>	
基礎科目	統計学入門B	<p>【科目の概要】</p> <p>統計学の基礎を土台に、回帰分析の推定、検定を学ぶ。経済データの入手方法、データを扱う際の注意点、データの整理や要約の方法、表計算・統計ソフトの使い方など実証分析を行う上で必要な実践的な知識を養う。実証的な論文を作成する際に必要なデータの取り扱い方、分析手法、分析結果の解釈について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>回帰分析を理解し、データと表計算・統計ソフトの操作に習熟し、自分の興味対象分野についてデータを用いて回帰分析を行い、結果を解釈する技術を身につけることを到達目標とする。</p>	

基礎科目	経済学A	<p>【科目の概要】 経済学Aの授業では、企業や家計の行動に注目するミクロ経済学を学びます。例えば、欲しい商品を買うという行動もミクロ経済学を用いて分析することができます。私たちの経済活動がミクロ経済学によってどのように説明されているかを知るのはとても興味深く楽しいものです。</p> <p>経済学Aの授業では、ミクロ経済学を身につけることを目的とします。経済における私たちの身近な行動が、経済学ではどのように説明されているかに注目して勉強を進めていきましょう。</p> <p>【到達目標】 経済学に関する基礎的な知識を身につけます。2年生以降の経済学関連科目をスムーズに学べるように、経済学に対する抵抗力をつけます。また、経済に関する新聞記事が読みこなせるように取り組みます。</p>	
基礎科目	経済学B	<p>【科目の概要】 経済学Bの授業では、日本経済のようなまとまった形での経済に注目するマクロ経済学を学びます。どのような要素から経済は構成されているのか、経済全体を動かすことはできるのかに注目して勉強を進めます。私たちが活動している経済がどのように説明されているかを知るのはとても興味深く楽しいものです。</p> <p>経済学Bの授業では、マクロ経済学の基本的な説明を理解することを目的とします。日本のような経済がマクロ経済学ではどのように説明されているのかに注目して取り組んでいきましょう。</p> <p>【到達目標】 経済学に関する基礎的な知識を身につけます。2年生以降の経済学関連科目をスムーズに学べるように、経済学に対する抵抗力をつけます。また、経済に関する新聞記事が読みこなせるように取り組みます。</p>	
基礎科目	法学A	<p>【科目の概要】 基本的な概念の考察を行うとともに、主な法律についての具体的事例にそった解説により、いきた法を理解させることに努める。また、この法学Aの授業は春semester開講の半期科目であるが、秋に開講される法学Bと密接に関係しており、両者を連続して受講することを念頭において授業計画を作成している。</p> <p>【到達目標】 高度な専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身に付けることは勿論、良き社会人として法治国家の中で生活していくための法知識の修得を目標とする。</p>	
基礎科目	法学B	<p>【科目の概要】 基本的な概念の考察を行うとともに、主な法律についての具体的事例にそった解説により、いきた法を理解させることに努める。また、この法学Bの授業は秋semester開講の半期科目であるが、春に開講される法学Aと密接に関係しており、両講義を連続して受講することを念頭において授業計画を作成している。</p> <p>【到達目標】 高度な専門科目を学ぶために必要となる基礎学力を身に付けることは勿論、良き社会人として法治国家の中で生活していくための法知識の修得を目標とする。</p>	
基礎科目	キャリアデザイン①	<p>【科目の概要】 国際政治経済学部必修科目である本授業の概要、目的等は、以下の通り。</p> <p>①大学での学習の特徴、大学生活のコスト、本学の特色、社会から求められる各種の能力等を的確に理解する。</p> <p>②そのうえで、各自の大学等での目標設定やその実現に向けて必要な各種のノウハウやツール等の基本を習得する。</p> <p>③さらに、就職を取り巻く経済環境や採用状況等を把握したうえで、就職活動の流れやポイントを理解して、早期に先行きの職業選択等を自主的に行える基盤を作る。</p> <p>【到達目標】 ①授業での課題発表や就職時の面接等で必要な情報の収集・分析、プレゼンやグループディスカッションのポイントを身につける。</p> <p>②社会人として求められる基礎学力（国語力、計算力等）、一般常識力等の現状を把握し、今後のレベルアップに向けたノウハウ等を習得する。</p> <p>③他のキャリア関係科目（インターンシップ論、キャリアデザイン②～④）等の基礎となり、相乗効果が期待できる。</p>	

専門教養科目	海外社会事情ⅠA	<p>【科目の概要】 朝鮮半島の歴史を講義する。特に第2次世界大戦後の南北分断状況の継続に焦点を当て、韓国・北朝鮮の各国内事情と南北関係進展の経緯について学習する。</p> <p>【到達目標】 日本の隣国でありながら必ずしも日本との関係が良好とは言えない朝鮮半島の実情を客観的に理解できるようになること。主観的・独善的な解釈や先入観を排除し、信頼できる情報・データに基づいて冷静に現実を理解することのできる能力の獲得を目指す。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情ⅠB	<p>【科目の概要】 日韓関係・北朝鮮の時事問題に関心を持ち、内容や背景について正しく理解する。自分の意見を整理して発表できるように授業で練習する。自分と異なる意見について、その背景を知り、ひとつの事柄に対する意見の多様性について、理解を深める。</p> <p>【到達目標】 新聞報道で論じられている日韓問題について、韓国社会や日韓の歴史・政治関係の側面から正しく理解し、自分の言葉でまとめて発表する。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情ⅡA	<p>【科目の概要】 90年代以降の消費社会化を中心に、中国社会の変容を、日本のそれと詳しく比較対照しながら見ていく。他者理解の前提として、比較する主体である日本の事情の理解にも、多くの時間を割く。中国の昨今の動向や今後の動向など、不確定で証明不能な事柄については、一切取り上げない。</p> <p>【到達目標】 中国、日本の社会を実例として、自分たちが暮らす日常のさまざまな変化の意味を理解し、新たな状況下において主体的な判断を下せるようにする。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情ⅡB	<p>【科目の概要】 経済発展の著しい中国とは今後ますます交流する機会が増えていくが、日本と中国の文化背景の違いから、思いがけない誤解を生じてしまうことが往々にしてある。本講義では、中国人との交流に必要な教養としての中国常識を身につけるために、日中文化交流史、中国近現代史、現代中国社会問題などを学ぶ。</p> <p>【到達目標】 教養としての中国常識を身につけることによって中国人との円滑なコミュニケーションスキルを獲得する。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情ⅢA	<p>【科目の概要】 常に世界の注目を集める大国ロシア。この授業では、隣国でもあるロシアの今を政治体制・外交（特に日本との関係）・経済・社会という様々な視点から多面的に解説します。ロシアに関する時事的な話題も随時、取り上げてゆくつもりです。なお、歴史や文化に関する事柄は海外社会事情ⅢBで扱う予定です。</p> <p>【到達目標】 ロシアに関する基礎知識を身につけ、ロシアを扱った新聞・雑誌記事やニュースが理解できるようになること、さらには日本との事象比較ができるようになることが本講義の到達目標になります。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情ⅢB	<p>【科目の概要】 ソビエト連邦の成立と崩壊は、間違いなく20世紀最大の歴史的出来事のひとつにあげられるでしょう。ソ連邦崩壊から四半世紀を経た現在、ロシアは国際関係や国民経済のうえで様々な困難を抱えつつも、依然として世界の動向に強い影響を与え続けています。この授業では、そんなロシアの歴史と文化の一端を紹介しながら、その独特な社会の輪郭を探っていきます。</p> <p>【到達目標】 日本の隣国でありながら、ロシアについて一般に流通する情報は多くないのが現状です。歴史的、文化的事象を中心に、ロシアやロシア人の多様な姿をできるだけ広く紹介し、隣国ロシアに関する正確な知識を積みあげていきます。</p>	隔年開講

専門教養科目	海外社会事情IVA	<p>【科目の概要】 この授業では、現在EU（欧州連合）経済の牽引役を担っているドイツの現状を歴史、政治、経済、社会と生活という視点から解説する。その際、なるべく日常的な話題を取り上げながら、日本の事象との比較も行いたい。加えて、ビデオやDVDを活用し、ドイツのトピックスにも随時、触れてゆく予定である。</p> <p>【到達目標】 新聞や雑誌、ニュースで取り上げられるドイツに関する記事・ニュースが理解できるようになることが、授業の到達目標である。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情IVB	<p>【科目の概要】 この授業では先ず、日本人とドイツ人のコミュニケーション形式の違いを扱う。続いて、現在ドイツが抱えている諸問題を取り上げてゆく。具体的には、教育問題、外国人（難民）問題、環境問題・脱原発政策等である。ドイツの事例を学ぶことで自ずと日本との比較も可能となるであろう。ビデオやDVD等を活用し、ドイツに関するホット話題にも随時言及してゆく予定である。</p> <p>【到達目標】 新聞やテレビ・ラジオ等で取り上げられるドイツに関する記事・ニュースが、かなりの程度理解できるようになること、これがこの授業の到達目標である。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情VA	<p>【科目の概要】 本講義ではフランスの現況について解説する。フランスの全体像を、その歴史・文化・政治・経済・外交・社会といった多様な側面から浮き彫りにしてみたい。フランスに関する最新のトピックもできる限り授業内で取り上げてゆくつもりである。現在フランスが抱える最大の問題ともいえる移民問題は海外社会事情IVBで取り上げる予定である。</p> <p>【到達目標】 フランスに関する基礎知識を獲得し、フランスについて扱った記事やニュースが理解できるようになること、これが本講義の到達目標である。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情VB	<p>【科目の概要】 「ヨーロッパにおけるフランス」をテーマにした授業である。フランスおよびヨーロッパにおける人びとの「共生」のあり方（＝さまざまな人びとが違いを乗り越えつつ一つの社会の中で共に生きていくあり方）について、そして「共生」のあり方が直面している諸問題について学びながら、今日の日本社会がどのような形で「共生」を実現していけばよいのかを考えていく。</p> <p>【到達目標】 授業で得られた知識をもとに、今日の日本社会や周辺諸国で起きている諸問題について自分の考えを持つことができるようになる。そして将来にわたって思考するということを継続できるようになる。</p>	隔年開講
専門教養科目	海外社会事情VIA	<p>【科目の概要】 本講義では、現代アメリカの政治や社会が抱える問題の基礎について学びます。そのための材料として、関連するテーマを題材とした映画やドキュメンタリーなどを積極的に活用します。これらの映像を通してアメリカ社会を多面的に理解し、自分なりの考えを持てるようになることを目的とします。具体的には、人種問題、銃規制、メディア、戦争、外交などのテーマを取り上げ、いったい何が論争の焦点となっているのかを説明します。</p> <p>【到達目標】 知っているようで実は正確には知らない現代アメリカが抱えている政治、社会、文化的な問題を理解し、複合的な観点からアメリカを捉えることができるようになること。また本講義では、授業外での課題として映像に関する分析レポートを合計7本書いてもらいます。このレポート作成を通じて、実践的にレポートの書き方を学ぶことも主要な目的の一つです。</p>	隔年開講

専門教養科目	海外社会事情VIB	<p>【科目の概要】 本講義では、超大国アメリカと戦争の関係について学びます。そのための材料として、関連するテーマを題材とした映画やドキュメンタリーなどを積極的に活用します。これらの映像を通してアメリカが関わってきた戦争について多面的に理解し、自分なりの考えを持てるようになることを目的とします。具体的には、第二次世界大戦、冷戦、ベトナム戦争、イラク戦争、テロとの戦いなどのテーマを取り上げ、いったい何が論争の焦点となっているのかを説明します。</p> <p>【到達目標】 知っているようで実は正確には知らない現代アメリカが抱えている問題を理解し、複合的な観点からアメリカを捉えることができるようになること。また本講義では、授業外での課題として映像に関する分析レポートを合計7本書いてもらいます。このレポート作成を通じて、実践的にレポートの書き方を学ぶことも主要な目的の一つです。</p>	隔年開講
専門教養科目	社会の発展と科学A	<p>【科目の概要】 グローバルな話題であり、われわれ一人一人に関わる 이슈でもある地球温暖化問題。本講義ではこの問題を取り上げる。二酸化炭素の増加が温暖化の直接の原因なのか、あるいは他に原因はあるのだろうか？ この点を中心に地球温暖化現象を分かり易く説明する予定である。</p> <p>【到達目標】 地球温暖化に関する基礎知識を理解し、同時に、この問題を学びながら科学的・論理的思考を身につけ、他の分野の学びにもこの思考法を活用することができるようになること、これが本講義の到達目標である。</p>	
専門教養科目	社会の発展と科学B	<p>【科目の概要】 2011年3月11日に起こった東日本大震災は我々日本人にとって忘れることのできない出来事である。この社会的事象を科学という視点から改めて捉えなおしてみる、というのが本講義の内容である。具体的に言えば、地震・津波はどのようにして起こるのか、放射能、放射能汚染とは何か、を中心に学ぶ予定である。</p> <p>【到達目標】 基本的な科学的知識を身につけ、授業を通して学んだ科学的で論理的な思考法を他の分野の学習にも応用できるようにすることが本授業の到達目標となる。</p>	
専門教養科目	情報システム概論	<p>【科目の概要】 情報社会の今日、情報システムに関する知識は学生にとっても、社会人にとっても不可欠な要素と言えよう。本授業では、情報システムの意義と歴史を概観した後、情報システムの開発手順・設計技法・管理の手法・運用方法に関する知識と技術を広く学ぶ予定である。</p> <p>【到達目標】 情報システムやコンピュータ全般に関する基本的な知識と技術を身につけ、ITパスポート試験の頻出問題が解けるようになること、これが情報システム概論の到達目標である。</p>	
専門教養科目	日本史概論A	<p>【科目の概要】 本授業では、東アジアの国際状況の変化に留意しながら、古代から近代の出発点に位置づけられる幕末までの日本の歴史の変遷をたどる。また各時代で論点となっているテーマについても適宜紹介し、古代から幕末に至る時期の基礎知識の習得と、各時代の変化を構造的に理解することを旨とする。</p> <p>【到達目標】 歴史を多角的に捉え、考察できるようにする。現代の価値観で過去の歴史を評価するのではなく、その時代の価値観で理解する、つまり内在的に理解する姿勢を身につける。</p>	

専門教養科目	日本史概論B	<p>【科目の概要】 日本史概論Aでの学習を踏まえ、本授業では、明治維新から第二次世界大戦を経て、日本が高度経済成長を達成し世界有数の経済大国となった1970年代初頭に至るまでの歴史の変遷をたどる。その際、東アジアを中心とした国際状況の変化にも留意する。また近現代の経済・社会変化についても適宜取り上げるつもりである。</p> <p>【到達目標】 中学校社会科の歴史的分野を指導するうえで必要な日本史の近代～現代の各時代に対する基礎的知識を習得する。歴史を多角的に捉え、考察できるようにする。現代の価値観で過去の歴史を評価するのではなく、その時代の価値観で理解する、すなわち内在的に理解する姿勢を身につける。</p>	
専門教養科目	東洋史概論	<p>【科目の概要】 東洋史とは何かを、中国歴代王朝の政治体制と対外関係を中心に整理し、そこに展開されている中国と周辺諸国との関係、主に日本、朝鮮との関係を歴史的に見ていく。 これを通して、第1に今日の中国は歴史的に如何に形成されたのか、第2に中国と周辺諸国との関係が歴史的に如何に形成されたのか、第3に中国社会全体を歴史的に把握することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 まず東洋史が扱う範囲と時代区分などの基本知識を理解する。 次に中国史を中心とする東洋世界を理解することで、今日の中国とその対外関係が歴史的に如何に形成されたのかを考える力を身につける。また中国史を理解することを通して、日本史特に日中関係の歴史に対する複数の視点で客観的に捉える力を身につける。</p>	
専門教養科目	西洋史概論	<p>【科目の概要】 古代から現代にいたる西洋の歴史を概観する。便宜上、古代（第2～3講）・中世（第4～5講）・近世（第6～9講）・近代（第10～14講）という時代区分に従って講義を進める。各時代の政治・経済が、それぞれ特徴を持っていることを明らかにする。また、時代の転換をもたらした事象を検討し、現代との関連性について考察する。さらに、キリスト教と西洋世界の関係を歴史的に検討する。</p> <p>【到達目標】 西洋の歴史を理解する。政治・経済・宗教はそれぞれ独立しているわけではないので、それらの密接な関連性について理解を深めることも目標の一つである。</p>	
専門教養科目	地理学概論A	<p>【科目の概要】 今まで学んできた地理の基礎的知識を再確認するとともに、人文地理学の基本的な考え方を理解する能力を養う。ここでは、人文地理学の一分野である人口地理学と村落地理学を取り上げ、それらの分野にみられる諸問題について解説する。 「所変われば品変わる」といわれるように、地域によって異なる多様な生活様式を、自然現象や人文現象の諸要素のかかわりあいから捉える視点を理解できる能力を養う。</p> <p>【到達目標】 人文地理学の基本的な考え方を理解するとともに、ここで対象とした人口や村落に関する諸問題が生じた原因・理由を把握することを目的とする。</p>	
専門教養科目	地理学概論B	<p>【科目の概要】 地理学概論Aで学んできた地理の基礎的知識を再確認するとともに、人文地理学の基本的な考え方を理解する能力を養う。ここでは、人文地理学の主要な分野の1つであり、文化を研究対象とした文化地理学の諸問題について解説する。主として、前半では「文化生態」、後半では「民族」について考察する。 「所変われば品変わる」といわれるように、地域によって異なる多様な生活様式を、自然現象や人文現象の諸要素のかかわりあいから捉える視点を理解できる能力を養う。</p> <p>【到達目標】 人文地理学の基本的な考え方を理解するとともに、ここで対象とした環境や民族に関する諸問題が生じた原因・理由を把握することを目的とする。</p>	

専門教養科目	地誌学概論	<p>【科目の概要】 今まで学んできた諸地域に関する基礎的な知識を再確認するとともに、アジアを事例地として、地誌的な見方・考え方を身につける能力を養う。テーマは、「地域の変貌」であり、主な対象地域としてパングラデシュとマレーシアを予定している。 「所変われば品変わる」といわれるように、地域によって異なる多様な生活様式を、自然現象や人文現象の諸要素のかかわりあいから捉える視点を理解できる能力を養う。</p> <p>【到達目標】 地誌学の基本的な考え方を理解するとともに、ここで対象とした地域で見られる特色ある生活様式が生じた原因・理由を把握することを目的とする。</p>	
専門教養科目	社会学概論A	<p>【科目の概要】 本講義（社会学概論A）においては、社会学の歴史と主な理論的流派を解説する。近代社会の登場と共に出現した社会学は、近代的理性の運命を共有している。社会学は後発の社会科学として自らのアイデンティティを問われてきた。社会学は経験科学として発展してきた一方で、最近では社会のあり方だけでなく社会認識のあり方そのものにも批判的な目を向けてきた。本講義の目的は、現代社会の様々な現象を知的に読み解く力を養うことである。</p> <p>【到達目標】 社会学の専門的な理論と思考方法を身につけ、それを各人の問題意識によって様々な現実問題に応用しつつ、自分なりの表現で語るができるようになることが到達目標である。</p>	
専門教養科目	社会学概論B	<p>【科目の概要】 本講義（社会学概論B）では、社会学の理論と経験的適用について講義する。近代社会の登場と共に出現した社会学は、近代社会における様々な経験的問題に取り組んできた。社会学は経験科学として発展してきた。それは様々な社会問題の解決と将来社会の展望に役立たねばならない。本講義では、経験的な応用領域の若干を紹介する。望ましい社会のあり方を共に考えていきたい。</p> <p>【到達目標】 社会学の専門的な理論と思考方法を身につけ、それを各人の問題意識によって様々な現実問題に応用しつつ、自分なりの表現で語るができるようになることが到達目標である。</p>	
専門教養科目	哲学・倫理学概論A	<p>【科目の概要】 この講義では、デカルトの『方法序説』を読み解きながら「現実」という問題を考察する。現代は何が「リアル」かが分りにくい時代である。メディアの報じる現実を現実そのものと取り違えないよう日頃から注意する必要があるが、もう一歩掘り下げて考えるならば、そもそも本当の「現実」とは何か、どうすればそれが「本当」の現実だとわかるのか、という問題に行き着く。本講義で扱うのは、以下の3点である。①現実を能動的に把握することを学ぶ。②現代という時代の世界観の根本を把握する。③哲学史と哲学用語に関する基礎を理解する。</p> <p>【到達目標】 基礎的な哲学用語を理解すること、さらには情報に能動的にアクセスし、現実を的確に捉え、判断するための基礎を身につけること、少なくともその大切さを認識することがこの授業の到達目標である。</p>	
専門教養科目	哲学・倫理学概論B	<p>【科目の概要】 この講義では、テキストとしてベルグソン（1859～1941）の『時間と自由』を用いながら、哲学・倫理学概論Aに引き続いて「現実」という問題をさらに考察してゆく。哲学・倫理学概論Aと同様に、哲学史と哲学用語に関する知識をさらに学び、現代という時代の世界観の根本を把握し、現実を繊細かつ的確に把握することを学ぶ予定である。</p> <p>【到達目標】 基礎的な哲学用語を理解すること、さらには言葉や通念にとらわれずに、現実をその繊細さのままに的確に捉えられるようになること、少なくともそういうことに敏感になることが、本講義の到達目標である。</p>	
専門教養科目	宗教学概論A	<p>【科目の概要】 世界中で宗教に関係する紛争や問題が起こっている。なぜこのような紛争や問題が起こっているのか、本当に宗教が紛争の原因となっているのかを理解するには宗教を正しく理解する必要がある。そこで、本講義では宗教の基本的な知識を身につけることによって宗教を理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 宗教の基礎的な用語と古代宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教についてどのようなものであるかを理解することを到達目標とする。</p>	

専門教養科目	宗教学概論B	<p>【科目の概要】</p> <p>世界にはいろいろな文化、社会とともに宗教が存在する。その文化、社会、宗教によっていろいろな思想がある。そこで本講義では世界の民族宗教について理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>宗教が文化であり、いろいろな思想、考え方があることを理解することを目標とする。特に中国、インドの宗教を中心とし、日本にどのような影響があるのかを比較、認識することを到達目標とする。</p>	
専門教養科目	心理学概論A	<p>【科目の概要】</p> <p>心についての知見をもたらしている心理学という学問分野が、どのような発想や視点で私たちを理解しようと努めているのかを、隣接する学問分野の動向を踏まえて学習して行きます。</p> <p>この授業では、私たちの心や精神の働きについて何が分かっているのか、あるいは何が分かっているのかを知ることが目的となります。</p> <p>【到達目標】</p> <p>心理学についての基本的な用語や概念を取得し、心理学的な考え方を知ることが目標とします。</p>	
専門教養科目	心理学概論B	<p>【科目の概要】</p> <p>心理学概論Aで学んだ知識をもとに、引き続き、心についての知見をもたらしている心理学という学問分野が、どのような発想や視点で私たちを理解しようと努めているのかを、隣接する学問分野の動向を踏まえて学習して行きます。私たちの心や精神の働きについて何が分かっているのか、あるいは何が分かっているのかを継続的に取り上げます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>心理学についての基礎知識を習得し、心理学的な考え方を知ることが、本講義の到達目標とします。</p>	
専攻基礎科目	プラクティカルイングリッシュ	<p>【科目の概要】</p> <p>この授業では、英語で仕事をする際に必要とされる力の養成を目的とします。様々なビジネスシーンに対応するために、それらのビジネスシーンを想定しながら、必要な知識やスキルを学んで実践的な練習を行います。また、国際社会でビジネスパーソンとして活躍するために不可欠な心構えや姿勢を学び、英語を仕事で使用する意識と意欲を高めます。将来を見据えて様々な活動や課題に能動的に取り組むことにより、実際に英語を適切且つ効果的に使うことができる力を養います。</p> <p>【到達目標】</p> <p>それぞれのビジネスシーンにおける仕事の目的や内容を把握し、その中でビジネスパーソンとして求められていることやすべきことを的確に判断することができる。様々なビジネスシーンに、授業で学んだ知識やスキルなどを活かして対応することができる。仕事の目的を達成するためにはどのように英語を使用すべきかを意識しながら、それぞれのビジネスシーンにおいて適切且つ効果的に英語を使うことができる。</p>	
専攻基礎科目	経営管理論A	<p>【科目の概要】</p> <p>経営管理論は、企業が効率的に利潤を生み出すために、いかに人や組織を管理するかに関する学問です。この授業ではまず経営管理に関する諸理論を事例研究とともに学びながら、経営管理の基礎知識を習得します。経営管理の手法は日々進歩していますので、最新のテーマや時事的な話題をできる限り取り上げてゆく予定です。</p> <p>【到達目標】</p> <p>経営管理論の基礎知識を身につけ、新聞や経営誌の関連記事が理解できるようになり、将来、企業等の組織に入ったときに自分がなすべきことをイメージできるようにすることが本講義の到達目標です。</p>	
専攻基礎科目	経営管理論B	<p>【科目の概要】</p> <p>経営管理論Aで学んだ知識や理論をもとに、この授業では企業の実践的事例に触れながら、様々な現実の経営現象や経営管理についてさらに深く学びます。国際化と経営管理も取り扱う予定です。経営管理の手法は日々進歩しているので、随時、最新のテーマや時事的な話題にも言及してゆきます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>経営関連の新聞や雑誌の記事が理解でき、将来、企業に入ったときに自立した社会人となれるように、経営管理に関する総合的な知識を習得することがこの講義の到達目標となります。</p>	

専攻基礎科目	ビジネス統計学A	<p>【科目の概要】</p> <p>コンサルタント経験を有する教員から出される例題を繰り返し解くことによって、実際のビジネス現場におけるデータの利用について学ぶ。受講生は、基本的な統計学の知識に基づき、エクセルを用いて実践的なビジネスデータを理解し、操作し、処理するための能力を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>受講者は、将来の社会人生活に必要な能力として、膨大なデータの中から必要な情報を取り出し、有為な結論を導き出すための方法を身につける。</p>	
専攻基礎科目	ビジネス統計学B	<p>【科目の概要】</p> <p>実際のビジネス現場におけるデータの利用について、前期に引き続きコンサルタント経験を有する教員が出題する例題を繰り返し解くことによって学ぶが、後期はより実践的な課題に取り組む。また、前期の個人での作業と異なり、グループの協働による問題解決作業に取り組んでいく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>受講者は、将来の社会人生活に必要な能力として、より実践的な課題の解決に必要な情報を、膨大なデータの中から取り出し、最適な解決策を導き出すための方法を身につける。</p>	
専攻基礎科目	企業法A	<p>【科目の概要】</p> <p>講義では、企業活動に関わる法を広く学ぶことになる。企業活動を支える法として、民法・商法・会社法などの基礎となる法を理解することから始め、最終的には実社会で活用できる法知識を修得することができるよう、実践的内容も織り込んでゆく。理論を学ぶのは勿論、実際の企業活動をつねに意識しながら講義を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業の経済活動に対して、それを規律するする法がどのように機能しているのかを理解する。そして、現代企業社会の中で生きるために必要な、企業法知識の獲得を最終的な到達目標とする。</p>	
専攻基礎科目	企業法B	<p>【科目の概要】</p> <p>講義では、企業法Aの講義を発展させながら、企業活動に関わる法を広く学ぶことになる。企業活動を支える法として、民法・商法・会社法などの基礎となる法を理解することから始め、最終的には実社会で活用できる法知識を修得することができるよう、実践的内容も織り込んでゆく。理論を学ぶのは勿論、実際の企業活動をつねに意識しながら講義を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業の経済活動に対して、それを規律するする法がどのように機能しているのかを理解する。そして、現代企業社会の中で生きるために必要な、企業法知識の獲得を最終的な到達目標とする。</p>	
専攻基礎科目	簿記A	<p>【科目の概要】</p> <p>簿記・会計を初めて学ぶ人の入門クラスである。簿記を学ぶ意義や処理の仕方の基礎を身につけ、簡単な財務諸表を作成できる能力を養う。理解を深めるために演習を行う。また、英語による授業を取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>グローバルに活躍できる人材に必要な能力の理解。簡単な財務諸表を作成できる能力を養うことを目的とする。BATICに対応できる基礎能力養成を目的とする。</p>	
専攻基礎科目	簿記B	<p>【科目の概要】</p> <p>簿記・会計を初めて学ぶ人の入門クラスである。簿記を学ぶ意義や処理の仕方の基礎を身につけ、簡単な財務諸表を作成できる能力を養う。理解を深めるために演習を行う。また、英語による授業を取り入れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>グローバルに活躍できる人材に必要な能力の理解。簡単な財務諸表を作成できる能力を養うことを目的とする。BATICに対応できる基礎能力養成を目的とする。</p>	

専攻基礎科目	マーケティング概論A	<p>【科目の概要】</p> <p>マーケティングに関する基礎的な知識を修得することを目的とする。企業や事業体は、社会に価値あるものを提供し、その対価として利益を得て継続的に存続している。実社会と密接に結びついた現場の学問なので事例を出しながら説明を行う。幅広く知識を修得できるように、身近な話題を入れながら分かりやすく説明する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解するとともに、社会の中で実践されているマーケティング活動を理論と結びつけて理解できるようにする。</p>	
専攻基礎科目	マーケティング概論B	<p>【科目の概要】</p> <p>マーケティング概論Aを発展させ、マーケティングに関する知識をさらに深めていく。企業や事業体は、社会に価値あるものを提供し、その対価として利益を得て継続的に存続している。実社会と密接に結びついた現場の学問なので事例を出しながら説明を行う。幅広く知識を修得できるように、身近な話題を入れながら分かりやすく説明する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解するとともに、社会の中で実践されているマーケティング活動を理論と結びつけて理解できるようにする。</p>	
専攻基礎科目	ゲーム理論	<p>【科目の概要】</p> <p>経営戦略に必要な交渉・契約・入札などに特化した戦略分析の基礎を講義する。ゲーム理論と情報の経済学を用いて戦略的な意思決定のプロセスを理解し、ビジネスの問題を戦略的思考で分析するための基礎を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ビジネスの現場に必要な戦略的意思決定のプロセスを理解し、交渉や契約の策定、組織の形成など多くのビジネスの現場で登場する問題に共通した特徴を押さえて分析ができることを目標とする。</p>	
専攻基礎科目	キャリアマネジメント I	<p>【科目の概要】</p> <p>協力企業（業界を代表する2社）の実務担当社員が、所属企業の実務に基づいた課題を提示し、それを受けた受講生が問題の所在の解明、解決策の検討、企画の提案などにグループで取り組む課題解決型学習。最終的にはチームで考えた解決策についてプレゼンする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>グループで協働して課題に取り組むことで、社会人として必要な協調性を身につけることを目標とする。また、課題の解決に最適な解決策に到達するための論理的思考力を身につけさせる。効果的なプレゼン方法についても習得する。</p>	
専攻発展科目	マーケットデザイン	<p>【科目の概要】</p> <p>制度を与えられたものとするのではなく、一から創るものとするマーケットデザインを解説する。マーケットデザインは、ゲーム理論を基礎とした新しい分野であり、実際的な制度設計を念頭に置いた最先端の経済学に触れることを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>オークションとマッチングについての基本的な考え方を理解し、実際の制度設計を考える際の基礎を身につけることを目標とする。</p>	
専攻発展科目	会社法A	<p>【科目の概要】</p> <p>株式会社は少額の資本を拠出する多数の投資家がまとまり、大きな資本を得て事業を行うための仕組みといえますが、会社法Aでは、株式会社に対する資本の拠出と有限責任をテーマとして、株式会社の設立、株式、募集株式発行、剰余金の分配などを学習します。それぞれの局面で、どのような問題点があり、誰を、どのように保護すべく会社法の規律が設けられているかを考察します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>事業を主宰、経営するのに必要な資金調達に関する理解を得て、株式会社の資本と有限責任に関する知識を身につけます。</p>	

専攻発展科目	会社法B	<p>【科目の概要】 株式会社は投資家が出資し、プロフェッショナルな経営者により経営されるといいう仕組みです。会社法Bでは、株式会社の経営機構をテーマとして、会社の機関の職務、権限、責任などを学習します。株式会社がどのように経営され、どのように監督されているか、資本を拠出している株主の権利はどのように行使されているのか、取引先やその他の利害関係者はどのように保護されているかなどについて、具体的な事例に触れながら考察します。</p> <p>【到達目標】 株式会社の経営機構に関する知識を身につけ、株式会社での業務執行と監督、その責任についての理解を深めることを目標とします。</p>	
専攻発展科目	国際関係論A	<p>【科目の概要】 現在の国際関係を理解する上で必要となる国際関係理論、それらの理論の源流となった歴史を理解する。特に安全保障上の諸概念と具体的な歴史上の事例をリンクして学ぶことで、国際社会における実際の問題点と解決策を知る。</p> <p>【到達目標】 国際社会で日常的に生じている事象に様々な媒体を通じて触れ、講義で示された諸概念を用いて自らの頭で理解し、今後の動向をも予測できるような能力を身につける。それを将来のビジネスに役立てる。</p>	
専攻発展科目	国際関係論B	<p>【科目の概要】 国際社会における様々な出来事の経済的側面を理解する。特に経済制裁、経済援助政策など、その政策が経済分野のみならず安全保障にも影響を与える事象について、豊富な具体例を提示することによって学ぶ。</p> <p>【到達目標】 国際社会における経済的側面の重要性に目を向け、日常的に生じ報道されている国際問題をより多面的な視角で理解する能力を身につける。もって将来のグローバル人材として国際社会で活躍できるような能力の習得を目指す。</p>	
専攻発展科目	経営戦略論A	<p>【科目の概要】 企業は経営資源を最大限に活用し、収益獲得のために市場にアプローチしています。経営戦略論Aの講義では、経営資源の確保、維持、最大化という要素を踏まえ、戦略策定のプロセス、ポートフォリオ・マネジメントなど経営戦略の基礎を学びます。さらに、事例を分析し、同業種・異業種と比較評価することにより、収益獲得に向けた経営戦略を具体的に学習していきます。</p> <p>【到達目標】 経営戦略に関する知識を身につけることにより、自ら想定した目標に対して的確な戦略策定ができるようになることがこの講義の到達目標です。</p>	
専攻発展科目	経営戦略論B	<p>【科目の概要】 経営戦略論Bの講義では、経営戦略の立案、実行、評価する組織マネジメントを学びます。戦略的経営を概観した後、市場への新規参入、業務提携・資本提携、さらには国内外でのM&A戦略など、発展的な経営戦略を学習します。業種の特長や企業規模を活かした経営戦略の立案とその実行、この過程での問題点を洗い出し、講義参加者の討論を通じて、最適な経営戦略を導き出していきます。</p> <p>【到達目標】 組織マネジメントを身につけることにより、社会人としてプロジェクトの立案、実行、評価をすることができるようになることを目標とします。</p>	
専攻発展科目	市場戦略論A	<p>【科目の概要】 企業は市場を研究し、市場との対話を通じて、収益を獲得すべく活動しています。市場戦略論Aの講義では、企業を取り巻く外部環境の分析、その分析に基づく行動戦略を学びます。企業の具体的な市場戦略を取り上げ、ビジネスモデルの検討、相違を検討し、さらには、企業のブランドイメージの向上について考察していきます。</p> <p>【到達目標】 市場戦略におけるアプローチを身につけること、さらに、ビジネスモデルを構築して評価することができるようになることを目標とします。</p>	

専攻発展科目	市場戦略論B	<p>【科目の概要】 国土、気候、習慣、経済規模、同業種・異業種との競争の存在など、様々な要因から、国内での市場戦略と海外での市場戦略は、大きく異なっています。市場戦略論Bの講義では、海外における外部環境の分析、そしてそこから構築される市場戦略を学びます。具体的に日本から海外に進出した企業の市場戦略を取り上げ、進出国でのビジネスモデルを分析し評価してみます。</p> <p>【到達目標】 海外での市場開拓や市場拡大を企画し、構築することができる市場戦略構築力を身につけることが本講義の到達目標です。</p>	
専攻発展科目	経営組織論A	<p>【科目の概要】 経営組織論Aの講義では、企業において経営者がどのように企業組織をデザインするのかを明らかにしていきます。企業の事業分野、人材や能力に適した組織を構築するための仕組みづくり、環境の変化に対応した組織変革のための仕組みづくりを学びます。また、構築された経営組織がなぜ硬直化してしまうのかなど、具体的な事例をあげて考察していきます。</p> <p>【到達目標】 組織をどのように構築すれば企業の成長力を促すことができるのかを理解し、経営組織全般についての知識を深めることがこの講義の到達目標です。</p>	
専攻発展科目	経営組織論B	<p>【科目の概要】 経営組織論Bの講義では、組織としての行動に着目して経営組織を学んでいきます。企業収益を向上させる原動力は組織を構成する人です。組織行動、組織と動機付け、組織でのコミュニケーション、リーダーシップ、インセンティブ、ダイバーシティなど、様々な観点から経営組織を考察します。また、大企業と中小企業、日本企業と海外企業との経営組織の差異についても考えていきます。</p> <p>【到達目標】 経営組織を学ぶことにより、社会の様々な局面で効果的な組織づくりができ、リーダーシップを発揮できる能力を身につけることが、本講義の到達目標です。</p>	
専攻発展科目	経営実践A	<p>【科目の概要】 協力企業13社の経営者を招いてそれぞれの企業・業界の概要、今後の業界動向予測について説明してもらった後、今後の取るべき企業戦略について各受講者に議論してもらう予定である。</p> <p>【到達目標】 様々な業界についての知識を習得し、企業経営の実務に触れることによって社長目線で物事を考えることを身につける。さらに、その経験を自らの就職活動に役立てられるようにする。</p>	
専攻発展科目	経営実践B	<p>【科目の概要】 大手メガバンク・大手証券会社からの派遣講師による金融業理解のための授業。お金の様々な働きを理解し、企業・家計における実践的な課題の解決を通じて、ファイナンス業務の基礎と手法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 金融業界で働くための基本的な知識を身につけることを目標とする。また、金融面における企業・家計の現状を分析し課題を明らかにすることで、現実には生じる課題を解決するために必要な様々なスキルを身につけることを狙う。</p>	
専攻発展科目	流通システム論A	<p>【科目の概要】 流通システム論Aで扱うのは、普段は消費者の目に触れることの少ない、生産と消費との間に介在する流通の仕組みです。まず流通システムの現状について具体的事例をあげて説明し、流通システムの構造、その歴史的発展に関する理論的な枠組みを解説しながら、流通システムに関する基本的概念全般を学んでゆくことになります。</p> <p>【到達目標】 流通とは何かを理解し、流通システムを分析するための基本的概念を習得すること、さらには社会人としてビジネスに携わったときに活用できる基礎知識を習得することが本講義の到達目標になります。</p>	

専攻発展科目	流通システム論B	<p>【科目の概要】 流通システム論Aで学んだ基礎知識や理論をもとに、本講義では、日本の流通システムの現状とその主要な構造変化の側面を実際の企業の実例をあげて説明します。そして流通システムの今後の方向性を展望し、さらには流通システムの国際化についても学ぶ予定です。</p> <p>【到達目標】 本講義の到達目標は、流通システムに関する基本概念を理解し、その分析力を養うこと、さらには、社会人となってビジネスに携わったときに活用できる実践的な知識を習得することになります。</p>	
専攻発展科目	国際ビジネス論A	<p>【科目の概要】 世界的に活動する有力企業についてのケーススタディを通して国際ビジネスにおける問題点を学ぶ。特に現在では国際的な事業展開が当たり前であること、その際に必要となる管理・運営、拡張プロセスについて豊富な実例に基づいて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 国際社会における文化的・制度的多様性に目を向け、その中で活躍する多国籍企業の強みについて理解することを目指す。多国籍企業が乗り越えるべき課題とその解決策について身につけることを目指す。</p>	
専攻発展科目	国際ビジネス論B	<p>【科目の概要】 日本企業の国際的展開について、有力企業のケーススタディを通じて、多くの企業が直面する問題点について学ぶ。さらに技術集約的な日本企業によるクロスボーダーM&Aに関する戦略について検討する。</p> <p>【到達目標】 日本企業が国際展開する際に必要とされるグローバル人材について認識し、自らがそうした人材となるように努力するためのきっかけを与える。とりわけ世界の異文化を理解し、日本とは異なる制度のもとでも十分に活躍できる人材となることを目指す。</p>	
専攻発展科目	ファイナンスA	<p>【科目の概要】 ファイナンスAでは、金融・証券市場の基礎概念を学んだ後、証券の現在価値、債券・株式の基本的な分析手法について説明する。金融資産と不確実性との関係の重要性を強調しながら、株式と債券の基礎を解説していく。キャッシュフローや金利の考え方まで、ファイナンス理論を理解する上での重要な概念を分かり易く説明するつもりである。ポートフォリオ理論を学ぶ上で最低限必要となる統計や数学についても取り上げる予定である。</p> <p>【到達目標】 ポートフォリオ理論を学ぶ上で最低限必要となる統計、数学について理解することが、この授業の到達目標である。</p>	
専攻発展科目	ファイナンスB	<p>【科目の概要】 ファイナンスBでは、ポートフォリオ理論の初歩的な解説を行う。リスクとリターンとの関係の重要性に触れ、CAPMなどファイナンス理論の基本を理解する上で必要となる基礎知識を解説する。さらにデリバティブ取引、特にオプション価格の設定について、無裁定価格理論の考え方を援用しながら説明する。こうした基礎学習の実践も取り入れ、計測や数値計算の基礎的な手法としてコンピューターによる実習も行う予定である。</p> <p>【到達目標】 デリバティブ取引のしくみと無裁定価格理論の考え方を理解することがこの講義の到達目標である。</p>	
専攻発展科目	ビジネス法特別講義A	<p>【科目の概要】 ビジネス法特別講義Aは、株式会社の資金調達の手法と規律をより深く学びたい学生のための講義です。資金調達の手法は、デット・ファイナンスとエクイティ・ファイナンスに大別されます。前者に関しては、コーポレート・ファイナンス、アセット・ファイナンス、プロジェクト・ファイナンスにつき、担保権や倒産隔離などを含め、実務的な視点から融資手法を学習します。後者については、募集株式発行での実務的な問題点を検討するとともに、資本市場での規律である金融商品取引法も学びます。</p> <p>【到達目標】 株式会社でのさまざまな資金調達の手法と規律を理解し、社会人として実務に対応する基礎力を身につけることを目標とします。</p>	

専攻発展科目	ビジネス法特別講義B	<p>【科目の概要】</p> <p>ビジネス法特別講義Bは、株式会社の事業継続が困難な局面となったときに、債務縮減の観点から、再生手法とその規律をより深く学びたい学生のための講義です。まず、倒産法制を概観した後、法的整理として会社更生法・民事再生法を学びます。さらに、私的整理に使われるさまざまな法律や制度を学習し、再生時の問題点とその解決手法を考察します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>株式会社の債務縮減の手法と規律を理解し、企業救済実務に対応する基礎力を身につけることを目標とします。</p>	
専攻発展科目	キャリアマネジメントⅡ	<p>【科目の概要】</p> <p>協力企業（千代田区：特に秋葉原などを営業対象区域とする企業）の提示する課題に対して、受講生がグループを形成し協働して課題解決に取り組むPBL型授業。地元企業とのコラボレーションを通じて地域の抱える課題の解決という現実の問題に取り組む。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業との実践的な接触を通じて社会・企業への関心を高める。リーダーシップやチームワークといった社会人として必要な基礎力を身につける。将来の社会的・職業的自立に向けての意識を高め就職活動に向かう。</p>	
専攻発展科目	ベンチャービジネス論(起業家論)	<p>【科目の概要】</p> <p>本講義では、ベンチャービジネスとはどういうものか、その特徴は何かから始めて、起業のための基礎知識、起業に必要な経済・経営・会計の実践的で具体的な知識を中心に取り上げます。実際の多様な事例に触れながら、起業やベンチャービジネスの経営に関する基礎知識を幅広く学んでゆきます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>ベンチャービジネスに関する基本的な知識を身につけ、あわせてベンチャー企業も含めた企業活動全般に関する理解度を深めることをこの講義の到達目標とします。</p>	
専攻発展科目	英語で学ぶ経営学A	<p>【科目の概要】</p> <p>英語で書かれた経営学の基本的な概説書を輪読し、重要論点について主に英語を用いて質疑応答することで、経営学の基礎を学ぶとともに経営学に関して英語での会話能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>これまで日本語で学んできた経営学の基礎を英語で復習することによって知識の定着を図る。さらに将来のビジネスにおいて必要となる英語能力の涵養を図る。特に英語でビジネスを行う際に、英語での発信に躊躇しない態度を形成することを狙いとする。</p>	
専攻発展科目	英語で学ぶ経営学B	<p>【科目の概要】</p> <p>Financial Times, Wall Street Journalなどの英字紙の企業経営に関する記事を輪読し、論旨について主に英語で質疑応答することで、企業の経営戦略を学ぶとともに英語での会話能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>リアルタイムの企業経営に関する情報に敏感となることを目指す。日本語のみならず英語による情報収集能力を高めることで、より早く、より多い情報を身につける習慣を獲得する。またそうした情報を英語で他者とやりとりする際に積極的な態度を示せるような人材を育成することを狙う。</p>	
専攻発展科目	英語で学ぶ経済学A	<p>【科目の概要】</p> <p>英語で書かれた経済学の基本的な概説書を輪読し、重要論点について主に英語を用いて質疑応答することで、経済学の基礎を学ぶとともに経営学に関して英語での会話能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>これまで日本語で学んできた経済学の基礎を英語で復習することによって知識の定着を図る。さらに将来のビジネスにおいて必要となる英語能力の涵養を図る。特に英語でビジネスを行う際に、英語での発信に躊躇しない態度を形成することを狙いとする。</p>	

専攻発展科目	英語で学ぶ経済学B	<p>【科目の概要】 Financial Times, Wall Street Journalなどの英字紙の世界経済に関する記事を輪読し、論旨について主に英語で質疑応答することで、世界経済の現実を学ぶとともに英語で考え議論する。</p> <p>【到達目標】 リアルタイムの世界経済に関する情報に敏感となることを目指す。日本語のみならず英語による情報収集能力を高めることで、より早く、より多い情報を身につける習慣を獲得する。またそうした情報を英語で他者とやりとりする際に積極的な態度を示せるような人材を育成することを狙う。</p>	
専攻発展科目	フィールドワーク論A	<p>【科目の概要】 現実の社会における経済現場では経済学の理論だけでは説明できない事態も生じている。現実社会における様々な要因が存在しているために、一見理解不能なものと思えることがある。それを現場に踏み入って実態を調査し、理解することを目指すのがフィールドワークである。本講義では社会を調査する方法の基礎を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 理論で全てを押し量るのではなく、現場に踏み入って真実に接近する必要性を理解すること。また、その方法を身につけること。特に現地調査前の事前準備・調査と、調査対象者とのコミュにケーションの方法について体得する。</p>	
専攻発展科目	フィールドワーク論B	<p>【科目の概要】 ヒアリング調査、現地調査などフィールドワークについて学ぶ。フィールドワークの歴史、事例、方法を学んだ上で、グループワークを通じてフィールドワークの実践に向けた計画書を作成し、実施し、研究分野にフィードバックする。</p> <p>【到達目標】 フィールドワークの歴史、事例、方法について理解し、国際協力やビジネスにおける興味分野についてフィールドワークのテーマを設定し、実践するための技法の習得を目指す。フィールドワークを体験し、研究分野にフィードバックする。</p>	
専攻発展科目	簿記演習	<p>【科目の概要】 日商簿記2級及び1級試験合格を目指し、夏季休暇中の集中講義において、基本的知識の習得の上に実際に出題された問題を繰り返し解く。資格取得に向けて実践的な能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 日商簿記2級の取得を基本として、将来的には1級の取得をも目指す。講義終了後には実際の資格試験を受験し合格を狙う。それにより会計専門の社会人として必要となる、各種取引の会計処理についてのスキルを身につけることを目標とする。</p>	
専攻発展科目	民法演習	<p>【科目の概要】 宅地建物取引士合格に必要な知識を資格取得に特化した外部講師が講義する。民法の原則から理解し、不動産関連の法律の知識を身につける。実際の過去問を繰り返し解き、解説をよく理解する。</p> <p>【到達目標】 宅地建物取引士資格の取得を目指し、主に過去問の分析・理解を中心に演習を繰り返す。将来、不動産関連、金融関連の仕事につくことを目指す。講義終了後には実際の資格試験を受験し合格を狙う。</p>	
専攻発展科目	商品開発論	<p>【科目の概要】 お菓子メーカー、おもちゃメーカーの業界を代表する企業の商品開発担当者をお招きし、少子化が進む日本におけるお菓子及びおもちゃ商品開発の可能性をグループワークを通じて考える。</p> <p>【到達目標】 商品開発が開発者の独善ではなく消費者のニーズにマッチしたものでなくてはならないことを理解する。グループごとに魅力ある商品開発を競い、他社との差別化・消費者への訴求力が重要であることを会得する。</p>	

専攻発展科目	広告戦略論	<p>【科目の概要】 現代の経営において商品・サービスの販売は、その商品・販売の広告と切り離すことはできない。逆に消費者の側としても認知できない商品・サービスを購入することはありえない。そこで本講義ではマーケティングと広告の関係を実際の企業行動の実例を紹介することで説明する。</p> <p>【到達目標】 現代の消費者行動において広告がどれだけ大きな位置を占めているかを理解する。次にどのような広告が消費者の消費意欲を喚起することができるかを理解する。</p>	
専攻発展科目	スポーツマネジメント	<p>【科目の概要】 スポーツのプロチーム運営経験者の話を聞き、今日、一大ビジネスとして存在しているスポーツ業界の実態についての理解を深める。またスポーツビジネスが宣伝。広告と密接な関係を有していることを説明する。</p> <p>【到達目標】 スポーツが単なる趣味ではなくビジネスとして成立していることを理解する。観ることがすること以上に消費者の購買意欲を掻き立て、感動を消費するビジネスが成立していることを理解する。</p>	
専攻発展科目	観光ビジネス論	<p>【科目の概要】 観光をビジネスを、テーマパーク・旅行代理店・宿泊業・交通産業などの分野別に、その代表的企業・業界動向・企業戦略などについて学ぶ。また、レジャーに対する消費者の意識・価値観について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 受講生は自らの旅行・テーマパーク・宿泊などの経験を、学習した理論的分析に照らし合わせることで、消費者の観光に対する姿勢を理解することを目指す。</p>	
専攻発展科目	消費者心理分析	<p>【科目の概要】 消費者の消費行動を実際の現場経験を通じて理解する。その際、各受講生が従事しているアルバイト経験などを、講師との問答を通じて掘り下げることで、自分の身近に生きた教材があることを理解し、日常の経験を経験則へと昇華させるように仕向ける。</p> <p>【到達目標】 自らの日常の経験からでも消費者心理を理解することができることを理解する。身近な事例から消費者行動を理論化する可能性についての興味を喚起し、日常の生活における感受性を高める。</p>	
専攻発展科目	ビジネスアイデア論	<p>【科目の概要】 5～6人のグループに分かれ、実際の企業における商品開発部門の社員から提示された課題についてアイデアを出し合い、その優劣を競う。</p> <p>【到達目標】 商品開発にはアイデアが重要であることを理解する。また思いつきを商品の形とするためにはチームワークを生かした多角的な検討が必要であることを体得する。将来、自分が経済社会で仕事をする上での協働の重要性を理解する。</p>	
専攻発展科目	ブランド・マネジメント	<p>【科目の概要】 企業のブランド価値が、その企業の商品・サービスの売り上げに対して持つ意義を定量的・定性的に理解する。友人や同級生に対するアンケートを通じてブランドイメージを調査し、企業イメージと企業業績の相関関係について理解する。</p> <p>【到達目標】 消費者が実際の商品・サービスの価値を厳密に評価しているのではなく、かなりの比率でブランドイメージに消費行動を左右されていることを理解する。さらにブランドイメージを向上させるために何が必要かについて理解する。</p>	

専攻発展科目	健康・医療ビジネス論	<p>【科目の概要】 高齡化が進む日本においてシニア層をターゲットにしたビジネス、特に長寿・健康・アンチエイジング市場が急拡大していることを知る。また医薬品市場の拡大可能性、予防医療市場の可能性についての知識を与える。</p> <p>【到達目標】 受講生の身の回りにも増えている高齡者の生活実態から、そのニーズについて考える姿勢を身につける。またビジネスチャンスは高齡者の暮らしやすさ、負担軽減といった、高齡者への思いやりといった発想から生じることを理解する。</p>	
専攻発展科目	イングリッシュセミナー	<p>【科目の概要】 この授業では、英語による自己発信能力とコミュニケーション能力の養成を目的とします。学生主体のセミナー形式をとり、各学生が自分で選んだ研究題目について一貫して取り組み、最終的には英語でレポートにまとめます。その過程では、ディスカッション、中間報告、最終発表などを行います。このような活動を通して、クラスメートや教員と意見交換をし、フィードバックを得ることによって、自分の研究題目に関する学びを英語で深めていきます。</p> <p>【到達目標】 授業で学んだことを活かして、ディスカッション、中間報告、最終発表、レポートなどに英語で取り組むことができる。中間報告や最終発表などの口頭発表では、分かりやすく、説得力のある発表をすることができる。ディスカッションや口頭発表後の質疑応答では、クラスメートと建設的にコミュニケーションをとることができる。レポートでは、研究結果を踏まえて、自分の見解や考察を論理的に述べることができる。</p>	
学部共通科目	マクロ経済学入門A	<p>【科目の概要】 マクロ経済学入門Aの授業では、日本経済のようなまとまった形での経済に注目するマクロ経済学を学びます。1年次の経済学Bでは、どのように経済は構成されているのか、経済全体を動かすことはできるのかに注目して、私たちの経済活動がマクロ経済学ではどのように説明されているかを見ました。この授業では、その内容を掘り下げ、専門的な分析に取り組みます。マクロ経済学入門Aの授業では、言葉、数式、グラフによる幅広い説明により、マクロ経済学のおもしろさを感じられるようになることが目的です。</p> <p>【到達目標】 マクロ経済学の専門的なアプローチを身につけることができます。また、公務員試験の問題を解ける力が身につきます。</p>	
学部共通科目	マクロ経済学入門B	<p>【科目の概要】 マクロ経済学入門Bの授業では、日本経済のようなまとまった形での経済に注目するマクロ経済学を学びます。1年次の経済学Bでは、どのように経済は構成されているのか、経済全体を動かすことはできるのかに注目して、私たちの経済活動がマクロ経済学ではどのように説明されているかを見ました。この授業では、その内容を掘り下げ、専門的な分析に取り組みます。マクロ経済学入門Bの授業では、インフレ、失業、経済成長に関する理論を身につけ、経済政策、国際マクロ経済学の基礎を理解することを目的とします。</p> <p>【到達目標】 マクロ経済学の専門的なアプローチを身につけることができます。また、公務員試験の問題を解ける力が身につきます。</p>	
学部共通科目	ミクロ経済学入門A	<p>【科目の概要】 ミクロ経済学シークエンスの「初級」レベルに相当する本講義では、経済行動の基本にある「制約付き最適化」の(1)制約の逼迫度を反映した「機会費用」の概念、及び(2)選択の微調整をガイドする「限界原理」を使い熟せるようにする。さらに、特定の個別市場を抽出した「部分均衡」のコンテキストで、社会的に最善な選択は、消費者・企業といった経済主体の最適選択を、相反する経済インセンティブ毎に類型化して、平衡させる「市場の需給原理」により、分権的に実現されることを理解する。</p> <p>【到達目標】 さまざまな経済問題を、事態の変化前後の市場均衡を比較し、その原因を市場需給のシフトに帰着させる「比較静学」を駆使して分析する習慣を身につける。その際、2変数の特殊ケースで可能となるグラフを用いた推論を習得し、“A picture is worth a thousand words.”を実践する。</p>	

学部共通科目	ミクロ経済学入門B	<p>【科目の概要】 ミクロ経済学入門Aに続いて、ミクロ経済学における経済主体の行動様式を基礎づける、意思決定理論を講義する。経済学だけでなく、心理学や生物学などの研究成果を取り入れながら、合理的意思決定とは何か、いつどのような条件のもとで「合理性」から逸脱するのかを理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 消費者選択、不確実性下の意思決定、社会的選択、戦略的意思決定、効用と幸福度などを考察することにより、さまざまな経済・政治・社会問題を解決する際のより良い意思決定方法を探求することを目標とする。</p>	
学部共通科目	東アジアの政治と経済 I	<p>【科目の概要】 日本を含む東アジア地域の安全保障問題・経済問題・社会問題を紹介し、東アジアがどのような特徴を持つ地域なのかを理解する。また、東アジア諸国が近年どのような変動を経て発展してきたかについての基礎的な知識を身につける。さらに現在進行中の地域秩序の変容過程において、重要な要素は何なのかについて、自分の頭で考えられるようになること。</p> <p>【到達目標】 東アジアにはどのような国／地域があるのか、そこで現在どのようなことが起きているのか、また今後どのような発展が見込まれるのかについて自分の考えを持てるようになること。その際、各国の経済力、軍事力などの客観的指標を分析し、具体的な数値に裏付けられた考えが形成できるアプローチを習得すること。</p>	
学部共通科目	民法 I A	<p>【科目の概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法であって、人の共同生活上のルールとなり、紛争解決のための規準となるものであり、日常生活において最も基本的かつ重要な法である。民法の中心をなす民法典は5編から成っているが、本講義では、総則を中心に、必要に応じて財産法（物権法、債権法）全般を解説する。私法の一般法である民法を理解することは、今後の社会生活を送るにあたって必要なことであるので、財産法に関する基本的知識の養成を目的とする。</p> <p>【到達目標】 民法を学ぶことによって、日常生活上の紛争の予防や紛争の解決のための能力を身につけることを目標とし、各種国家試験や資格試験のための出発点としたい。</p>	
学部共通科目	民法 I B	<p>【科目の概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法であって、共同生活のルールとなり、紛争解決の規準となるものであり、日常生活において最も基本的かつ重要な法である。民法典中物権編、債権編を中心に、現代における財産に関する法の仕組みを解説する。私法の一般法である民法を理解することは、今後の社会生活を送るにあたって必要なことであるので、財産法に関する基本的知識の養成を目的とする。</p> <p>【到達目標】 民法を学ぶことによって、日常生活上の紛争の予防や紛争の解決のための能力を身につけることを目標とし、各種国家試験や資格試験のための出発点としたい。</p>	
学部共通科目	国際経営論A	<p>【科目の概要】 グローバルな経営を行っている日本企業を中心に、今日抱えている経営上の諸問題を平易に解説し、国際経営に関する基礎知識を習得する。企業経営の実態を理解してもらうために、具体的事例を数多く取り上げる。折にふれて、新聞・TV等で報道される経済トピックを受講する学生諸君と討論できればと思う。国際的な企業の活動に焦点をあてる。企業がいかんにしてグローバルな競争に打ち勝っているのか、その戦略の一端を学ぶことによって、企業活動の実態を知る。</p> <p>【到達目標】 今日企業が抱えている経営上の諸問題を理解すると同時に現在も後遺症の残る金融危機、ユーロ信用不安、円安・株高を現出しているアベノミクスの背景、企業活動への影響等に対して理解を深める。</p>	

学部共通科目	国際経営論B	<p>【科目の概要】 グローバルな経営を行なっている日本企業を中心に、今日抱えている経営上の諸問題を平易に解説し、国際経営に関する基礎知識を習得する。具体的な事例を数多く取り上げ、理解を深めてもらう。Bでは特に、最近企業戦略としてとられているM&A(企業の合併・買収)に時間をかける。経営者の熱い思い、企業活動のダイナミズムの一端を理解して欲しい。企業統治、CSR、リスクへの対応等企業の今日的課題も取り上げる。</p> <p>【到達目標】 厳しい経営環境を理解するとともに、日本を代表する企業の事例研究から、経営者の思い、企業活動のダイナミズムを理解する。TVニュース、新聞等で報道される経済、企業経営の動向を少しでも理解できるようになることを目標とする。</p>	
学部共通科目	経済発展論A	<p>【科目の概要】 発展途上にある国家が経済的に発展するプロセスについて学ぶ。経済発展を遂げた国がある一方で、貧困から脱することのできない国があるという現実を目撃しながら、経済発展に関する理論、手法、政策を学ぶ。本講義では、主に発展途上国が抱えている開発問題、貧困のメカニズムについて取り上げる予定である。</p> <p>【到達目標】 開発途上国がどのような開発問題を有しているのかを理解し、経済発展に関する基本的な知識・理論を得ることを本講義の目標とする。</p>	
学部共通科目	経済発展論B	<p>【科目の概要】 発展途上にある国家が経済的に発展するプロセスについて、経済発展論Aで学んだ知識をもとに継続的に学ぶ。経済発展論Bでは主として経済発展に関する経済学の理論、手法、政策について取り上げながら、経済発展のメカニズムを解明し、発展をもたらす政策とはどういうものかを探求してみたい。</p> <p>【到達目標】 開発途上国が抱える諸問題を理解し、経済発展に関する経済学の理論、手法、政策について総合的な知識を獲得することが本授業の到達目標である。</p>	
学部共通科目	国際貿易論A	<p>【科目の概要】 国際貿易論Aの授業では、主として外国との貿易に関する理論を身につけることを目標とします。現代は、外国との取引として、商品やサービスだけではなく、通貨の取引も多く行われており、人や技術も活発に移動するようになってきています。この「経済のグローバル化」を経済学の視点から勉強していきましょう。</p> <p>外国との貿易を行うのはなぜでしょうか、また、自国と外国との間で人やお金、技術が移動するのはなぜでしょうか。この授業では、これらの問題の解答を見出すことを目的とします。</p> <p>【到達目標】 国際貿易の理論を習得することができます。また、国際貿易や貿易政策に関する新聞記事が身近に感じられるようになります。</p>	
学部共通科目	国際貿易論B	<p>【科目の概要】 国際貿易論Bの授業では、戦略的貿易政策、直接投資、技術革新に関する理論、国際貿易ルールに関する知識を身につけていきます。</p> <p>各国が戦略的に貿易政策をとるのはなぜでしょうか。直接投資にはどのような効果があるのでしょうか。国際的な貿易ルールはなぜ必要なのでしょう。この授業では、これらの問題の解答を見出すことを目的とします。</p> <p>【到達目標】 国際貿易の理論を習得することができます。また、貿易政策や直接投資、国際貿易ルールに関する新聞記事が身近に感じられるようになります。</p>	

学部共通科目	海外直接投資論A	<p>【科目の概要】 日米欧先進国やアジア等新興国の多国籍企業が、現代の世界経済の発展を主導しています。多国籍企業が海外で事業を行うための資金の流れが海外直接投資です。海外直接投資論Aでは、多国籍企業が海外直接投資を通じて海外事業を行い、世界経済に大きな影響を与えるプロセスを、様々な理論・仮説を踏まえ、多面的に解明します。海外直接投資は、資本・技術・人的資源の包括的な移動を伴う強力な国際事業活動です。企業の競争力のみならず国の競争力をも左右します。その本質に迫ることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 多国籍企業の海外直接投資と海外事業展開の重要性を、貿易との対比で把握するとともに、それが世界経済に及ぼす様々な影響についての理解を深めることを目標とします。具体的には、投資と貿易の動向の把握に加えて、海外直接投資についての理論・仮説を十分理解すること、また、現代の日本経済および世界経済に及ぼす影響の大きさについても認識すること。</p>	
学部共通科目	海外直接投資論B	<p>【科目の概要】 海外直接投資論Bでは、多国籍企業の海外直接投資及び海外事業展開が、投資の出し手国（投資母国）及び投資の受け手国（投資受入国）に及ぼす経済的効果を検討します。近年の新興国の台頭（南北間格差の収斂）は、先進国多国籍企業による新興国への大規模直接投資がなければ実現しなかったといっても過言ではありません。何故このような状況が生じたか、また、新興国の高度成長と投資母国である先進国の繁栄との、いわばウイン・ウイン関係はどうすれば構築できるか、これらを解明することを目的とします。</p> <p>【到達目標】 多国籍企業の海外直接投資と海外事業展開には、当該企業自身の競争力に及ぼす大きな影響に加え、投資母国及び投資受入国の経済・産業・企業に及ぼす多面的な影響があることを正確に認識すること、および、これを踏まえたうえで、上記の投資母国および投資受入国のウイン・ウイン関係を達成するために必要な、適切な政策対応とは何かについて、深い洞察力を涵養することが目標です。</p>	
学部共通科目	国際経済論A	<p>【科目の概要】 世界金融経済危機からの回復、ユーロ危機、急速な円高と最近の円安、新興国の台頭と減速等、激変する世界経済と日本経済の実態を、標準的な貿易理論（リカード・モデル、ヘクシャー・オリー・モデル等）、貿易と直接投資の理論（ヘルプマン・クルグマン・モデル等）に基づき、わかりやすく解説し、理解してもらうのが狙いです。</p> <p>【到達目標】 代表的な貿易理論や直接投資の理論・仮説の基本的な考え方を十分に理解し、国際経済政策の効果についての理解等の応用力を身につけること、および、貿易統計及び直接投資統計等から日本と世界の国際経済取引の実態と、その根底にある歴史的構造変化を洞察する力を養うこと。</p>	
学部共通科目	国際経済論B	<p>【科目の概要】 世界中で取引される国際的な資金の額は、世界全体の貿易額やGDPをはるかに凌ぎます。極端なインフレ、デフレを招くことなく、また国際収支危機・対外債務危機に陥ることなく、世界各国が完全雇用を達成し、持続的な成長を実現するためには、こうした巨額の国際資金移動の動向を考慮した適切な財政・金融政策と国際政策協調が必要になります。そうした考え方の基本を学びます。</p> <p>【到達目標】 国際的資金フローの動向、経常黒字国と経常赤字国の国際的不均衡、外国為替市場のメカニズム、IS-LM分析とマンデルフレミングモデル、利子平価条件・アセットアプローチ及びこれを踏まえたAA-DD-XX分析、これらモデルにおける固定相場制及び変動相場制の下での財政・金融政策の効果、ポートフォリオ・バランス・アプローチ等の十分な理解と応用。</p>	

学部共通科目	国際金融論A	<p>【科目の概要】 現代の国際金融論は経済のグローバル化（モノ）につれて加速する金融のグローバル化（カネ）を背景により複雑化しています。またその理解には金融経済事象について国ごとや地域経済との事情も含めたグローバルな視点が必要となります。本講義では国際金融論が現代的に直面する課題について理論・実践の両面で考えます。なお授業においては海外の情報やデータソースへのアクセスしながら進めるため英語文献も参考資料として利用します。</p> <p>【到達目標】 日々報道される国際金融の現象を理解するために必要な用語、考え、分析方法を習得すること。とくにデータソースの確認しながら理解を進めてゆくことを目標とする。</p>	
専攻発展科目	国際金融論B	<p>【科目の概要】 現代の国際金融論は経済のグローバル化（モノ）につれて加速する金融のグローバル化（カネ）を背景により複雑化しています。またその理解には金融経済事象について国ごとや地域経済との事情も含めたグローバルな視点が必要となります。本講義では国際金融論が現代的に直面する課題について実践的なデータを用いて説明していきます。特に為替変動野外的ショックが一国の経済パフォーマンスに及ぼす影響を考えます。また、英語文献も参考資料として利用します。</p> <p>【到達目標】 日々報道される為替変動などの国際金融の現象を理解するために必要な用語、考え、分析方法を習得すること。とくにデータソースの確認しながら理解を進めてゆくことを目標とする。</p>	
学部共通科目	税法A	<p>【科目の概要】 税法を初めて学ぶ人のための入門クラスである。わが国の租税制度においては、原則として、個人であれ法人であれ第一次的に納税者自らが課税標準および税額を計算し、自ら申告し納付しなければならない、という申告納税制度を採用していることから、当然に税法を理解していることが要求される。税法を学ぶにあたり租税の意義、税法学の概念、そして最も重要な原則である租税法主義等の基本原理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 租税国家である我が国の租税制度の仕組みについて、憲法論・納税者の視点から理解できるようにする。</p>	
学部共通科目	税法B	<p>【科目の概要】 租税国家においては、人々は何らかの形で租税とかかわりを持っている。税法Aで学んだ知識をさらに深めるべく、所得税法、法人税法、消費税法、相続税法、租税手続き法の基礎を学ぶ。さらに租税に関する法的諸問題について、何が問題で、どういう税制が望ましいかを検討することで、税法への理解をすすめる。</p> <p>【到達目標】 租税に関する法的諸問題を検討し、税により関心を持ち、主権者としてどのような税制が望ましいかを考える。</p>	
学部共通科目	知的財産権法A	<p>【科目の概要】 講義を通じて、知的財産権の役割、仕組み、種類およびその特徴を学習する。知的財産法のコンセプトをはじめ、その保護の枠組みと内容等を平易に解説する。</p> <p>【到達目標】 知的財産法の基本的枠組み（総論的）を理解すること。</p>	
学部共通科目	知的財産権法B	<p>【科目の概要】 映像教材を使用しながらの講義。個別テーマによって学生による発表・報告または議論を行う。インターネットの普及と情報デジタル化によって、著作権に対する関心が高まる一方、誤った認識も生まれている。著作権は、そもそも何を対象とし、どんな内容の権利なのだろうか。本科目は、この素朴な質問に対し、分かりやすく回答することを目的とする。授業を通じて学生諸君がみずから考え、問題意識を養うことに重点を置く。著作権とは何か、この素朴な質問に対し、映像教材も取り入れて平易に解説する。</p> <p>【到達目標】 著作権保護の基本的枠組み（各論的）を理解すること。</p>	

学部共通科目	国際取引法A	<p>【科目の概要】 経済のグローバル化に伴い、企業の取引活動は、国内にとどまらず国際的なものとなっています。こうした企業の国際的な取引で生じる法的な問題を扱うのが国際取引法です。ビジネスの場面で起こる実際のケースや具体例を多く取り上げ、国際的な企業活動に関する様々なルールを説明していきます。</p> <p>【到達目標】 国際取引法の基礎を学び、国際取引に関するルールの内容を理解することを目標とします。具体的には、企業の国際的な取引活動は実際どのように行われているのか、それらに関して、国際的なルールや各国の法律はどのような内容を定めているのか、について理解を含める。</p>	
学部共通科目	国際取引法B	<p>【科目の概要】 世界的に統一された「国際取引法」のない現状、準拠法の考え方について学びます。その後、国際取引契約の事実上の国際標準となっている英米法において、契約の成立、当事者の権利義務、契約不履行等がどのように取り扱われているかを、英米の裁判例を参照しながら学びます。</p> <p>【到達目標】 国際取引の現場に臨んだ時、事実関係を基に法的にものを考え、自分なりの意見をもち判断を行う事ができるようになる。</p>	
学部共通科目	民法ⅡA	<p>【科目の概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法であって、人の共同生活上のルールとなり、紛争解決のための規準となるものであり、日常生活において最も基本的かつ重要な法である。民法典中第4編親族を中心に戸籍法等の特別法も含めて、現代における家族に関する法の仕組みを解説する。私法の一般法である民法―特に家族法―を理解することは、今後の社会生活を送るにあたって必要なことであるので、家族法に関する基本的知識の養成を目的とする。</p> <p>【到達目標】 民法を学ぶことによって、日常生活上の紛争の予防や紛争の解決のための能力を身につけることを目標とし、各種国家試験や資格試験のための出発点としたい。</p>	
学部共通科目	民法ⅡB	<p>【科目の概要】 民法は、市民社会における人対人の間に生ずる権利義務関係を規律する法であって、人の共同生活上のルールとなり、紛争解決のための規準となるものであり、日常生活において最も基本的かつ重要な法である。民法典中第5編相続を中心に戸籍法等を含む、現代における家族に関する法の仕組みを解説する。私法の一般法である民法―特に家族法―を理解することは、今後の社会生活を送るにあたって必要なことであるので、家族法に関する基本的知識の養成を目的とする。</p> <p>【到達目標】 民法を学ぶことによって、日常生活上の紛争の予防や紛争の解決のための能力を身につけることを目標とし、各種国家試験や資格試験のための出発点としたい。</p>	
学部共通科目	経営の理論・実務A	<p>【科目の概要】 日本経済の原動力ともいえる企業の実態を理論的に分析し、ますますグローバル化する企業の本質や日本企業が抱える様々な課題等を取り上げる。具体的には、企業とはなにか、企業経営の基本について、多くの実例をあげながら学んでゆく。授業内容の理解の一助とするために、経済や産業に関する最新の話題にもできる限り触れるつもりである。</p> <p>【到達目標】 経済や産業に関する日々のニュースに頻出する基本的な用語、理論等を理解し、企業経営についての基礎的な知識を習得することが、この授業の到達目標である。</p>	
学部共通科目	経営の理論・実務B	<p>【科目の概要】 この講義では、経営の理論・実務Aで学んだ知識を土台にして、企業の実態や企業経営、日本の企業が抱える諸問題についてさらに深く学んでゆく。経営の理論・実務Bでは、企業を分析する力を身につけるために、企業戦略や人事管理等についても取り上げる予定である。企業経営に関する最新の話題にもできるだけ言及したい。</p> <p>【到達目標】 経済や産業に関するニュースに頻出する基本的な用語や理論等を理解し、企業人としての基盤ともいえる企業分析力や企業経営に関する幅広い知識を身につけることが、この授業の到達目標になる。</p>	

学部共通科目	財務会計論A	<p>【科目の概要】 当講座では、ビジネスの言語とも形容される財務会計に関する基本的な用語を取り上げて平易に説明する。具体的には、財務諸表がどのような考え方・基準に基づいて作成されているのか、そして企業の活動はどのように財務諸表に反映されているのかを、実際の財務諸表を参考にしながら学んでゆく。理解の手助けとなるように、財務会計およびその周辺分野に関する最新のニュースにも随時触れる予定である。</p> <p>【到達目標】 財務会計に関する基礎的な知識を学んで、財務諸表の読み取り方の基礎を身につけることが当講座の到達目標である。</p>	
学部共通科目	財務会計論B	<p>【科目の概要】 財務会計論Aで学んだ知識をもとに、財務会計に関する理解をさらに深めてゆく。本講座で主として学ぶのは、実際の財務諸表を取り上げて、財務諸表の中の会計数値から、会社の企業活動や業績、さらには経営状況をどのように読み取るかである。授業内容の理解を確かなものにするために、この分野に関する時事的話題にも適宜言及するつもりである。</p> <p>【到達目標】 財務諸表に関する基礎知識を理解し、会社の財務諸表を読んでその会社の活動や業績、経営状況がある程度分かるようになることが、本講座の到達目標である。</p>	
学部共通科目	ビジネスIT・I A	<p>【科目の概要】 IT利用はビジネス界では自明の理であり、ITの利用は企業に対し、業務内容の迅速化・高度化を促し、さらには新事業、新産業を創出するものでもあります。この授業では、ITの現状や関連分野にみられる様々な問題点、およびその解決策を探っていきます。ビジネス界で必要とされるデータ・情報の分析といった基礎知識を幅広く学ぶ予定です。</p> <p>【到達目標】 この分野の基礎的な知識を身につけるとともに、情報の分析、とりわけ定量・定性的な分析方法を習得することがこの科目の到達目標です。</p>	
学部共通科目	ビジネスIT・I B	<p>【科目の概要】 ビジネス界ではIT利用が日常茶飯事に行われている。ITの利用が企業をはじめとする組織体などにとって新事業、コスト削減、高度化さらに、新産業への創出にヒントを与える。特に、ITの現状や関連分野の問題点とその解決、また、その解決のための情報分析と様々な意思決定等を学びます。</p> <p>ビジネス界で必要とされる具体的なデータ・情報を定量的に分析し、意思決定に活かせるような方法を学び、活用すること。</p> <p>【到達目標】 実際の企業活動の分析に必要なデータ解析能力を高めることを目標とします。</p>	
学部共通科目	ビジネスIT・II A	<p>【科目の概要】 デジタルな文房具といわれるPCの基礎的な使い方や簡単な背景に関して、ビジネスの文脈で取り上げる初心者向けのクラスとなります。学内での活動や就職活動の場面において、最低限知っておいた方がよいマナーやルールそしてPCの活用法に関して紹介します。</p> <p>【到達目標】 効率的に情報を収集し、処理し、相手に伝達するにあたり、最低限必要となる操作やマナーを習得します。実際に情報を入力し、咀嚼し、資料にまとめる過程を通じてそれらを使える技術とします。</p>	
学部共通科目	ビジネスIT・II B	<p>【科目の概要】 学内での活動やビジネスの活動はインターネットによって大きく支えられています。</p> <p>秋学期ではインターネットの社会への普及がどのような要因によって促進されたのか。現在、当たり前に使われている検索エンジンがどのような仕組みで動いているのか。社会インフラとしてのインターネットとそれらを利用する人々の活動のメカニズムをプラットフォームという概念から考え、理解することを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ビジネスや学内での活動において役立つ、インターネットが浸透した経緯に関する基礎的な知識、インターネット上のビジネスの要となるプラットフォームの概念を習得します。</p> <p>また、検索ワードから浮かび上がるトレンドをグーグルの機能を活用することで分析します。</p>	

学部共通科目	データ処理演習①	<p>【科目の概要】 現代社会は、数学的な考え方、数学的处理を必要とする場面に満ちている。本授業では、主に演習を通して、小学校高学年から中学校、高等学校初年程度までの数学について、これまでに学んだ順序にとらわれず、基礎に戻りつつ数学的な考え方・概念に対する統一的理解を深め、データ処理能力を高める。</p> <p>【到達目標】 基礎的な数学的な考え方や概念を理解し、社会における様々な場面で数学的に考え、処理する基礎的能力を身につける。</p>	
学部共通科目	地域研究 I	<p>【科目の概要】 グローバル化、IT革命などによって世界的に共通した情報が得られるようになり、国境がなくなっている。しかし、世界は多くの地域から成り立っていることを認識し、理解する必要がある。そこで本講義では、近年の経済成長とともにさまざまな社会問題がニュースとなっているインドについて、歴史、社会、文化、宗教、政治、経済などを広く学び、インドに関する知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 インドに関するニュースの背景となる歴史、社会、文化などを理解することができるようになること。</p>	
学部共通科目	地域研究 II	<p>【科目の概要】 本講義で扱うのは、日本人にはあまりなじみのないラテンアメリカ地域です。広大なこの中南米地域を政治・経済・文化・歴史といった様々な角度から多角的に解説し、その全体像をつかみたいと思っています。ラテンアメリカ諸国が抱えている社会的な諸問題にも適宜、触れる予定です。</p> <p>【到達目標】 ラテンアメリカに対する理解を深め、この地域と日本を含めた世界との関係性についての相対的な考察ができるようになることがこの授業の到達目標です。</p>	
学部共通科目	地域研究 III	<p>【科目の概要】 統合・拡大の進むEU（欧州連合）に1990年代以降多くの国々が加盟した東欧地域を取り上げ、同地域の現在に至る歴史的背景、東欧地域の多様性について知識を豊かにし理解を深める。統合の進むヨーロッパ地域が近現代に経験した紛争、東西冷戦期を背景として形成されていることを理解すること。授業は基本的に近現代を中心に時間軸に沿って行うが、テーマ講義を通じてとくに東欧地域の社会的、文化的特徴にも言及する。</p> <p>【到達目標】 EU統合の歴史的背景や東欧地域の近現代ヨーロッパにおける位置について、東欧近現代史の知見を獲得することによって理解を深めることができる。</p>	
学部共通科目	地域研究 IV	<p>【科目の概要】 この授業で学ぶのは、良い意味でも悪い意味でも常に世界の注目を集める超大国・中国である。最初に、現代中国を知るために必要となる中国近現代史を詳しく学ぶ。次に、今の中国が抱えている社会的諸問題について具体的に取り上げて説明する。日本との関係についても随時、触れながら、多面的な中国の全体像を描き出してみたい。</p> <p>【到達目標】 中国現代史に関する基礎的な知識を身につけ、今の中国が内包する諸問題を理解する。そして日本を含めたアジア、さらには世界の中での中国という視点を獲得することがこの授業の到達目標である。</p>	
学部共通科目	地域研究 V	<p>【科目の概要】 現在のヨーロッパの政治・経済・社会を理解するために、ヨーロッパ連合（EU）について知ることの重要性は年を追うごとに高まっています。この講義ではEUという、しばしば'sui generis'（独特の）と形容される政治システムについて歴史・制度・政策等の多角的な観点から論じ、その理解に基づいて現在のEU・ヨーロッパ統合が直面する諸課題について解説を行います。</p> <p>【到達目標】 この講義の目的は2つです。ひとつは受講者がヨーロッパ統合の史的展開、およびEUの政治制度、政策についての基礎的な知識を習得すること。もうひとつはEUの直面する課題について政治・経済・社会的な文脈を含めて論じることを通じ、EUを越えたヨーロッパ社会の現在についての理解を深めてもらうことです。</p>	

学部共通科目	東アジアの政治と経済Ⅱ	<p>【科目の概要】 基礎ゼミ、政治学、国際関係入門、経済学、法学で学ぶ基礎的学修（1年次で習得）に加え、3～4年次のゼミナール等の科目を理解する一助とするとともに、企業等で業務を円滑に推進していくために必要な東アジアの政治と経済の実態、これら諸国における政治、経済の基礎的・実証的知識などについて講義を行う。具体的には日中韓等の政治、経済、環境問題などについて、基礎的な知識を身に付け、これらを基に、自分なりの意見を持ち、自分の言葉で説明することが出来る知識・能力を養うこと。</p> <p>【到達目標】 グローバル化、知識基盤社会化が進む東アジア社会の動きや役割、これに関連した新聞、報道の内容について理解し、これらの事項に関して知識を深め、自分の意見を言うことが出来る能力を身に付けさせ、3～4年次の専門領域であるゼミナールや専攻発展科目等の学修の理解の基礎固めを行う。</p>	
学部共通科目	ビジネスIT・ⅢA	<p>【科目の概要】 情報システムは社会にパラダイムシフトを促し続けてきました。その価値を一言で表すならば、様々な主体がネットワークにつながることで可能となる、社会全体でオープンなソリューションを提供する仕組みを実現させたことと言えます。春学期では、主にモジュール化という設計思想に焦点を当てて、情報システムを活用することで、どのように社会的な課題に対して、ソリューションが提供されたかをビジネスの文脈で考えます。</p> <p>【到達目標】 まず、モジュール化という設計思想を習得します。その上で、組織の現在の状況を分析することで「課題解決」を計画します。 「情報の収集・分析」→「コンセプトを形にする」プロセスと発表の訓練を行います。</p>	
学部共通科目	ビジネスIT・ⅢB	<p>【科目の概要】 情報システムは社会にパラダイムシフトを促し続けてきました。その価値を一言で表すならば、様々な主体がネットワークにつながることで可能となる、社会全体でオープンなソリューションを提供する仕組みを実現させたことと言えます。秋学期では、主に地域社会における問題解決の道具としての情報システム焦点を当てます。情報システムによるソリューションがどのように提供されてきたのか、これからどのような変化が起こりうるのかを事例に即して考えます。</p> <p>【到達目標】 地域を題材にして情報システムを利用した「問題の認識⇒解決」を思考実験することを試みます。システム思考マップを用いて、可視化のしにくい現象をモデル化（目に見える形）し、整理する力を身に付けることが目標です。その上で、「情報の収集・分析」→「コンセプトを形にする」プロセスと発表の訓練を行います。</p>	
学部共通科目	ビジネスIT・ⅣA	<p>【科目の概要】 情報通信機器の社会への普及に伴い、ビジネスの在り方は大きく変化しました。企業の変化、消費者の変化、企業と消費者の関係性のあり方の変化。こういった変化に対して、春学期では特に“価格”に着目して経営戦略を探っていきます。特にネットワークを前提とするコンテンツの消費においては“無料”が大きな意味を持ちます。“無料”がどのようなメカニズムにより成立しているのかを中心に、やさしい経営学の知識を用いて価格戦略を紐解くことを目的とします。</p> <p>【到達目標】 ネットワークが浸透したことにより顕著になった無料ビジネスの背後にある価格戦略を中心に取り上げます。その際、身近な事例を取り上げ、ビジネスモデルを図示することで、自らの力で現象の背後にある因果関係を明らかにすることを狙います。経営戦略の知識を身につけることが狙いです。</p>	

学部共通科目	ビジネスIT・IVB	<p>【科目の概要】 情報通信機器の社会への普及に伴い、ビジネスの在り方は大きく変化しました。秋学期では特にインターネットの利用を前提とする“企業と消費者の関係性のあり方の変化”を中心に取り上げます。ネット上には、冷酷なまでの経済的な合理性追求の世界がある反面、非経済的な動機に基づく、価値創造のコミュニティが存在します。秋学期ではそのような従来とは異なる企業と消費者の関係性を中心に、やさしい経営学の理論を使って、どのような法則によりそれらが成り立つのかを紐解くことを目的とします。</p> <p>【到達目標】 インターネット上の人々の活動における誘因や動機づけの構造を理解することが狙いです。同時に商品进行分析し提案を企画することでマーケティングの基本的な考え方を身に付けることを目的とします。</p>	
学部共通科目	データ処理演習②	<p>【科目の概要】 現代社会は、数学的な考え方、数学的处理を必要とする場面に満ちている。本授業では、主に演習を通して、中学校から、高等学校、大学初年程度までの数学について、これまでに学んだ順序にとらわれず、基礎に戻りつつ数学的な考え方・概念に対する統一的理解を深め、データ処理能力を高める。</p> <p>【到達目標】 基礎的な数学的な考え方や概念を理解し、社会における様々な場面で数学的に考え、処理する基礎的能力を身につける。</p>	
学部共通科目	TOEFL	<p>【科目の概要】 The purpose of this class is to know about the TOEFL Test (iBT), to acquire test-taking strategies, to expand vocabulary knowledge, and to understand features in English through reading articles or listening dialogues at academic levels.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to acquire English skills at academic levels, to know the style of TOEFL(iBT), and to improve their TOEFL scores through various exercises.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、TOEFL Test (iBT)の受験対策を行います。英語圏の高等教育機関レベルの文章を読み、会話を聞くことにより、語彙を増やし、英語の言語知識や言語使用に関して理解を深めます。</p> <p>【到達目標】 TOEFL(iBT)のテスト形式を把握し、英語圏の高等教育機関レベルで必要とされる英語の知識やスキルを学び、様々な活動に取り組むことによってスコアを向上させることができる。</p>	
学部共通科目	Cross-Cultural Communication	<p>【科目の概要】 This course helps students understand various cultural patterns without having any prejudices and stereotypes, and enhance communication skills in English as a member of global communities.</p> <p>【到達目標】 The students will be able to hold other cultures in high regard and understand those values, and will be able to express their own ideas about them with objective views.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、グローバル社会の一員として、偏見や固定観念にとらわれることなく様々な文化を理解し、コミュニケーション能力を高めることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 他文化を尊重し、それらの価値観を理解し、客観的な視点からそれらに対して自分の意見を述べることができる。</p>	

学部共通科目	Academic Writing	<p>【科目の概要】 This course aims to improve students' English writing in academic contexts. Students will learn knowledge and skills essential for effective academic writing.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to use knowledge and skills about writing according to types of writing. Students will be able to demonstrate accuracy and fluency in their English writing.</p> <p>《和訳》</p> <p>【科目の概要】 この授業では、アカデミックなライティング力の向上を目的とします。効果的なアカデミックライティングに必要な知識とスキルを学びます。</p> <p>【到達目標】 ライティングの種類に応じて、適切にライティングの知識とスキルを活かすことができる。指定された分量を正確に書くことができる。</p>	
学部共通科目	Academic Reading	<p>【科目の概要】 This course is designed to improve students' English reading proficiency in academic contexts. Students will be equipped with knowledge and skills necessary for proficient academic reading.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to use knowledge and skills for academic reading according to types of reading. Students will be able to demonstrate accuracy and fluency in their reading.</p> <p>《和訳》</p> <p>【科目の概要】 この授業では、アカデミックなリーディング力の向上を目的とします。効果的なアカデミックリーディングに必要な知識とスキルを学びます。</p> <p>【到達目標】 リーディングの種類に応じて、適切にリーディングの知識とスキルを活かすことができる。指定された時間内で正確に読むことができる。</p>	
学部共通科目	Business Writing	<p>【科目の概要】 This course deals with basic writing skills in business scenes. The students will practice those skills through a variety of univariate activities.</p> <p>【到達目標】 You will be able to establish and maintain basic interactions in situations such as business meetings, business email, job hunting, and business proposals.</p> <p>《和訳》</p> <p>【科目の概要】 この授業では、主に、ビジネスシーンで必要とされる書く力の養成を目指します。ビジネスシーンを想定したコミュニケーション活動を行います。</p> <p>【到達目標】 会議、メール、就職活動、企画書作成といったビジネスシーンにおいて、適切にインタラクションをとることができる。</p>	

学部共通科目	Business Communication	<p>【科目の概要】 This course deals with basic communication skills in business scenes. The students will practice those skills through a variety of communicative activities.</p> <p>【到達目標】 You will be able to establish and maintain basic interactions in situations such as business meetings, job interviews, phone calls, and trouble shooting.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、主に、ビジネスシーンで必要とされるコミュニケーション能力の養成を目指します。ビジネスシーンを想定したコミュニケーション活動を行います。</p> <p>【到達目標】 会議、面接、電話、トラブルシューティングといったビジネスシーンにおいて、適切にインタラクションをとることができる。</p>	
学部共通科目	Discussion	<p>【科目の概要】 This course aims to develop students' English proficiency and communication skills in discussions. Students will learn knowledge and skills necessary to hold effective discussion in English in various situations.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to employ the English knowledge and skills necessary to hold effective discussions in English in various situations.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、主にディスカッションにおけるコミュニケーション能力の養成を目的とします。様々な場面において、効果的なディスカッションをするために必要な英語の知識とスキル学びます。</p> <p>【到達目標】 効果的なディスカッションをするために必要な英語の知識とスキルを活かして、ディスカッションをすることができる。</p>	
学部共通科目	Advanced TOEIC	<p>【科目の概要】 The purposes of this course are to enhance students' listening and reading ability in practical English, such as daily conversation and commercial English, and to improve their TOEIC scores. Students will learn practical English knowledge and skills.</p> <p>【到達目標】 Students will be equipped with practical English knowledge and skills. Students will be able to use this effectively in the TOEIC test to improve their scores.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、TOEICで扱われる様々な場面におけるリスニングとリーディングの力を養成することを目的とします。TOEICの点数を向上させるために、実践的な英語の知識やスキルを学びます。</p> <p>【到達目標】 実践的な英語の知識やスキルを学び、それらをTOEICの受験の際に活かすことができる。</p>	

学部共通科目	Media English	<p>【科目の概要】 In this class, students will read and discuss articles focusing on current topics in the media (such as newspapers). The students will make presentations on topics of their interest.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to read and discuss current issues in English. They will develop their ideas and express them in the form of essays.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、新聞といったような情報媒体を用いて時事的問題に関する記事を読み、その内容について話し合います。自分で興味があるトピックを選び、発表をします。</p> <p>【到達目標】 時事的問題に関する記事を読み、その内容について話し合うことができる。自分の見解を形成し、英語で書いてまとめることができる。</p>	
学部共通科目	Advanced Conversation	<p>【科目の概要】 This course is designed to improve student's English speaking and conversation abilities through series of activities such as roleplays, mini-speeches, and reading-out-loud.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to have an informal, daily conversation in an English environment or with an English speaking person effectively.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、ロールプレイ、ミニ・スピーチ、音読といった様々な活動を通して、英語で話す力や会話する力を向上させます。</p> <p>【到達目標】 効果的に日常会話を英語ですることができる。</p>	
学部共通科目	Advanced Presentation	<p>【科目の概要】 Students will be able to have an informal, daily conversation in an English environment or with an English speaking person effectively.</p> <p>【到達目標】 Students will have acquired the necessary skills and techniques of giving a successful presentation.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、準備の過程も含めて、効果的な発表をするための方法を学びます。効果的な発表をするための知識やスキルを習得します。</p> <p>【到達目標】 効果的な発表に必要な知識やスキルを学び、それを発表に活かすことができる。</p>	
学部共通科目	Independent Study	<p>【科目の概要】 In this course, students will select a topic related to international business, economy or culture, explore it and prepare a term paper and a presentation about it.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to independently research a topic and present the results.</p> <p>《和訳》 【科目の概要】 この授業では、国際ビジネス、経済、もしくは、は文化に関連するトピックを選び、それについて研究や調査をします。学期末には、レポートを書き、そのレポートに基づいて口頭発表をします。</p> <p>【到達目標】 自主的に研究や調査をし、それらの結果を発表することができる。</p>	

学部共通科目	卒業論文	<p>【科目の概要】 各受講生が個別に独自に課題を設定したテーマについて、教員指導のもとで、その結論を卒業論文にまとめる。4年間の学習・研究の集大成として、適切な方法に従って一定水準の論文を作成して提出する。</p> <p>【到達目標】 現実社会に根ざした疑問を学問的な問いの形に整え、最適な結論に到達する過程で、試行錯誤を繰り返しつつ粘り強く課題を達成する力を身につける。同時に他人の批判・意見を取り入れ、より高度かつ客観的な結論に到達できる能力を会得する。</p>	
外国語科目	トピック	<p>【科目の概要】 この授業では、主に英語で聞く力と読む力の向上を目的とし、TOEICテストで目標とするスコアを獲得するための準備を行います。英語で聞いたり読んだりする際に必要な知識や技術を学びます。TOEICテストのテスト形式に慣れ、確実且つ効率的に問題を解くためのテスト戦略法も身に付けます。また、TOEICテストの問題を解く際に不可欠な英語圏の社会的・文化的背景への理解を深めます。更には、英語の学習方法や学習習慣を身に付け、自律的学習者としての基礎を固めます。</p> <p>【到達目標】 TOEICテストの形式を把握し、制限時間内に効率的にすべての問題を解くことができる。TOEICテストで有効なテスト戦略法や、英語で聞いたり読んだりするために必要な知識や技術を身に付け、問題を解く際にそれらを活かすことができる。学期末のTOEICテスト受験に向けて目標スコアを設定し、教室外での自律的な学習習慣とその学習方法を身に付ける。</p>	
外国語科目	グローバルカレントトピックス	<p>【科目の概要】 この授業では、日常生活から政治・経済・法律・外交に至るまでの時事的ニュースを扱い、聞く力・話す力・読む力・書く力の総合的な向上を目指します。様々な活動を通して、時事的トピックに関して英語で学びを深めていきます。</p> <p>【到達目標】 時事的ニュースを読んだり聞いたりして理解することができる。時事的ニュースに対して、自分の見解を形成し、クラスメートと建設的に意見を英語で交換することができる。</p>	
外国語科目	英語プレゼンテーション	<p>【科目の概要】 英語による効果的なプレゼンテーションに必要な知識とスキルの習得を目指します。プレゼンテーションを通して、語彙力、読解力、ライティング力、スピーキング力、リスニング力の総合的な運用能力の向上を目指します。様々なテーマに関する英文を読み、その内容をまとめ、その内容に対する自分の見解を形成し、クラスメートの前で発表をします。</p> <p>【到達目標】 授業で学んだ効果的なプレゼンテーションに必要な知識とスキルを活かして発表をすることができる。発表後の質疑応答にも、的確に対応することができる。</p>	
外国語科目	ビジネスイングリッシュ	<p>【科目の概要】 この授業では、グローバル社会で仕事をする際に必要な英語の習得を目指します。仕事の場で、どのような英語をどのように使うべきなのかを意識して、様々な活動に取り組みます。そして、ビジネスコミュニケーションで大切なこと、ビジネス英語の頻出単語や表現、文化的要素などを学びます。</p> <p>【到達目標】 それぞれのビジネスシーンで適切な英語とその使い方を理解し、ビジネスシーンを想定した活動で実際にそれらを活かすことができる。ビジネス英語を学ぶことにより、英語を仕事で使うことに対して高い意識と意欲をもつことができる。</p>	

外国語科目	タスクリーディング	<p>【科目の概要】 英語による読解力を様々なタスク（語彙の推測、英文構造理解、要約など）を通して構築し、より深い読解力へとつなげるための演習を行う。また、語彙や文法の演習を通し、読解力を支える知識の拡大にも努め、アカデミックなレベルに対応する英語能力の育成を目指す。特に英文の内容を的確にとらえるために英文構造を理解する演習を毎回行い、読解力の構築のみならず、既習英文法の理解と英語の言語的特徴の理解を深めることをも目指す。</p> <p>【到達目標】 アカデミックレベルでの英文を読みこなすためのコツが理解できるようになり、様々なタスク演習を通して自学自習においても的確な読解のためにタスクを用いて英文を理解する習慣が養える。また、アカデミックレベルでの語彙を意味だけでなく用法も理解できると共に、英文構造演習を通して英文の特徴を理解した上で英語読解を行えるようになる。</p>	
外国語科目	タスクリスニング	<p>【科目の概要】 このクラスでは、主に、リスニングストラテジーを学び、聞く力の向上を目指します。リスニングストラテジーに加えて、それぞれの場面で頻出且つ重要な語彙や表現も学びます。リスニングを中心としたタスクを通じて、「話す」「聞く」「読む」力を総合的に伸ばし、英語運用能力も養成します。</p> <p>【到達目標】 授業で学んだリスニングストラテジーや各場面の語彙や表現を活かして、正確に聞き取ることができる。コミュニケーション活動では、円滑且つ効果的なコミュニケーションを目指して積極的に取り組むことができる。</p>	
外国語科目	ドイツ語①	<p>【科目の概要】 ドイツ語を初めて学ぶ学生のための文法主体の入門コース。会話表現にも配慮されたテキストを用いてドイツ語の基本的な文法事項を学ぶ。文法一辺倒の授業にならないように、ドイツ語圏の文物についても随時言及しながら、CD・ビデオ・DVDを活用する予定である。ドイツ語の学習を通して異文化的視点を涵養することも本授業の狙いである。</p> <p>【到達目標】 基本的なドイツ語運用能力の習得が本授業の到達目標である。より具体的にはドイツ語技能検定試験の5級から4級程度の総合的な能力養成が目標となる。</p>	
外国語科目	ドイツ語②	<p>【科目の概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、世界に対する新たな視野を拓きましょう。この授業では、会話表現を中心としたドイツ語の習得を目標とします。さまざまなシチュエーションにおける会話文を題材にして練習を繰り返し、簡単な日常会話を行うのに必要な基本文法・語彙・表現を習得します。さらに独語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。授業計画では便宜上表現編と文法編に分けてありますが、文法はポイントにとどめて、表現の練習を中心に行います。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語による基礎的な日常会話ができるようになり、ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得することを目的とします。</p>	
外国語科目	ドイツ語③	<p>【科目の概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、日本語や英語の枠を越えて、世界に対する新たな視野を拓きましょう。ドイツ語③では、様々な状況での会話を通して、独語の総合的な運用能力（読む・書く・聞く・話す）の習得を目標とします。これはまた、それ以上を目指すために必須の基本事項でもあります。さらにドイツ語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得し、ドイツ語検定試験の4級から3級程度の総合的なドイツ語運用能力（読む・書く・聞く・話す）を身に付けることを目標とします。</p>	

外国語科目	フランス語①	<p>【科目の概要】 フランス語を初めて学ぶひとを対象としてABCから始め、日常よく用いられる表現、またその表現に関連した文法を説明します。折に触れ音楽や映画、文学などフランスの文化について解説します。</p> <p>【到達目標】 フランス語の基礎能力（フランス語検定5級合格程度）を身につけ、簡単な日常会話を覚える。</p>	
外国語科目	フランス語②	<p>【科目の概要】 この授業ではフランス語を初めて学ぶ学生を対象に、会話表現に重きを置いて、実用的なフランス語を学びます。音声面を重視しながら、聞き・話すコミュニケーションとしてのフランス語力の向上を目指します。随時、音楽・映画・文学などのフランスの文物についても取り上げる予定です。</p> <p>【到達目標】 フランス語の基礎能力（フランス語検定5級合格程度）を身につけ、簡単な自己紹介や日常会話がフランス語でできるようになることが、この授業の到達目標となります。</p>	
外国語科目	フランス語③	<p>【科目の概要】 すでに1年間フランス語を学習した学生を対象に、さらにフランス語の運用能力を高めることを目的としています。習得した基礎的な文法を使って、フランス語によるコミュニケーションの幅を広げていきます。この授業では、基礎的な文法能力を活かし、その応用を会話表現および講読を通して習得し、さらにフランス語圏の社会文化に親しむことを目的としています。なお、フランス語1（仏語1）未履修者＝フランス語初習者は単位を落とすでしょう。</p> <p>【到達目標】 1. フランス語の初級文法を活用し、自己表現能力をさらに高める。 2. フランス語を習得することにより、その活用能力を高める。 3. フランス語検定3級程度の能力をもつ。</p>	
外国語科目	ロシア語①	<p>【科目の概要】 この授業では、まずロシア語の文字と発音に慣れることから始め、初歩のロシア語文法を短文による簡潔な表現を通して学んでいくことにします。ロシア語の文法は語形変化が多いので、ゆっくりと進めるようにします。最終的に、辞書を引きながら独力でロシア語の文章が読めるレベルの文法力を目指します。また、ロシアの文化や人々の暮らしについて、折にふれて紹介するようにします。</p> <p>【到達目標】 ローマ文字とは異なるロシア語独自の文字に慣れ、基本語彙を習得し、最終的に、語形変化の多い文法体系の初歩を理解することを目標とします。</p>	
外国語科目	ロシア語②	<p>【科目の概要】 この授業は、ロシア語の初級文法の知識を固めながら、会話表現に重点を置いて、実用的なロシア語の習得を目指します。音声面を重視し、聞き、話すコミュニケーションとしてのロシア語力の向上をはかっていきます。また、折に触れて、接する機会が少ないロシアの文化を紹介するように努めます。</p> <p>【到達目標】 ロシア語の平易な会話表現を身につけると同時に、短い文章ならば辞書を参照しながら内容を理解できるような、基本的な文法力を習得することを目標に授業を進めます。</p>	
外国語科目	ロシア語③	<p>【科目の概要】 履修者各自が、基礎的文法事項を踏まえたうえで、ロシア語の重要表現を理解し、シチュエーションに応じてそれらを使いこなす応用力を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 辞書を引けば、新聞やネットなどのロシア語を読んでその概要が理解でき、自らの関心を引くテーマに主体的にロシア語で接する意欲を持つことが目標です。</p>	
外国語科目	中国語①	<p>【科目の概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「入門」の科目です（初級者対象）。学習力をつけるために予習・復習は必ずしてください。（教科書は必須、辞書も用意してください）。 ※各クラスとも同一の教科書を用います。</p> <p>【到達目標】 発音をマスターし、中国語の基本的構文の理解を目標とするとともに、会話にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>	

外国語科目	中国語②	<p>【科目の概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「初級」の科目です（初級者対象）。併せてリスニング・スピーキングの能力を鍛えます。 ※各クラスとも同一の教科書を用います。</p> <p>【到達目標】 中国語の文章を正確に読み取ることを目標とすると共に、「聞く・話す」にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>	
外国語科目	中国語③	<p>【科目の概要】 中国語の基礎である発音と文法事項を復習し、中級へレベルアップする。短い文章と会話文を使い、書き言葉と話し言葉両方を偏りなく学習する。語学の習得に欠かせない四つの技能（聞く技能、話す技能、読む技能、書く技能）の練習をバランスよく繰り返すことで、実践的な語学力を身につけることを目指す。</p> <p>【到達目標】 中国語の語学力を定着させ、実際のコミュニケーションに使えるツールとして習得することを目標とする。</p>	
外国語科目	韓国語①	<p>【科目の概要】 初めて韓国語を学ぶ者を対象とした初級科目である。ハングル（韓国語の文字）の読み方、書き方、基本的な文法、挨拶などを、ドラマで実際に使われている場面を使って学習する。 生きた韓国語を初歩から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルの基本的な読み方がわかる。ハングルが書ける。基本的な挨拶ができる。簡単な文章が読める。</p>	
外国語科目	韓国語②	<p>【科目の概要】 韓国語を初めて学ぶ者を対象とした初級科目である。文字であるハングルとその発音を覚え、日常的によく使われる簡単な会話が話せるよう基礎的な文法を習得する。あわせてその背景となる韓国の文化についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルを読み、書くことができる。韓国語の基本的な文法を理解する。簡単な日常会話ができる。</p>	
外国語科目	韓国語③	<p>【科目の概要】 韓国語の初級を学んだ者を対象とした、中級科目である。初級で学んだ発音や文法の知識をより確実にし、さらに詳しいハングルの発音変化や文法、日常生活でよく使われる表現を学んで、実際に使える韓国語の力を養う。</p> <p>【到達目標】 発音の変化を踏まえてハングルを正確に読み書きできる。日常的な韓国語を聞き取り、読み、書くことができる。</p>	
外国語科目	日本語①A	<p>【科目の概要】 日本古典作品を取り扱う。留学生にとって、古典作品に触れる機会は少ないと思うが、本授業では、古典の基礎や文法、様々な古典作品を学び、日本の古典文学の大まかな流れも理解したい。 古典入門とし、現代文との違い（歴史的ななづかひの理解）や古典常識（時や方位、十干十二支等の理解）、古典文法の基礎や和歌の修辭法などを学び、基礎をしっかりと理解する。</p> <p>【到達目標】 ひとりで古文を読めるようにし、基礎の古典文法や古典常識を理解することで、自身で古語辞典を引きながら、短文を解釈できるようになることを目標とする。</p>	
外国語科目	日本語①B	<p>【科目の概要】 時代順に日本古典作品を取り扱う。日本語①Aで習得した基礎古典をもとにして、様々な古典作品に触れ、古典世界を味わう。古文を現代語訳し理解することで、日本語の読解力も養う。 日本語①Aで学んだ基礎古典から、自分自身で古文を読み、現代語訳できる力を養う。</p> <p>【到達目標】 様々な古典作品を読み、自ら現代語訳することで、日本の古典世界を理解できるようになることを目標とする。また、正しい現代語訳ができるように日本語力も身につける。</p>	

外国語科目	日本語②中級A	<p>【科目の概要】 日本語でのインタビュー、プレゼンテーション等の発表能力や問い合わせ、お願い、雑談等の日常生活におけるスムーズな会話技術を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 日本語での自己発表の技術を身につけ、また、なるべく効率よく、相手を不快にさせないコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。</p>	
外国語科目	日本語②中級B	<p>【科目の概要】 面接、スピーチ等フォーマルな場面の日本語での発表能力を身につけ、また、いろいろなテーマでクラスメートと意見交換しながら、日本語のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 日本語での自己発表の技術を身につけ、自分の意見を自由に表現できるようにすることを目標とする。</p>	
外国語科目	日本語②上級A	<p>【科目の概要】 文学・語彙、文法等、日本語能力試験1級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業（特にゼミナール）における口頭発表、質疑応答、討論等のできる口頭表現力の訓練を行う。特に敬語表現の学習を行う。</p> <p>様々な場面で使用される敬語を、場面を設定して学習し、スムーズな敬語表現ができる力を養う。</p> <p>【到達目標】 正式な場面や目上の人に対する敬語表現を身につける。学内のみならず、一般社会でも敬語を使用できるようにする。</p>	
外国語科目	日本語②上級B	<p>【科目の概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験1級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業（特にゼミナール）における口頭発表、質疑応答、討論等のできる口頭表現力の訓練を行う。特にスピーチ等の学習を行う。</p> <p>様々な場面で、自分が相手に伝えたいことや、表現したいことを的確に表現できる力を養う。</p> <p>【到達目標】 自分の考えや思いを、的確な日本語表現を使い、口頭で相手に伝えられる力を養うことを目標とする。</p>	
外国語科目	日本語③中級A	<p>【科目の概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に文章表現の基礎を学習する。</p> <p>原稿用紙の使い方等、基本的な書式を学びながら、文章表現の基礎固めを行う。</p> <p>【到達目標】 文章表現の基礎を学習し、簡単なレポート作成ができるようになることを目標とする。</p>	
外国語科目	日本語③中級B	<p>【科目の概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に短文から論理的なレポートが書けるように、段階的に書く練習を行う。</p> <p>簡単な短文から始めて、最終的には自ら資料を探し、論理的なレポートが書ける力を養う。</p> <p>【到達目標】 レポートを書くために、資料を探し、分析し、自分の意見が述べられるようになることを目標とする。</p>	

外国語科目	日本語③上級 I A	<p>【科目の概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業をおこなう。授業では、日本語でレポート等を作成する際に使われる文型・表現およびレポートの構成等を中心に取り上げ、受講者の考え、意図することが日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）でおこなう。</p> <p>【到達目標】 レポートや論文でよく使われる文型や表現、展開パターンを習得し、論理的な文章が作成できるようになることを目標とする。</p>	
外国語科目	日本語③上級 I B	<p>【科目の概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業を行う。授業では自分の関心のあるテーマについて、論証型のレポートを作成し、受講者の意図が日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）で行う。</p> <p>【到達目標】 自分の関心のあるテーマについて、必要な資料・情報の収集、分類、検討をおこない、自分の思考をまとめ、読み手にとってわかりやすいレポート（4000字程度）を完成することを目標とする。</p>	
外国語科目	日本事情 A	<p>【科目の概要】 現代の日本社会を考えるには、まずかつての日本社会のありようを把握しなければならない。そのうえで現代社会のありようを的確にとらえ、その変化や変容をとらえていく必要がある。「現代日本A」では生活文化に焦点を当て、近世・近代から現代への移り変わりの中で、われわれの生活の何が変わり、また何が変わらないのかを見つめ直す視点を提供したい。 本講義では、現代の生活・社会・文化などのありようを、近世・近代から現代という移り変わりの中で把握できることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 現代社会の文化・社会現象に関心を持ち、変化を考慮して的確に捉えられるようにする。</p>	
外国語科目	日本事情 B	<p>【科目の概要】 日本の大学の授業は専攻を問わず、受講者が現在の日本社会のしくみや地理、歴史と伝統についての常識を備えていることを前提として行われている。この科目ではその前提となっている日本に関する常識を、政治・経済・地理・歴史の分野に分けて演習形式で学んでいく。さらに総合的な日本語力の向上もはかる。 日本の地理、歴史を中心に、与えられたテーマについて調べ、パワーポイントをつかいながら日本語で発表できるようになる。</p> <p>【到達目標】 ・日本の地理、歴史の基本を知る。 ・レジュメとパワーポイントを使って日本語で正確に説明できるようになる。 ・日本語で、日本の地理・歴史・伝統・文化等、事実を誤りなく説明できるようになる。</p>	
ゼミナール	専門ゼミナール①A	<p>【科目の概要】 各担当教員がそれぞれの専攻領域において具体的な課題を提示し、受講生が数人のグループを形成して協働して課題の解決に努める。より初歩的な課題から取り組み順次高度な課題へと発展させる。</p> <p>【到達目標】 課題の解決に向けてグループ内で協働することで、自らリーダーシップを発揮して主体的に物事に取り組む力、他人に働きかけ周囲を巻き込みつつ目的を共有し、その目的達成に向けて確実にやり抜く力を体得する。</p>	

ゼミナール	専門ゼミナール①B	<p>【科目の概要】 各担当教員がそれぞれの専攻領域において具体的な課題を提示し、受講生が数人のグループを形成して協働して課題の解決に努める。より実践的な課題に取り組み、順次実際の企業経営上における課題の模擬演習へと発展させる。</p> <p>【到達目標】 課題の解決に向けてグループ内で協働することで、自らリーダーシップを発揮して主体的に物事に取り組む力、周囲を巻き込みつつ目的を共有し、その目的達成に向けて確実にやり抜く力を体得する。他者との意見の違いを理解し、周囲との関係性の構築方法を会得する。</p>	
ゼミナール	専門ゼミナール②A	<p>【科目の概要】 各担当教員がそれぞれの専攻領域に関する具体的な課題を提示し、受講生が数人のグループを形成して協働して課題の解決に努める。特に実際の企業がグローバルに活動する上で問題となる初歩的な課題から取り組み順次高度な課題へと発展させる。</p> <p>【到達目標】 課題の解決に向けてグループ内で協働することで、自らリーダーシップを発揮して主体的に物事に取り組む力、周囲を巻き込みつつ目的を共有し、その目的達成に向けて確実にやり抜く力を体得する。自分の意見を分かりやすく伝える能力、他者の意見を傾聴し理解できる能力を会得する。</p>	
ゼミナール	専門ゼミナール②B	<p>【科目の概要】 各担当教員がそれぞれの専攻領域に関する具体的な課題を提示し、受講生が数人のグループを形成して協働して課題の解決に努める。実際のグローバル企業が抱えるより実践的な課題に取り組み、自らが国際的経営を行うとの仮定に基づく模擬演習へと発展させる。</p> <p>【到達目標】 課題の解決に向けてグループ内で協働することで、自らリーダーシップを発揮して主体的に物事に取り組む力、周囲を巻き込みつつ目的を共有し、その目的達成に向けて確実にやり抜く力を体得する。他者との意見の違いや立場の違いを超えて共通の目標へ到達するためのルールを構築し遵守する力を身につける。</p>	
ゼミナール	専門ゼミナール③A	<p>【科目の概要】 各受講生が個別に、またはグループ単位で独自に課題を設定し、教員指導のもとで解決に至るプロセスを着実に踏まえ、結論を卒業論文にまとめるための準備作業を行う。主としてグローバル企業の国際展開における諸問題を取り上げる。</p> <p>【到達目標】 現実社会における出来事に対して疑問を持ち考え抜く力を身につける。現状を多角的に分析し課題解決に向けて着実に取り組む力、何度失敗しても繰り返しチャレンジする力を体得する。</p>	
ゼミナール	専門ゼミナール③B	<p>【科目の概要】 各受講生が個別に、またはグループ単位で独自に課題を設定し、教員指導のもとで解決に至るプロセスを着実に踏まえ、結論を卒業論文にまとめる。主としてグローバル企業の国際展開における諸問題を取り上げる。</p> <p>【到達目標】 自らが設定した問いに対する解決に至るためのプロセスを明確に描くことができる能力を身につける。自らの力で考え抜くことによって新しい価値を生み出し社会に貢献することのできる力を獲得する。論文完成までのストレス発生に対する耐性をも身につける。</p>	
総合科目	民俗学A	<p>【科目の概要】 民俗学は、世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して生活文化のあり方やその基盤を追求する学問である。本講義では地域社会に伝承される生活文化を検討し、その基盤や変化、そして現在の存在意義を考える。とくに「民俗学A」では、生活と密着した衣食住や人生儀礼・生業などをとりあげる。そういった民俗のありようを、社会の移り変わりの中で把握できるようにする。なお、本講義は「民俗学B」とつながりを持つ。</p> <p>【到達目標】 民俗学とは、どのような学問か理解する。日本の民俗事象を理解し、その重要性を認識する。</p>	

総合科目	民俗学B	<p>【科目の概要】 民俗学は、世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して生活文化のあり方やその基盤を追求する学問である。本講義では地域社会に伝承される生活文化を検討し、その基盤や変化、そして現在の存在意義を考える。とくに「民俗学B」では、年中行事や祭り・民俗信仰など日本人の心意伝承をとりあげる。そういった民俗のありようを、時代や社会の変化の中でとらえ、その意味や変容を理解できるようにする。なお、本講義は「民俗学A」とつながりをもつ。</p> <p>【到達目標】 民俗学とはどのような学問か把握し、年中行事や民俗信仰、地域における民俗の特徴などを理解する。</p>	
総合科目	心理学A	<p>【科目の概要】 心理学の基本的な知識を学習する授業である。人間の行動の背後にあるしくみについて、心理学の観点から考察し、人間理解の幅を広げてほしい。具体的な内容としては、知覚、学習、記憶、思考を扱う。心理学の基本的な知識のうち、知覚、学習、記憶、思考の領域について理解し、心理学的な観点から人間の日常的な行動について考察することができる。</p> <p>【到達目標】 知覚、学習、記憶、思考の領域について、基本的な概念を理解し、その知識に基づき、自分の体験を考察することができる。</p>	
総合科目	心理学B	<p>【科目の概要】 心理学の基本的な知識を学習する授業である。人間の行動の背後にあるしくみについて、心理学の観点から考察し、人間理解の幅を広げてほしい。具体的な内容としては、発達、パーソナリティー、社会心理、臨床心理を扱う。心理学の基本的な知識のうち、発達、パーソナリティー、社会心理、臨床心理の領域について理解し、心理学的な観点から人間の日常的な行動について考察することができる。</p> <p>【到達目標】 発達、パーソナリティー、社会心理、臨床心理の領域について、基本的な概念を理解し、その知識に基づき、自分の体験を考察することができる。</p>	
総合科目	ボランティア論	<p>【科目の概要】 「ボランティア」というイメージが先行しがちな概念を、多角的、かつ日常的にとらえることにより、その意味するところを深く理解する。また単にボランティアという概念を理解するだけではなく、身近なものとしてとらえるようにし、実践につなげられるようにする。そのために本講義では、理論的な解説にとどまらず、事例を豊富に扱う。また履修人数にもよるが、グループワークなどを通して、自分の意見を述べる力、相手の意見を聞く力を養成する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの概念を理解する。 ・身近なもの（実践の選択肢のひとつ）としてボランティアをとらえるようになる。 ・多様なボランティアの事例を理解し、自らの参加意欲を向上させる。 ・自分の意見を言葉で伝える力と、相手の話を聞く力を養成する。 ・ボランティアを通して、自分のライフプラン、キャリアに関する考えを持ち、ボランティアへの参加を誘発する。 	
総合科目	キャリアデザイン②	<p>【科目の概要】 両学部の選択科目である本授業の概要、目的等は以下の通り。 ①日本の経済・主要産業を取り巻く国土や人口等の基本的な環境を改めて確認したうえで、日本の戦後経済の歴史を振り返る。 ②そのうえで、日本の経済や主要産業の現状と課題、今後の対応の方向性について概観する。 ③この結果、自らの将来の進路選択等において重要な主要業界に関する知識が深まり、主体的に具体的な検討を進める基礎が形成される。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地方の創生等が課題となる中で、企業や公務員・教員の志望者にとって有益な日本の経済・主要産業に関する基本的な知識を習得できる。 ②1分間自己紹介やグループディスカッション（GD）等を通じて、ゼミ等での発表や就活時の面接等に有効なプレゼンやGDのポイント等を習得できる。 ③両学部のキャリア関係の必修科目や選択科目（キャリア教育③、④）との相乗効果が期待できる。 	

総合科目	キャリアデザイン③	<p>【科目の概要】 両学部を選択科目である本授業の概要、目的等は以下の通り。 ①日本の産業・就業構造、企業の組織、財務分析の基本等に関する基本的な知識を習得する。 ②主要業界の役員や人事担当者の話を聞くことを通じて、業界・職種・企業に関する具体的で実践的な情報を把握する。 ③各業界や企業で求める人物像に関する知識を得ることで、自らの職業観や進路選択がより具体的にイメージできるようになる。</p> <p>【到達目標】 ①業界、職種等による業務や働き方等の違い等について具体的なイメージを持ち、将来の職業選択が円滑に行えるようになる。 ②地方の創生等が課題となる中で、企業や公務員・教員の志望者に有益な日本の経済・主要産業に関する基本的な知識を習得できる。 ③両学部のキャリア関係の必修科目や選択科目（キャリア教育②、④）との相乗効果が期待できる。</p>	
総合科目	キャリアデザイン④	<p>【科目の概要】 多くの業界の経営者・人事担当者の方々の話を聞き、実際の業界の実情とその業界・企業ではどのような人材を必要としているかの情報を得る。内定を得た4年生の就活体験談を聞き、3年生のうちにやっておかなければいけないことの知識を得る。</p> <p>【到達目標】 実際の業界における生の話を聞き、将来自らが飛び込んでいくビジネス社会を明確にイメージできるようにする。また就職活動のノウハウを知り、今の自分がやるべきことを理解し、それを日々の生活に落とし込んで実践することで就活に打ち勝つ能力を身につける。</p>	
総合科目	インターンシップ論	<p>【科目の概要】 ①概要：講義と演習（グループワークを含む）。視聴覚教材。ゲスト招聘を予定しているほか、進行状況によってシラバスと異なる場合がある。スーツ着用を指示することがある。教科書必携。ノートを取るためのパソコン使用可。 ②目的：社会性をもったビジネスパーソンの育成。キャリア形成への手がかりとする。</p> <p>【到達目標】 ①ビジネスや生活に必要な知識やスキルを学び、態度形成をはかる。 ②ビジネスや生活に必要なマナーを礼儀（辞儀・行儀・書儀）の観点から身につける。 ③キャリア形成に資するコミュニケーション力と社会性を身につける。</p>	
総合科目	ジェンダー論A	<p>【科目の概要】 私たちの生きている社会は、大きな変革期にさしかかっています。その変化がどのように生じ、展開しているのかを、ジェンダーを通じて考えます。私たちが自然な性差と思っていることは、そのほとんどが言語的・社会的に作られたものであることを明らかにし、その過程を分析することを通し、私たちの社会に存在する様々な権力関係を考えるきっかけとします。ジェンダー、性差、セクシュアリティ、恋愛・婚姻、家族、親密性、等の諸概念を理解し、社会の権力とポリティクスの在り方を考える。</p> <p>【到達目標】 ジェンダーという視点を通じて社会学の基礎的な発想法や視点を獲得し、身近な社会現象を社会学的視点で解釈できるようになること。</p>	
総合科目	美術史A	<p>【科目の概要】 日本は、東アジアの国々の影響を強く受けながら、様々な芸術文化を育んできた。時代とともに変化し、多様化した芸術文化の断片が、現在数々の作品として残されている。これらの作品を素材に、制作者や様式、その美意識について考察する。今期は飛鳥～平安時代にかけての日本の美術に焦点を当てる。日本美術史をこれから学ぶ学生が、美術史を理解するために必要な用語、作例等の基礎知識を身につける。私たちに身近な日本の文化を美術史を通して学ぶ。</p> <p>【到達目標】 日本の美術史における時代区分が明確にでき、その時代における主要作例について理解する。作品のスライドを鑑賞することにより、日本の美術を理解する。</p>	

総合科目	美術史B	<p>【科目の概要】</p> <p>日本は、東アジアの国々の影響を強く受けながら、様々な芸術文化を育んできた。時代とともに変化し、多様化した芸術文化の断片が、現在数々の作品として残されている。これらの作品を素材に、制作者や様式、その美意識について考察する。今期は平安～江戸時代にかけての日本の美術史に焦点を当てる。</p> <p>日本美術史をこれから学ぶ学生が、美術史を理解するために必要な用語、作例等の基礎知識を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の美術史における時代区分が明確にでき、その時代における主要作例について理解する。作品のスライドを鑑賞することにより、日本の美術を理解する。</p>	
総合科目	宇宙科学A	<p>【科目の概要】</p> <p>昔から人間は様々な自然法則を宇宙から学んできたが、これが今日の物理学の発展につながっている。本講義では宇宙科学の基礎について解説する。具体的には、太陽系・惑星・星の一生などである。できるかぎりビデオやDVDを用いて映像での紹介も行い、視覚的な理解も促したいと考えている。</p> <p>【到達目標】</p> <p>宇宙科学の基礎知識を理解し、科学的・論理的な思考法を学び、その考え方を他分野での学びにも応用できるようにすることが本授業の到達目標である。</p>	
総合科目	宇宙科学B	<p>【科目の概要】</p> <p>宇宙科学Aで学んだ知識をもとに、本講義では主に宇宙の始まり（ビッグバン理論）や銀河について解説する。宇宙科学以外に関連分野である天文学・惑星科学・素粒子物理についても機会があれば触れてみたい。可能な限りビデオやDVDを用いて映像での紹介も行い、視覚的な理解も促したい。</p> <p>【到達目標】</p> <p>宇宙科学とその関連領域を学ぶことで、科学的な基礎、および科学的・論理的な思考法を身につける。そしてこの考え方を他の学問や日常生活の中で活用できるようにすることをこの講義の到達目標とした。</p>	
総合科目	基礎数学A	<p>【科目の概要】</p> <p>文系の学生には敬遠されがちな基礎数学ではあるが、論理的思考力を身につけるには最適の科目である。初等レベルの論理に関する、主としてパズル形式の問題を取り上げて全員で考えてみたい。特に数学の知識、公式等は必要としない。徹底的に考える、というのがこの科目のポイントである。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実用的には、文系学生に求められる就職試験レベルの数学・論理関連問題を解けるようにすること。さらには、粘り強く考え抜くという姿勢と論理的な思考力を身に着けることがこの授業の狙いである。</p>	
総合科目	基礎数学B	<p>【科目の概要】</p> <p>基礎数学Aで学んだ基礎知識を土台にして、本授業ではさらに論理的思考力を身につけるために、パズル形式の、論理に関する問題を継続的に解いてゆくことになる。高校までの数学の成績は関係ない。この科目の要点は、一つの問題を徹底的に考える、という姿勢である。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実用的な狙いは、文系学生に必要とされる就職試験レベルの数学・論理関連問題を解けるようにすることであるが、それ以外に、忍耐強く考え抜くという姿勢と論理的な思考法を身につけることが、この授業の最大の狙いである。</p>	

総合科目	情報科学①A	<p>【科目の概要】 本科目では、コンピュータとのコミュニケーションに必要なツールのうち導入が楽でポピュラーなプログラミング言語である VisualBasic.NET(現 Visual Studio Community)について学んでいきます。はじめにソースコード入力のためのキーボード練習と情報処理の基礎を復習し、プリントに従ってプログラミング言語での情報の伝達・処理の構造を学び進めます。</p> <p>【到達目標】 情報処理においては、キーボード処理の自由度と、データ入力の正確さが求められ、情報の活用に繋がります。プログラミング言語やアプリケーションソフトをマスターする事により曖昧であった情報が示す方向が見えてきます。本授業では情報処理の基礎を復習後、プログラミング言語の基本的な流れをマスターする事を目指します。</p>	
総合科目	情報科学①B	<p>【科目の概要】 本科目では、PowerPointの実戦処理の基本操作を学習します。課題としての絵本作成などを通して、レポートや授業での発表の際のデータ作成に応用が出来るよう、応用力のある操作方法を楽しみながら身に付けることを目指します。また、Web情報発信処理としてHTML及びCSSの基本処理のマスターも目指します。</p> <p>【到達目標】 ①PowerPointの使用に慣れ、効果的な情報発信を目指します。②Officeソフトを上手に活用し、より専門的な発表資料の作成を目指します。③インターネットで必要な情報を収集・発信できることを目指します。</p>	
両学部共通科目	情報科学②A	<p>【科目の概要】 インターネットを利用したコミュニケーションツールは広く普及し、FacebookやTwitter、LINEといったアプリケーションの登場によって、個人がより簡単に必要な情報を入手でき、情報発信することを可能にした。こうしたICTツールが日常の様々な場面で活用されることで、私たちの生活の利便性は高まる一方で、情報の不正な入手や利用等の問題も起きている。本授業では、パソコンの基礎知識やインターネットの利用上の倫理を理解したうえで、ICTツールを利用した情報収集や活用策の学習する。</p> <p>【到達目標】 パソコンとソフトウェア (Word、PowerPoint) の基本操作、情報に関するモラルやルールを理解したうえで、ネット上の情報の収集・活用策を実践的に学び、レポートを作成すること。</p>	
両学部共通科目	情報科学②B	<p>【科目の概要】 インターネットを利用したコミュニケーションツールは広く普及し、FacebookやTwitter、LINEといったアプリケーションの登場によって、個人がより簡単に必要な情報を入手でき、情報発信することを可能にした。こうしたICTツールが日常の様々な場面で活用されることで、私たちの生活の利便性は高まる一方で、情報の不正な入手や利用等の問題も起きている。本授業では、パソコンの基礎知識やインターネットの利用上の倫理を理解したうえで、ICTツールを利用した情報収集や活用策について学習する。</p> <p>【到達目標】 パソコンとソフトウェア (Excel) の基本操作、情報に関するモラルやルールを理解したうえで、ネット上の情報の収集・活用策を実践的に学び、レポートを作成すること。</p>	
両学部共通科目	情報統計学A	<p>【科目の概要】 現在の情報化された経済社会ではビッグデータなどを利用した統計分析のビジネスへの活用能力は不可欠である。ビジネスの定量的分析に欠かせない確率論の基礎とデータの統計処理の方法を、豊富な実践的データを用いて繰り返し解くことで身につける。</p> <p>【到達目標】 データに基づいて客観的に判断し、科学的に問題を解決できる能力を身につける。主観的・独善的な解釈や先入観を排除し、他者と共有可能な理解に到達することのできる能力を身につける。統計検定3級の合格を目指し、2級合格への基礎を育成する。</p>	

両学部共通科目	情報統計学B	<p>【科目の概要】 現在の情報化された経済社会ではビッグデータなどを利用した統計分析のビジネスへの活用能力は不可欠である。ビジネスの定量的分析に欠かせない確率論の基礎とデータの統計処理の方法を、豊富な実践的データを用いて繰り返し解くことで身につける。またITスキルの強化と連動して、より高度なデータ処理を実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 データに基づいて客観的に判断し、科学的に問題を解決できる能力を身につける。主観的・独善的な解釈や先入観を排除し、他者と共有可能な理解に到達することのできる能力を身につける。統計検定2級の合格を目指す。</p>	
総合科目	マスメディア論A	<p>【科目の概要】 マスメディアは、新聞やニュース報道などを通じて世論の形成に大きな影響力を持っていることから、立法、行政、司法に次ぐ「第4の権力」と言われている。本授業では、こうしたマスメディアと政治の関係を中心に、政権交代や世論、政策形成等の具体的な事例を通じて考えていく。</p> <p>【到達目標】 情報爆発時代におけるマスメディアと政治の関係を学び、情報社会のあり方と自分自身との関係の変化を考え理解することができる。</p>	
総合科目	メディアと社会的責任A	<p>【科目の概要】 情報化社会に生きるわれわれにとって、メディアから情報を得ることは日常の一部であり、それが大きな影響力を持つことは自明の理である。本講義では、多大な影響力をもつ各種メディアの特性や歴史を概観し、現代社会でメディアが果たすべき機能と責任について取り上げる。特に法的な観点からメディアの現状を考察し、メディアと法の在り方について論じてみたい。</p> <p>【到達目標】 各種メディアの特性と問題点について、さらにはメディアが果たすべき機能と社会的責任について理解を深めることが、本授業の狙いである。</p>	
総合科目	情報処理①	<p>【科目の概要】 本科目では、PowerPointの実戦処理の基本操作を学習します。課題としての絵本作成などを通して、レポートや授業での発表の際のデータ作成に応用が出来るよう、応用力のある操作方法を楽しみながら身につけることを目指します。また、Web情報発信処理としてHTML及びCSSの基本処理のマスターも目指します。</p> <p>【到達目標】 ①PowerPointの使用に慣れ、効果的な情報発信を目指します。②Officeソフトを上手に活用し、より専門的な発表資料の作成を目指します。③インターネットで必要な情報を収集・発信できることを目指します。</p>	
総合科目	情報処理②	<p>【科目の概要】 現代社会における情報処理技術の進歩は目覚ましいものがあり、一個人でも容易に世界に向けて情報を発信できるようになりました。当講義では、インターネットを通じた情報の収集、蓄積、加工方法を習得します。さらには実習でwebサイトを構築することにより情報発信の手法を学びます。情報の発信に関する基礎知識の習得、および演習による情報発信技術の取得が目的です。</p> <p>【到達目標】 情報発信のための手法、およびツール類の操作方法を習得し、情報の創造、発信ができるようになることを目指します。</p>	

総合科目	情報処理アドヴァンス①	<p>【科目の概要】 情報化社会においてコンピュータ習得は必須条件となっています。さらに、就職する上では基本的なスキルだけではなく、実務にも耐えうるスキルが要求されます。そこで、本授業ではWordとExcelの中級レベルを学ぶことによって応用する力を養うことを目的とした授業を行います。Wordはポスターを作成することにより図形機能とレイアウトの応用的機能を身に付け、Excelでは日常生活においても応用することのできるものを学習することにより、楽しみながらスキルを身につけていきたいと思います。</p> <p>【到達目標】 WordとExcelの中級レベルの操作を身に付ける。</p>	
総合科目	情報処理アドヴァンス②	<p>【科目の概要】 情報化社会においてコンピュータ習得は必須条件となっています。WordやExcelはもちろん、Accessの習得も当たり前となってきています。そこで本授業ではExcelの応用とAccess、HTMLの実習を中心としながら、基本的な言語とデータベースの知識を学習します。そして、ステップアップすることのできる知識とスキルを身につけることを目的とした授業を行います。</p> <p>【到達目標】 Accessによりデータベースの基礎知識を、HTMLでコンピュータ言語の知識を身に付けることを到達目標とする。そしてExcelの応用的操作について習得することを到達目標とする。</p>	
総合科目	地球環境論A	<p>【科目の概要】 今日の地球環境問題の多くは、かつての公害問題と異なり、私達が被害者であると共に加害者になっている事である。将来にわたり豊かな地球環境を後世に引き継ぐために、本授業を通して、日々の生活スタイルを見直し環境にやさしい生き方・住まい方・考え方を模索しつつ実践する理論と知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 あらゆる地球環境問題についての的確に判断するための知識と技術を習得する。今後諸活動を行う際には、常に環境の視点に気を配り、物事を決定・実践するのに必要な視野の拡大と多様化を図れるようにする。さらに、地球環境論を履修した成果を就活に生かすため、エコ検定試験の合格を目指す。</p>	
総合科目	地球環境論B	<p>【科目の概要】 今日の地球環境問題の多くは、かつての公害と異なり、私達が被害者であると共に加害者になっている。将来にわたり豊かな地球環境を引き継ぐために、日々の生活スタイルを見直し環境にやさしい生き方・住まい方・考え方を模索しつつ実践する必要がある。そのために、地球環境論Aに引き続きより幅広い理論と知識を習得する共に、実践を試みてもらう。さらに、プレゼンテーションを実践し手法を習得する。</p> <p>【到達目標】 地球環境論Aより幅広く高度な地球環境関連問題について、的確に判断できる知識と技術の習得を目指す。今後諸活動を行う際、常に環境の視点から物事を考え行動するよう動機・習慣づけられるようにする。さらに、地球環境論を履修した成果を就活に生かすため、エコ検定の受験し合格を目指す。</p>	
総合科目	総合英語 I (コミュニケーション)	<p>【科目の概要】 この授業では、英語でのコミュニケーション能力の向上を目指します。効果的な対人コミュニケーションについて学び、実際にそれらを活かしてコミュニケーション活動に取り組みます。日常生活に関する身近なテーマを題材とし、ペアで会話をしたり、グループでディスカッションを行ったりします。</p> <p>【到達目標】 効果的な英語による対人コミュニケーションについて理解し、それを実際にコミュニケーション活動で活かすことができる。クラスメートと協力して様々なコミュニケーション活動に積極的に取り組むことができる。</p>	

総合科目	総合英語Ⅱ (TOEIC)	<p>【科目の概要】 この授業では、TOEICの受験対策を行います。テスト構成や出題形式を把握し、時間内に正確且つ効率的に問題を解くことができるように練習します。文法や語彙・表現を強化したり、地域による英語の発音やイントネーションの違いについても学び、英語圏の社会的・文化的背景への理解も深めます。自主学習の際に役立つ学習方法も紹介します。</p> <p>【到達目標】 テスト構成や出題形式を把握し、時間内に正確且つ効率的に問題を解くことができる。自分の目標とするスコアに向けて、授業で学んだ学習方法を活かして、教室外でも自律的に学習をすることができる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅲ (映画)	<p>【科目の概要】 この授業では、英語の映画を教材として使用することにより、主に、英語で聞く力と読む力の向上を目指します。映画を観るだけでなく、トランスクリプトを用いて、会話の技法や語彙・表現を学んだり、オーバーラッピングやシャドーイングといった音声練習を行います。また、英語圏の文化的・社会的背景や価値観などについても学び、映画に対する感想を英語で表現します。</p> <p>【到達目標】 映画を観たり、トランスクリプトを確認することにより、内容を理解することができる。正確な内容理解を基に、口頭や筆記で自分の映画に対する感想を表現することができる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅳ (日常生活)	<p>【科目の概要】 この授業では、英語圏で生活することを想定して、朝起きてから寝るまでに使うであろう英語や、買い物・趣味といった日常生活の場面で使う英語について学びます。語彙や表現ばかりでなく、日本との違いやそれぞれの場面における対人コミュニケーションで大切なことも学んでいきます。それらの場面を想定した活動を通して、実際に英語で練習をします。</p> <p>【到達目標】 授業で学んだ、日常生活の各場面に関する語彙や表現などを活かして、それらの場面を想定した活動で活かすことができる。クラスメートと協力して、英語圏での日常生活を想定しながら、積極的に活動に取り組むことができる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅴ (海外旅行)	<p>【科目の概要】 この授業では、海外旅行をする際に役立つ英語を紹介します。海外旅行における様々な場面（入国審査、空港、ホテル、買い物など）を取り上げ、それぞれの場面に関する知識や、頻出の語彙や表現を学びます。また、それらの場面を想定した活動を通して、実際に英語で練習をします。</p> <p>【到達目標】 授業で学んだ、海外旅行の各場面に関する知識や頻出の語彙や表現を、それらの場面を想定した活動で活かすことができる。クラスメートと協力して、海外旅行を想定しながら、積極的に活動に取り組むことができる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅵ (ビジネス)	<p>【科目の概要】 この授業では、英語で仕事をする際に必要とされる力の養成を目指します。英語での電話対応、来客対応、履歴書、メール、プレゼンテーション、出張など、様々なビジネスシーンを取り上げ、それぞれのビジネスシーンで必要とされる知識やスキル、そして、語彙や表現などを学び、実際に学んだことをそれぞれのビジネスシーンを想定して練習します。</p> <p>【到達目標】 ビジネスシーンを想定した活動では、授業で学んだ知識やスキル、そして、語彙や表現などを活かして取り組むことができる。クラスメートと協力してビジネスシーンを想定しながら、積極的に活動に取り組むことができる。</p>	
総合科目	総合英語Ⅶ (メディア)	<p>【科目の概要】 この授業では、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットなどの様々な情報媒体における英語を扱います。それぞれの情報媒体の英語の特徴を比較し、それぞれの情報媒体において正確且つ効果的に英語を理解する方法を学びます。様々な情報媒体の英語にたくさん触れることにより、これらの情報媒体を英語で日常的に利用する意欲を高めます。</p> <p>【到達目標】 様々な情報媒体の英語の特徴を把握し、それぞれの情報媒体において正確且つ効果的に英語を理解することができる。これらの情報媒体を英語で日常的に利用するという意識を高めることができる。</p>	

総合科目	総合英語Ⅷ (アカデミック)	<p>【科目の概要】 この授業では、主に、英語での読解力の向上を目的とします。正確且つ効率的に読むために必要なリーディングの知識やスキル（リーディングストラテジー）を学びます。様々な種類の英語の文章を読み、その種類に応じて適切なリーディングストラテジーを使えるように練習します。また、英語の文章を分析的且つ批判的に読む訓練をし、正確な理解を基に、自分の見解を口頭や文章で英語で表現する方法も学びます。</p> <p>【到達目標】 英語の文章の種類に応じて、リーディングストラテジーを適切に使い、正確且つ効率的に読むことができる。英文を分析的・批判的に読み、自分の見解を形成し、口頭や文章で効果的に表現することができる。</p>	
総合科目	ドイツ語①	<p>【科目の概要】 ドイツ語を初めて学ぶ学生のための文法主体の入門コース。会話表現にも配慮されたテキストを用いてドイツ語の基本的な文法事項を学ぶ。文法一辺倒の授業にならないように、ドイツ語圏の文物についても随時言及しながら、CD・ビデオ・DVDを活用する予定である。ドイツ語の学習を通して異文化的視点を涵養することも本授業の狙いである。</p> <p>【到達目標】 基本的なドイツ語運用能力の習得が本授業の到達目標である。より具体的にはドイツ語技能検定試験の5級から4級程度の総合的な能力養成が目標となる。</p>	
総合科目	ドイツ語②	<p>【科目の概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、世界に対する新たな視野を拓きましょう。この授業では、会話表現を中心としたドイツ語の習得を目標とします。さまざまなシチュエーションにおける会話文を題材にして練習を繰り返し、簡単な日常会話を行うのに必要な基本文法・語彙・表現を習得します。さらに独語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。授業計画では便宜上表現編と文法編に分けてありますが、文法はポイントにとどめて、表現の練習を中心に行います。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語による基礎的な日常会話ができるようになり、ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得することを目的とします。</p>	
総合科目	ドイツ語③	<p>【科目の概要】 西欧最大の言語圏を誇るドイツ語を学ぶことで、日本語や英語の枠を越えて、世界に対する新たな視野を拓きましょう。ドイツ語③では、様々な状況での会話を通して、独語の総合的な運用能力（読む・書く・聞く・話す）の習得を目標とします。これはまた、それ以上を目指すために必須の基本事項でもあります。さらにドイツ語・ドイツ文化を介して母国の言語・文化を見直す機会としたいところです。</p> <p>【到達目標】 ドイツ語およびドイツ語圏文化に関する基本的な知識を習得し、ドイツ語検定試験の4級から3級程度の総合的なドイツ語運用能力（読む・書く・聞く・話す）を身に付けることを目標とします。</p>	
総合科目	フランス語①	<p>【科目の概要】 フランス語を初めて学ぶひとを対象としてABCから始め、日常よく用いられる表現、またその表現に関連した文法を説明します。折に触れ音楽や映画、文学などフランスの文化について解説します。</p> <p>【到達目標】 フランス語の基礎能力（フランス語検定5級合格程度）を身につけ、簡単な日常会話を覚える。</p>	

総合科目	フランス語②	<p>【科目の概要】 この授業ではフランス語を初めて学ぶ学生を対象に、会話表現に重きを置いて、実用的なフランス語を学びます。音声面を重視しながら、聞き・話すコミュニケーションとしてのフランス語力の向上を目指します。随時、音楽・映画・文学などのフランスの文物についても取り上げる予定です。</p> <p>【到達目標】 フランス語の基礎能力（フランス語検定5級合格程度）を身につけ、簡単な自己紹介や日常会話がフランス語でできるようになることが、この授業の到達目標となります。</p>	
総合科目	フランス語③	<p>【科目の概要】 すでに1年間フランス語を学習した学生を対象に、さらにフランス語の運用能力を高めることを目的としています。習得した基礎的な文法を使って、フランス語によるコミュニケーションの幅を広げていきます。この授業では、基礎的な文法能力を活かし、その応用を会話表現および講読を通して習得し、さらにフランス語圏の社会文化に親しむことを目的としています。なお、フランス語1（仏語1）未履修者＝フランス語初習者は単位を落とすでしょう。</p> <p>【到達目標】 1. フランス語の初級文法を活用し、自己表現能力をさらに高める。 2. フランス語を習得することにより、その活用能力を高める。 3. フランス語検定3級程度の能力をもつ。</p>	
総合科目	ロシア語①	<p>【科目の概要】 この授業では、まずロシア語の文字と発音に慣れることから始め、初歩のロシア語文法を短文による簡潔な表現を通して学んでいくことにします。ロシア語の文法は語形変化が多いので、ゆっくりと進めるようにします。最終的に、辞書を引きながら独力でロシア語の文章が読めるレベルの文法力を目指します。また、ロシアの文化や人々の暮らしについて、折にふれて紹介するようにします。</p> <p>【到達目標】 ローマ文字とは異なるロシア語独自の文字に慣れ、基本語彙を習得し、最終的に、語形変化の多い文法体系の初歩を理解することを目標とします。</p>	
総合科目	ロシア語②	<p>【科目の概要】 この授業は、ロシア語の初級文法の知識を固めながら、会話表現に重点を置いて、実用的なロシア語の習得を目指します。音声面を重視し、聞き、話すコミュニケーションとしてのロシア語力の向上をはかっていきます。また、折に触れて、接する機会が少ないロシアの文化を紹介するように努めます。</p> <p>【到達目標】 ロシア語の平易な会話表現を身につけると同時に、短い文章ならば辞書を参照しながら内容を理解できるような、基本的な文法力を習得することを目標に授業を進めます。</p>	
総合科目	ロシア語③	<p>【科目の概要】 履修者各自が、基礎的文法事項を踏まえたうえで、ロシア語の重要表現を理解し、シチュエーションに応じてそれらを使いこなす応用力を身につけることを目的とします。</p> <p>【到達目標】 辞書を引けば、新聞やネットなどのロシア語を読んでその概要が理解でき、自らの関心を引くテーマに主体的にロシア語で接する意欲を持つことが目標です。</p>	
総合科目	中国語①	<p>【科目の概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「入門」の科目です（初級者対象）。学習力をつけるために予習・復習は必ずしてください。（教科書は必須、辞書も用意してください）。 ※各クラスとも同一の教科書を用います。</p> <p>【到達目標】 発音をマスターし、中国語の基本的構文の理解を目標とするとともに、会話にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>	

総合科目	中国語②	<p>【科目の概要】 初級中国語文法の基礎を固める、中国語「初級」の科目です（初級者対象）。併せてリスニング・スピーキングの能力を鍛えます。 ※各クラスとも同一の教科書を用います。</p> <p>【到達目標】 中国語の文章を正確に読み取ることを目標とすると共に、「聞く・話す」にも力を入れ、「使える中国語」を目指します。</p>	
総合科目	中国語③	<p>【科目の概要】 中国語の基礎である発音と文法事項を復習し、中級へレベルアップする。短い文章と会話文を使い、書き言葉と話し言葉両方を偏りなく学習する。語学の習得に欠かせない四つの技能（聞く技能、話す技能、読む技能、書く技能）の練習をバランスよく繰り返すことで、実践的な語学力を身につけることを目指す。</p> <p>【到達目標】 中国語の語学力を定着させ、実際のコミュニケーションに使えるツールとして習得することを目標とする。</p>	
総合科目	韓国語①	<p>【科目の概要】 初めて韓国語を学ぶ者を対象とした初級科目である。ハングル（韓国語の文字）の読み方、書き方、基本的な文法、挨拶などを、ドラマで実際に使われている場面を使って学習する。 生きた韓国語を初歩から学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルの基本的な読み方がわかる。ハングルが書ける。基本的な挨拶ができる。簡単な文章が読める。</p>	
総合科目	韓国語②	<p>【科目の概要】 韓国語を初めて学ぶ者を対象とした初級科目である。文字であるハングルとその発音を覚え、日常的によく使われる簡単な会話が話せるよう基礎的な文法を習得する。あわせてその背景となる韓国の文化についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 ハングルを読み、書くことができる。韓国語の基本的な文法を理解する。簡単な日常会話ができる。</p>	
総合科目	韓国語③	<p>【科目の概要】 韓国語の初級を学んだ者を対象とした、中級科目である。初級で学んだ発音や文法の知識をより確実にし、さらに詳しいハングルの発音変化や文法、日常生活でよく使われる表現を学んで、実際に使える韓国語の力を養う。</p> <p>【到達目標】 発音の変化を踏まえてハングルを正確に読み書きできる。日常的な韓国語を聞き取り、読み、書くことができる。</p>	
総合科目	日本語①A	<p>【科目の概要】 日本古典作品を取り扱う。留学生にとって、古典作品に触れる機会は少ないと思うが、本授業では、古典の基礎や文法、様々な古典作品を学び、日本の古典文学の大まかな流れも理解したい。 古典入門とし、現代文との違い（歴史的な背景の理解）や古典常識（時や方位、十干十二支等の理解）、古典文法の基礎や和歌の修辭法などを学び、基礎をしっかりと理解する。</p> <p>【到達目標】 ひとりで古文を読めるようにし、基礎の古典文法や古典常識を理解することで、自身で古語辞典を引きながら、短文を解釈できるようになることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語①B	<p>【科目の概要】 時代順に日本古典作品を取り扱う。日本語①Aで習得した基礎古典をもとにして、様々な古典作品に触れ、古典世界を味わう。古文を現代語訳し理解することで、日本語の読解力も養う。 日本語①Aで学んだ基礎古典から、自分自身で古文を読み、現代語訳できる力を養う。</p> <p>【到達目標】 様々な古典作品を読み、自ら現代語訳することで、日本の古典世界を理解できるようになることを目標とする。また、正しい現代語訳ができるように日本語力も身につける。</p>	

総合科目	日本語②中級A	<p>【科目の概要】 日本語でのインタビュー、プレゼンテーション等の発表能力や問い合わせ、お願い、雑談等の日常生活におけるスムーズな会話技術を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 日本語での自己発表の技術を身につけ、また、なるべく効率よく、相手を不快にさせないコミュニケーション能力を伸ばすことを目的とする。</p>	
総合科目	日本語②中級B	<p>【科目の概要】 面接、スピーチ等フォーマルな場面の日本語での発表能力を身につけ、また、いろいろなテーマでクラスメートと意見交換しながら、日本語のコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 日本語での自己発表の技術を身につけ、自分の意見を自由に表現できるようにすることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語②上級A	<p>【科目の概要】 文学・語彙、文法等、日本語能力試験1級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業（特にゼミナール）における口頭発表、質疑応答、討論等のできる口頭表現力の訓練を行う。特に敬語表現の学習を行う。</p> <p>様々な場面で使用される敬語を、場面を設定して学習し、スムーズな敬語表現ができる力を養う。</p> <p>【到達目標】 正式な場面や目上の人に対する敬語表現を身につける。学内のみならず、一般社会でも敬語を使用できるようにする。</p>	
総合科目	日本語②上級B	<p>【科目の概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験1級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業（特にゼミナール）における口頭発表、質疑応答、討論等のできる口頭表現力の訓練を行う。特にスピーチ等の学習を行う。</p> <p>様々な場面で、自分が相手に伝えたいことや、表現したいことを的確に表現できる力を養う。</p> <p>【到達目標】 自分の考えや思いを、的確な日本語表現を使い、口頭で相手に伝えられる力を養うことを目標とする。</p>	
総合科目	日本語③中級A	<p>【科目の概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に文章表現の基礎を学習する。</p> <p>原稿用紙の使い方等、基本的な書式を学びながら、文章表現の基礎固めを行う。</p> <p>【到達目標】 文章表現の基礎を学習し、簡単なレポート作成ができるようになることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語③中級B	<p>【科目の概要】 文字・語彙、文法等、日本語能力試験2級合格程度の日本語力を前提として、各学部の授業における発表原稿、レポート、小論文等、文章表現の訓練を行う。特に短文から論理的なレポートが書けるように、段階的に書く練習を行う。</p> <p>簡単な短文から始めて、最終的には自ら資料を探し、論理的なレポートが書ける力を養う。</p> <p>【到達目標】 レポートを書くために、資料を探し、分析し、自分の意見が述べられるようになることを目標とする。</p>	

総合科目	日本語③上級 I A	<p>【科目の概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業をおこなう。授業では、日本語でレポート等を作成する際に使われる文型・表現およびレポートの構成等を中心に取り上げ、受講者の考え、意図することが日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）でおこなう。</p> <p>【到達目標】 レポートや論文でよく使われる文型や表現、展開パターンを習得し、論理的な文章が作成できるようになることを目標とする。</p>	
総合科目	日本語③上級 I B	<p>【科目の概要】 留学生を対象に、専門のゼミナールにおける発表原稿、レポート、小論文、卒業論文等の作成に必要な基礎を身につけることを目的とした授業を行う。授業では自分の関心のあるテーマについて、論証型のレポートを作成し、受講者の意図が日本語でより正確に表現できることを目指す。なお、授業におけるコミュニケーションは日本語（中国語での対応可能）で行う。</p> <p>【到達目標】 自分の関心のあるテーマについて、必要な資料・情報の収集、分類、検討をおこない、自分の思考をまとめ、読み手にとってわかりやすいレポート（4000字程度）を完成することを目標とする。</p>	
総合科目	日本事情 A	<p>【科目の概要】 現代の日本社会を考えるには、まずかつての日本社会のありようを把握しなければならない。そのうえで現代社会のありようを的確にとらえ、その変化や変容をとらえていく必要がある。「現代日本A」では生活文化に焦点を当て、近世・近代から現代への移り変わりの中で、われわれの生活の何が変わり、また何が変わらないのかを見つめ直す視点を提供したい。</p> <p>本講義では、現代の生活・社会・文化などのありようを、近世・近代から現代という移り変わりの中で把握できることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 現代社会の文化・社会現象に関心を持ち、変化を考慮して的確に捉えられるようにする。</p>	
総合科目	日本事情 B	<p>【科目の概要】 日本の大学の授業は専攻を問わず、受講者が現在の日本社会のしくみや地理、歴史と伝統についての常識を備えていることを前提として行われている。この科目ではその前提となっている日本に関する常識を、政治・経済・地理・歴史の分野に分けて演習形式で学んでいく。さらに総合的な日本語力の向上もはかる。</p> <p>日本の地理、歴史を中心に、与えられたテーマについて調べ、パワーポイントをつかひながら日本語で発表できるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の地理、歴史の基本を知る。 ・レジュメとパワーポイントを使って日本語で正確に説明できるようになる。 ・日本語で、日本の地理・歴史・伝統・文化等、事実を誤りなく説明できるようになる。 	
総合科目	外国大学科目①	<p>【科目の概要】 本科目は、本学と協定を締結している海外の大学への交換留学や、予め本学に申請し許可を得て赴く私費留学（認定留学）により取得した留学先大学の単位を認定するためのものである。留学先大学で単位を取得した科目のシラバス等を確認した上で、国際政治経済学部国際経営学科が設けている科目区分の「総合科目」として認定する。さらに「外国大学科目①」は、留学先大学で行われた当該科目の総授業時間数等を勘案して、最大2単位を認定することとする。</p> <p>【到達目標】 海外での留学経験は、ものの見方を考え方を大きく変え、後の学生生活やその後の人生に大きな影響を与えることもある。交換留学や認定留学では、そうした貴重な機会に配慮し、本学部・学科が設ける卒業要件をも満たせる制度としている。さらに、「専門科目群」のみならず、他分野の学問をも学ぶことが出来るよう配慮し、留学先大学でより多くの経験を積ませることを目標とする。</p>	

<p>総合科目</p>	<p>外国大学科目②</p>	<p>【科目の概要】 本科目は、本学と協定を締結している海外の大学への交換留学や、予め本学に申請し許可を得て赴く私費留学（認定留学）により取得した留学先大学の単位を認定するためのものである。留学先大学で単位を取得した科目のシラバス等を確認した上で、国際政治経済学部国際経営学科が設けている科目区分の「総合科目」として認定する。さらに「外国大学科目②」は、留学先大学で行われた当該科目の総授業時間数等を勘案して、最大2単位を認定することとする。</p> <p>【到達目標】 海外での留学経験は、ものの見方を考え方を大きく変え、後の学生生活やその後の人生に大きな影響を与えることもある。交換留学や認定留学では、そうした貴重な機会に配慮し、本学部・学科が設ける卒業要件をも満たせる制度としている。さらに、「専門科目群」のみならず、他分野の学問をも学ぶことが出来るよう配慮し、留学先大学でより多くの経験を積ませることを目標とする。</p>	
<p>総合科目</p>	<p>外国大学科目③</p>	<p>【科目の概要】 本科目は、本学と協定を締結している海外の大学への交換留学や、予め本学に申請し許可を得て赴く私費留学（認定留学）により取得した留学先大学の単位を認定するためのものである。留学先大学で単位を取得した科目のシラバス等を確認した上で、国際政治経済学部国際経営学科が設けている科目区分の「総合科目」として認定する。さらに「外国大学科目③」は、留学先大学で行われた当該科目の総授業時間数等を勘案して、最大2単位を認定することとする。</p> <p>【到達目標】 海外での留学経験は、ものの見方を考え方を大きく変え、後の学生生活やその後の人生に大きな影響を与えることもある。交換留学や認定留学では、そうした貴重な機会に配慮し、本学部・学科が設ける卒業要件をも満たせる制度としている。さらに、「専門科目群」のみならず、他分野の学問をも学ぶことが出来るよう配慮し、留学先大学でより多くの経験を積ませることを目標とする。</p>	
<p>総合科目</p>	<p>外国大学科目④</p>	<p>【科目の概要】 本科目は、本学と協定を締結している海外の大学への交換留学や、予め本学に申請し許可を得て赴く私費留学（認定留学）により取得した留学先大学の単位を認定するためのものである。留学先大学で単位を取得した科目のシラバス等を確認した上で、国際政治経済学部国際経営学科が設けている科目区分の「総合科目」として認定する。さらに「外国大学科目④」は、留学先大学で行われた当該科目の総授業時間数等を勘案して、最大2単位を認定することとする。</p> <p>【到達目標】 海外での留学経験は、ものの見方を考え方を大きく変え、後の学生生活やその後の人生に大きな影響を与えることもある。交換留学や認定留学では、そうした貴重な機会に配慮し、本学部・学科が設ける卒業要件をも満たせる制度としている。さらに、「専門科目群」のみならず、他分野の学問をも学ぶことが出来るよう配慮し、留学先大学でより多くの経験を積ませることを目標とする。</p>	
<p>総合科目</p>	<p>外国大学科目⑤</p>	<p>【科目の概要】 本科目は、本学と協定を締結している海外の大学への交換留学や、予め本学に申請し許可を得て赴く私費留学（認定留学）により取得した留学先大学の単位を認定するためのものである。留学先大学で単位を取得した科目のシラバス等を確認した上で、国際政治経済学部国際経営学科が設けている科目区分の「総合科目」として認定する。さらに「外国大学科目⑤」は、留学先大学で行われた当該科目の総授業時間数等を勘案して、最大2単位を認定することとする。</p> <p>【到達目標】 海外での留学経験は、ものの見方を考え方を大きく変え、後の学生生活やその後の人生に大きな影響を与えることもある。交換留学や認定留学では、そうした貴重な機会に配慮し、本学部・学科が設ける卒業要件をも満たせる制度としている。さらに、「専門科目群」のみならず、他分野の学問をも学ぶことが出来るよう配慮し、留学先大学でより多くの経験を積ませることを目標とする。</p>	

総合科目	短期海外研修①	<p>【科目の概要】 海外協定校及びそれに準ずる教育機関等で実施される外国語能力の習得と異文化理解を深めることを目的とした短期海外語学研修プログラムで、語学力向上を目的とした研修、実践的な課外活動、異文化交流などから構成される。英語圏、韓国語圏、中国語圏での実施となる。参加希望者は募集説明会に出席し、渡航前に開催される出発前オリエンテーション、危機管理セミナーに出席すること。</p> <p>【到達目標】 外国語運用能力を向上させる。また、各国の文化圏（英語圏、韓国語圏、中国語圏）における総合的な理解や認識を深める。</p>	
総合科目	短期海外研修②	<p>【科目の概要】 海外協定校及びそれに準ずる教育機関等で実施される外国語能力の習得と異文化理解を深めることを目的とした短期海外語学研修プログラムで、語学力向上を目的とした研修、実践的な課外活動、異文化交流などから構成される。英語圏、韓国語圏、中国語圏での実施となる。参加希望者は募集説明会に出席し、渡航前に開催される出発前オリエンテーション、危機管理セミナーに出席すること。</p> <p>【到達目標】 外国語運用能力を向上させる。また、各国の文化圏（英語圏、韓国語圏、中国語圏）における総合的な理解や認識を深める。</p>	
総合科目	健康スポーツ科学A	<p>【科目の概要】 本講義で取り上げるのは、今日の長寿社会の中で健康的な生活をおくことの重要性についてです。さらにそれは、自身のクオリティ・オブ・ライフ（QOL）をいかに高めるか、という問題にも関連してきます。病気にならないためには何をすればよいのでしょうか、この問題も扱う予定です。</p> <p>【到達目標】 健康に生きるためにはどのような生活を送ればよいのか、クオリティ・オブ・ライフ（QOL）を向上させるには何をすればよいのか、について各自が考え、そしてそれを実践することがこの授業の到達目標です。</p>	
総合科目	健康スポーツ科学B	<p>【科目の概要】 運動の習慣化が重要視されているが、実際にはなかなか難しい。授業では、なぜ運動やスポーツを取り入れる事が心身の健康のためになるのかを理解して、安全に運動やスポーツを行うための身体の仕組みや、スポーツトレーニングの基本的理論を学ぶ。さらに、自分自身の健康習慣として、運動やスポーツを取り入れる方法を考え実践できるようになることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 身体の構造を理解して運動やスポーツに対する正しい知識を持つ。運動やスポーツに対する問題点を見つけ、解決するための幅広い考えを持つことができるようになる。生活習慣として、運動やスポーツを取り入れ、自分自身の健康管理に役立てることができるようになる。</p>	
総合科目	健康スポーツ①	<p>【科目の概要】 健康な生活を送るためには、多少の困難やストレスに打ち勝つ耐性と同時に、運動習慣を身につけて、体力増進を図ることが重要である。本授業では、様々なスポーツ、特に集団スポーツを通して、新たな人間関係を築き、コミュニケーション能力を高めるとともに、運動を習慣化し、体力増進を図りたい。</p> <p>【到達目標】 多様なスポーツを通して、仲間たちとのコミュニケーション能力や、競技のルール・基礎技術を高めることがこの授業の到達目標である。</p>	
総合科目	健康スポーツ②	<p>【科目の概要】 今日の長寿社会において生涯にわたって健康な生活を送るためには、若い時から運動習慣を身につけておくことが重要である。この授業では、様々なスポーツに触れて体力増進を図るとともに、集団行動や仲間たちとのコミュニケーション能力の向上も目指す。道具・用具の準備や片付けも授業の一環であり、真摯に取り組んでほしい。</p> <p>【到達目標】 この授業の狙いは、集団行動力や仲間たちとのコミュニケーション能力を向上させることである。さらにスポーツ全般に対する理解力を深めることも到達目標の一つである。</p>	

総合科目	シーズンスポーツ①	<p>【科目の概要】 夏の野外スポーツを対象とするこのシーズンスポーツ①では、テニスとゴルフを行います。どちらも多様なレベルのクラスを用意していますので、初心者から上級者まで参加可能となっています。ゴルフは、最終日には本コースに出て回る予定です。</p> <p>【到達目標】 テニスもゴルフも、年齢に関係なく、生涯楽しむことができるスポーツです。体力増進とともに、個人の実力に応じた上達を図ることがこのシーズンスポーツ①の到達目標となります。</p>	
総合科目	シーズンスポーツ②	<p>【科目の概要】 冬のスポーツを対象とするこのシーズンスポーツ②では、スキーを行います。日本のスキー発祥地で、プロのインストラクターに教えてもらいます。最終的には、全日本スキー連盟 (SAJ) が定めるスキーの技能テストを受けて、バッジ獲得を目指すこととなります。</p> <p>【到達目標】 冬山の厳しい自然の中で、自分の実力に応じたスキー技能の向上を目指し、スキー技能テストで自分が目標とする級のバッジを獲得することが、シーズンスポーツ②の到達目標です。</p>	
両学部共通科目	情報科学①A	<p>【科目の概要】 本科目では、コンピュータとのコミュニケーションに必要なツールのうち導入が楽でポピュラーなプログラミング言語である Visual Basic.NET (現 Visual Studio Community) について学んでいきます。はじめにソースコード入力のためのキーボード練習と情報処理の基礎を復習し、プリントに従ってプログラミング言語での情報の伝達・処理の構造を学び進めます。</p> <p>【到達目標】 情報処理においては、キーボード処理の自由度と、データ入力の正確さが求められ、情報の活用に繋がります。プログラミング言語やアプリケーションソフトをマスターする事により曖昧であった情報が示す方向が見えてきます。本授業では情報処理の基礎を復習後、プログラミング言語の基本的な流れをマスターする事を目指します。</p>	
両学部共通科目	情報科学①B	<p>【科目の概要】 本科目では、PowerPointの実戦処理の基本操作を学習します。課題としての絵本作成などを通して、レポートや授業での発表の際のデータ作成に応用が出来るよう、応用力のある操作方法を楽しみながら身に付けることを目指します。また、Web情報発信処理としてHTML及びCSSの基本処理のマスターも目指します。</p> <p>【到達目標】 ①PowerPointの使用に慣れ、効果的な情報発信を目指します。②Officeソフトを上手に活用し、より専門的な発表資料の作成を目指します。③インターネットで必要な情報を収集・発信できることを目指します。</p>	
両学部共通科目	情報科学②A	<p>【科目の概要】 インターネットを利用したコミュニケーションツールは広く普及し、FacebookやTwitter、LINEといったアプリケーションの登場によって、個人がより簡単に必要な情報を入手でき、情報発信することを可能にした。こうしたICTツールが日常の様々な場面で活用されることで、私たちの生活の利便性は高まる一方で、情報の不正な入手や利用等の問題も起きている。本授業では、パソコンの基礎知識やインターネットの利用上の倫理を理解したうえで、ICTツールを利用した情報収集や活用策の学習する。</p> <p>【到達目標】 パソコンとソフトウェア (Word、PowerPoint) の基本操作、情報に関するモラルやルールを理解したうえで、ネット上の情報の収集・活用策を実践的に学び、レポートを作成すること。</p>	

両学部共通科目	情報科学②B	<p>【科目の概要】 インターネットを利用したコミュニケーションツールは広く普及し、FacebookやTwitter、LINEといったアプリケーションの登場によって、個人がより簡単に必要な情報を入手でき、情報発信することを可能にした。こうしたICTツールが日常の様々な場面で活用されることで、私たちの生活の利便性は高まる一方で、情報の不正な入手や利用等の問題も起きている。本授業では、パソコンの基礎知識やインターネットの利用上の倫理を理解したうえで、ICTツールを利用した情報収集や活用策について学習する。</p> <p>【到達目標】 パソコンとソフトウェア（Excel）の基本操作、情報に関するモラルやルールを理解したうえで、ネット上の情報の収集・活用策を実践的に学び、レポートを作成すること。</p>	
両学部共通科目	情報処理①	<p>【科目の概要】 本科目では、PowerPointの実戦処理の基本操作を学習します。課題としての絵本作成などを通して、レポートや授業での発表の際のデータ作成に活用が出来るよう、応用力のある操作方法を楽しみながら身に付けることを目指します。また、Web情報発信処理としてHTML及びCSSの基本処理のマスターも目指します。</p> <p>【到達目標】 ①PowerPointの使用に慣れ、効果的な情報発信を目指します。②Officeソフトを上手に活用し、より専門的な発表資料の作成を目指します。③インターネットで必要な情報を収集・発信できることを目指します。</p>	
両学部共通科目	情報処理②	<p>【科目の概要】 現代社会における情報処理技術の進歩は目覚ましいものがあり、一個人でも容易に世界に向けて情報を発信できるようになりました。当講義では、インターネットを通じた情報の収集、蓄積、加工方法を習得します。さらには実習でwebサイトを構築することにより情報発信の手法を学びます。情報の発信に関する基礎知識の習得、および演習による情報発信技術の取得が目的です。</p> <p>【到達目標】 情報発信のための手法、およびツール類の操作方法を習得し、情報の創造、発信ができるようになることを目指します。</p>	
両学部共通科目	情報統計学A	<p>【科目の概要】 現在の情報化された経済社会ではビッグデータなどを利用した統計分析のビジネスへの活用能力は不可欠である。ビジネスの定量的分析に欠かせない確率論の基礎とデータの統計処理の方法を、豊富な実践的データを用いて繰り返し解くことで身につける。</p> <p>【到達目標】 データに基づいて客観的に判断し、科学的に問題を解決できる能力を身につける。主観的・独善的な解釈や先入観を排除し、他者と共有可能な理解に到達することのできる能力を身につける。統計検定3級の合格を目指し、2級合格への基礎を育成する。</p>	
両学部共通科目	情報統計学B	<p>【科目の概要】 現在の情報化された経済社会ではビッグデータなどを利用した統計分析のビジネスへの活用能力は不可欠である。ビジネスの定量的分析に欠かせない確率論の基礎とデータの統計処理の方法を、豊富な実践的データを用いて繰り返し解くことで身につける。またITスキルの強化と連動して、より高度なデータ処理を実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】 データに基づいて客観的に判断し、科学的に問題を解決できる能力を身につける。主観的・独善的な解釈や先入観を排除し、他者と共有可能な理解に到達することのできる能力を身につける。統計検定2級の合格を目指す。</p>	

両学部共通科目	マスメディア論A	<p>【科目の概要】</p> <p>マスメディアは、新聞やニュース報道などを通じて世論の形成に大きな影響力を持っていることから、立法、行政、司法に次ぐ「第4の権力」と言われている。本授業では、こうしたマスメディアと政治の関係を中心に、政権交代や世論、政策形成等の具体的な事例を通じて考えていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>情報爆発時代におけるマスメディアと政治の関係を学び、情報社会のあり方と自分自身との関係の変化を考え理解することができる。</p>	
両学部共通科目	メディアと社会的責任A	<p>【科目の概要】</p> <p>情報化社会に生きるわれわれにとって、メディアから情報を得ることは日常の一部であり、それが大きな影響力を持つことは自明の理である。本講義では、多大な影響力をもつ各種メディアの特性や歴史を概観し、現代社会でメディアが果たすべき機能と責任について取り上げる。特に法的な観点からメディアの現状を考察し、メディアと法の在り方について論じてみたい。</p> <p>【到達目標】</p> <p>各種メディアの特性と問題点について、さらにはメディアが果たすべき機能と社会的責任について理解を深めることが、本授業の狙いである。</p>	
学芸員科目	生涯学習概論	<p>【科目の概要】</p> <p>人のライフサイクル、学習に関する考察を基に、改めてその理念を検討するとともに、日本における生涯学習・社会教育の内容や歴史的経緯、公共図書館・博物館・大学等の役割について検討し、生涯学習社会に生きる生き方について考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>生涯学習の歴史的経緯や理念、日本の生涯学習・社会教育の現状を理解し、自己の目標のための基礎的な知識や態度を形成する。</p>	
学芸員科目	博物館概論	<p>【科目の概要】</p> <p>世界の博物館と日本の博物館について、どのような歴史的背景の中で設立されてきたのかを説明し、博物館とはどのような施設であるのかについて理解を深める。「博物館法」に基づきながら、博物館にはどのような種類があるのかを説明する。「博物館法」に基づきながら、博物館に課せられた社会的役割と学芸員の職務内容について説明し、博物館と学芸員について理解を深める。</p> <p>【到達目標】</p> <p>博物館の歴史と社会的役割について理解を深める。学芸員の職務内容に関する基礎的な知識を身に付ける。</p>	
学芸員科目	博物館経営論	<p>【科目の概要】</p> <p>社会教育・研究機関としての博物館を運営するために基盤となる専門知識を学ぶ。博物館は何をめざしているのかを常に念頭におきながら、授業を進める。適宜、博物館法規（資料）を参照する。博物館の経営・運営全体のあり方を理解することを目的とする。よりよい将来の博物館活動に結びつけるために、学芸員資格取得をめざす者は堅実な管理・運営の実態を把握する必要がある。</p> <p>【到達目標】</p> <p>博物館とは何であるのかを理解し、博物館の今日における現状、課題について考察する。博物館の存在意義について確認する。博物館関係法規を読むことにより、博物館運営の実務を習得する。</p>	
学芸員科目	博物館資料論	<p>【科目の概要】</p> <p>博物館活動の主軸となるのが資料（コレクション）である。健全な展示活動を行うためには、資料は適確に管理、研究されることを要する。授業では主に、資料の種類、収集方法、調査研究の方法について講義する。学芸員の業務における基礎知識を学ぶことを目的とする。資料の収集法を理解し、資料を適確に保存するための方法を身につける。また、文化財の種類についても学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学芸員業務の基盤となる資料活用法を学び、資料の特質を理解する。学芸員としての即戦力のもととなる基礎知識を身につける。</p>	

学芸員科目	博物館資料保存論	<p>【科目の概要】</p> <p>文化財の保存目的は単に資料を後世に伝えることだけではなく、その地方の文化を伝える事が重要である。そのための学芸員の役割を考えていく。授業では保存という営みの中で環境等外すことの出来ない事柄を具体的に述べ、保存の繊細さ、重要度について明らかにする。その過程の中で、古典籍や収納箱の実物にふれ、それらの構造、あるいは脆弱さなどを体感してもらおう。</p> <p>【到達目標】</p> <p>個々の文化財で、どうすれば良好な保存状態を保つことが出来るかではなく、文化財の弱点を挙げ、どういう取り扱いにより破損するかを重点的に考え、劣化要因を明確化することから保存を考える。</p>	
学芸員科目	博物館展示論	<p>【科目の概要】</p> <p>博物館展示の目的と方法およびその種類について説明する。展示の企画立案から予算案の作成・業者の選定など、展示開催に至るまでの作業について説明する。展示資料の選定・展示技術・展示道具などについて説明する。これからの博物館展示のありかたについて説明する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>博物館展示の意義について理解を深め、その開催までの手順について基礎的知識を身に付ける。</p>	
学芸員科目	博物館教育論	<p>【科目の概要】</p> <p>文化遺産や自然などと直接触れる機会が希薄になりがちな現代社会において博物館には文化の理解や生命・環境保護等に関わる教育的役割が求められている。本講座では博物館における教育的役割の重要性を歴史的・文化的な観点から理解を深めると共に、博物館教育活動の調査や企画・立案の演習を通して実践的な知識習得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>博物館の成立を歴史的、時代的背景と照合しながら博物館が持つ教育的役割について理解を深める。博物館が持つ機能の実際や学校教育・地域社会に果たす役割について調査活動を通して理解を深める。博物館教育活動の調査や企画・立案の演習を通して実践的な力を養う。</p>	
学芸員科目	博物館情報・メディア論	<p>【科目の概要】</p> <p>博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う内容とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>博物館における情報活用・発信について理解すること。また、資料保存のデジタル化、これにより生じる知的財産権について考えられるようになること。</p>	
学芸員科目	博物館実習Ⅰ	<p>【科目の概要】</p> <p>博物館学芸員資格を取得するための必修科目である。博物館における学芸員としての実践力を身につけるための実習事前指導。博物館実務の基礎知識・技術を学ぶ。博物館概論および博物館学資料論で学んだ知識を確認しながら、学芸員の実務に応用できるような資料解説法・作品解説法などの実践力を養う。また現場で活用する資料や展示器具に関する専門知識や用語を習得する。展示や作品への関心を深めるために、逐次展覧会の紹介をする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>博物館実習Ⅰでは、資料（掛軸・卷子・冊子・陶器他）の取扱いや調査方法（拓本他）について習得し、博物館現場における基礎力を身につけることを目標とする。</p>	
学芸員科目	博物館実習Ⅱ	<p>【科目の概要】</p> <p>博物館実習Ⅰの履修を前提とし、館外実習にむけて学芸員の主要業務である展示・資料調査研究に関わる実践力を養う。実習は個々の受講生が主体になり、主に資料の扱い方、展示企画法について習得する、また博物館実習を行う際の心構えやマナーについても身につけていく。館外実習及び事前・事後指導として、学芸員の実務を体験することを目的とする。展覧会の企画書の作成やそれに基づく発表など、学生同志で互いに協調し、コミュニケーション能力を身につける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>資料（掛軸・茶碗）の取扱いの基礎、展示企画法について習得し、学外実習を行う博物館についての事前調査を行う。博物館現場における即戦力の基礎を身につけることを目標とする。自身のノートを作成することにより、実習で学んだ内容の総括をする。</p>	

学芸員科目	表象メディア史A	<p>【科目の概要】 メディアについての考察は、新聞やテレビ、ネットといった個別のメディアとそこで流通するコンテンツだけの問題ではなく、メディアを通して世界との関係性を構築している私たち自身について考えることでもあります。この授業では、新聞やテレビ、ネットといった個別のメディアの発達の歴史から学んでいきます。理論だけではなく実例も多く取り上げながら授業を進めていきます。</p> <p>【到達目標】 個々のメディアがもっている特性についての理解を深めるとともに、コンテンツを分析する際にメディアの特性を考慮に入れることができるようにする。</p>	
学芸員科目	表象メディア史B	<p>【科目の概要】 表象メディア史Aで学んだ知識を基に、このBではメディアについての学問であるメディア論の歴史を取り上げて、われわれがメディアというものに向き合っていくための基本的な考え方、言い換えれば、メディアはわれわれの感じ方や世界の在り方にどのように関わっているのかについて考察します。多くの実例をあげながら分かり易く説明するつもりです。</p> <p>【到達目標】 個々のメディアの特性を理解し、メディアは自分たちの感じ方や世界の在り方にどのように関わっているのかについて反省的に捉える能力を身につけることが、この授業の到達目標となります。</p>	
学芸員科目	芸能・演劇研究①A	<p>【科目の概要】 日本の音楽文化は、政治や宗教のなかで重要な役割を担ってきた。本科目では、古典文学作品中の音楽の場面を読みながら、上代から鎌倉期における日本音楽史の基本的な知識を養う。視聴覚資料を使い、実地踏査を行って、伝統芸能の歴史と存在意義についての理解および考察を深める。</p> <p>【到達目標】 伝統芸能に対する見識を深めるとともに、講義で取り上げた古典文学や絵画中の音楽場面における音楽の役割が説明でき、日本文化史における音楽芸能の重要性を、歴史や文学の知識を援用して論じることができる。</p>	
学芸員科目	芸能・演劇研究①B	<p>【科目の概要】 芸能・演劇研究①Aに引き続いて、古典文学や絵画の中の音楽場面を読みながら、上代から鎌倉期における日本音楽史の基本的な知識を養う。文学の読解を通じて、音楽文化がいかに豊かに文学に享受されているかを知り、場面における音楽の役割について考える。視聴覚資料や実地踏査により、伝統芸能の歴史と存在意義についての理解および考察を深める。</p> <p>【到達目標】 日本音楽史における音楽芸能の重要性を論じることができる。伝統芸能に対する見識を深めながら、芸能の歴史や存続の問題点と今後の在り方について自らの考えを述べるができる。</p>	
学芸員科目	日本文化史A	<p>【科目の概要】 日本文化に関わる認識を深めるため、前近代における日本文化の諸相を概観する。また、中国・朝鮮等の日本周辺の地域との交流と影響の関係も視野に入れつつ、日本文化の特質について考える。</p> <p>【到達目標】 日本文化に関する理解を深める。また、さまざまな文献に触れ、文化に対する自らの問題意識を高め、調べ、考察することを目標とする。</p>	
学芸員科目	日本文化史B	<p>【科目の概要】 日本文化に関わる認識を深めるため、前近代における日本文化の諸相を概観する。また、中国・朝鮮等の日本周辺の地域との交流と影響の関係も視野に入れつつ、日本文化の特質について考える。</p> <p>【到達目標】 日本文化に関する理解を深めることができる。また、さまざまな文献に触れ、文化に対する自らの問題意識を高め、調べ、考察することができる。</p>	

学芸員科目	仏教文化A	<p>【科目の概要】</p> <p>仏教は、日本文化に非常に重要な影響を与えた。日本文化や文学を学ぶ上で、仏教についての知識は欠かすことができない。そこで、この授業では、仏教伝来から平安仏教まで、通史的に仏教史を学び、仏教が日本文化や文学にどのような影響を与えたのか講じていく。テキスト『日本仏教史』の第一章から第三章までの、特に重要な箇所を中心に取り上げ、絵巻物などの絵画資料を用いながら授業を進めていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の歴史の中で、仏教が果たした役割について検討し、その意義を理解する。</p>	
学芸員科目	仏教文化B	<p>【科目の概要】</p> <p>仏教は、日本文化や文学に非常に大きな影響を及ぼした。日本文化や文学を学ぶ上で、仏教についての知識は欠かすことができない。この授業では、鎌倉仏教が日本文化や文学にどのような影響を与えたのか、絵巻物などの絵画史料を用いながら講じていく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の歴史の中で仏教が果たした役割について検討し、その意義を明らかにする。</p>	
学芸員科目	日本文化特殊研究①A(有職故実)	<p>【科目の概要】</p> <p>有職故実(ゆうそくこじつ)という平安時代に成立した貴族社会における儀式や作法などの公的なルールについて学び、あわせて貴族生活の様子について理解する。講義形式であるが、ビデオ・スライドなども使用し理解が深まるようにする。</p> <p>平安時代に成立した文学作品や記録(日記)を読解する基礎的な知識習得を目的として、有職故実の世界を学ぶとともに、当時の貴族達の生活などについても学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学作品や記録(日記)の読解に際して、基礎的な用語やその歴史の変遷について理解でき、またその調査方法を身につけることを目標としたい。</p>	
学芸員科目	日本文化特殊研究①B(有職故実)	<p>【科目の概要】</p> <p>有職故実(ゆうそくこじつ)という平安時代に成立した貴族社会における儀式や作法などの公的なルールについて学び、あわせて貴族生活の様子について理解する。講義形式であるが、ビデオ・スライドなども使用し理解が深まるようにする。</p> <p>平安時代に成立した文学作品や記録(日記)を読解する基礎的な知識習得を目的として、有職故実の世界を学ぶとともに、当時の貴族達の生活などについても学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学作品や記録(日記)の読解に際して、基礎的な用語やその歴史の変遷について理解でき、またその調査の方法を身につけることを目標としたい。</p>	
学芸員科目	日本文化特殊研究②A(日本の民俗信仰)	<p>【科目の概要】</p> <p>民俗学の立場から、日本の地域社会に展開する民俗信仰の具体的な調査事例を紹介しながら、カミ(神)やホトケ(仏)が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを追究していくことにしたい。そして、民俗信仰の性格や機能、あるいは現代的意義について考察を加える。民俗学における研究方法の基礎を学び、地域社会で生活する人々の多様な文化を追究する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>民俗学における信仰分野の研究を体系的に理解できるようにしたい。</p>	
学芸員科目	日本文化特殊研究②B(日本の民俗信仰)	<p>【科目の概要】</p> <p>民俗学の立場から、日本の地域社会に展開する民俗信仰の具体的な調査事例を紹介しながら、カミ(神)やホトケ(仏)が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを追究していくことにしたい。そして、民俗信仰の性格や機能、あるいは現代的意義について考察を加える。民俗学における研究方法の基礎を学び、地域社会で生活する人々の多様な文化を追究する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>民俗学における信仰分野の研究を体系的に学べるようにしたい。</p>	

学芸員科目	日本文化特殊研究③A	<p>【科目の概要】</p> <p>平安時代における医療と宗教の結びつきについて講義する。平安貴族がどのようにモノノケを恐れ、僧侶がいかに対処したのかを講じる。医療と宗教については、単に過去の事象として捉えるのではなく、現在のそれともリンクさせて検討していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>歴史の中の医療と宗教の関連について把握する。過去の人間がモノノケを実在するものと考え、呪術に依存した理由を理解する。また、歴史を見ることにより、現在を見る視点を培う。</p>	
学芸員科目	日本文化特殊研究③B	<p>【科目の概要】</p> <p>平安時代から戦国時代における医療と宗教の結びつきについて講義する。とくに平安時代を中心に、平安貴族がどのようにモノノケを恐れ、僧侶がいかに対処したのかを講じる。医療と宗教については、単に過去の事象として捉えるのではなく、現在のそれともリンクさせて検討していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>歴史の中の医療と宗教の関連について把握する。過去の人間がモノノケを実在するものと考え、呪術に依存した理由を理解する。また、歴史を見ることにより、現在を見る視点を培う。</p>	
学芸員科目	比較文学・文化研究②A	<p>【科目の概要】</p> <p>震災後文学を扱う。と言っても、東日本大震災後の「震災後文学」についてまだ定説はないので、学生と共に探り探りやっていきたい。東日本大震災は、文学の内容を変化させた。津波、死者、原発などに、「言葉」が追い付いていない。あの圧倒的な現実に「文学」はどう立ち向かうのか、どのような使命を果たすのか。「震災後文学」を考察するために、日本文学には、第二次世界大戦という圧倒的かつ新しい「現実」を言葉にしようとしてきた歴史的蓄積を参照する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学の現代においてもまだ微かな意義が存在すると、腑に落ちて理解すること。過去に生きた人たちの悪戦苦闘と、残した文章から、ぼくらが「現代」を理解し、生きる糧を得ること。</p> <p>□</p>	
学芸員科目	比較文学・文化研究②B	<p>【科目の概要】</p> <p>震災後文学を扱う。と言っても、東日本大震災後の「震災後文学」についてまだ定説はないので、学生と共に探り探りやっていきたい。東日本大震災は、文学の内容を変化させた。津波、死者、原発などに、「言葉」が追い付いていない。あの圧倒的な現実に「文学」はどう立ち向かうのか、どのような使命を果たすのか。「震災後文学」を考察するために、日本文学には、第二次世界大戦という圧倒的かつ新しい「現実」を言葉にしようとしてきた歴史的蓄積を参照する。前期から続く内容だが、力点が多少後期では変わる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学が現代においてもまだ微かな意義が存在すると、腑に落ちて理解すること。過去に生きた人たちの悪戦苦闘と、残した文章から、ぼくらが「現代」を理解し、生きる糧を得ること。</p>	
学芸員科目	比較文化講義A	<p>【科目の概要】</p> <p>日本人と花とのかかわりは深い。その点について『古事記』『万葉集』から現代文学に至るまで日本文学における花の表象をたどりながら、考察していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本文学、日本文化における花の重要性を理解する。</p>	
学芸員科目	比較文化講義B	<p>【科目の概要】</p> <p>古来より花は洋の東西を問わず、様々な文学作品・芸術作品に表わされてきた。そうした花が一体何を表しているのかを、比較文化史的視点から探求していく。</p> <p>【到達目標】</p> <p>花の表象について、文化により相違があること、また普遍性もあることを理解する。</p>	

図書館司書課程	図書館概論	<p>【科目の概要】</p> <p>①図書館の役割や機能について基本的な考え方 ②国会図書館、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館など各種図書館の機能や任務 ③図書館をめぐる法や基準、図書館法や著作権法など ④図書館サービスの担い手としての図書館員の役割 ⑤図書館ネットワークの広がり ⑥図書館と図書館員の将来あるべき姿等を理解し他の授業との関連性を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①図書館の機能や社会における意義や役割、図書館の種別、サービス内容、利用者ニーズなどについての基礎的知識が理解できる。 ②図書館の歴史及び高度情報化時代の図書館の現状を理解し、課題や問題点について理解できる。 ③図書館員の役割と専門性、司書資格、養成教育、倫理について理解できる。</p>	
図書館司書課程	図書館制度・経営論	<p>【科目の概要】</p> <p>図書館の役割の理解及び急速な社会変化に対応する視点から、図書館のあり方を理解する。図書館と類縁機関の法律や図書館戦略、経営がなぜ必要なのか、その役割は何かを経営学の理論と経営マネージメントを通じて理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①図書館関連の法律や関連する領域の法律を知識として習得する。 ②図書館の現場における利用者や類縁機関とのコミュニケーションをはかる技術を理解する。 ③図書館間のネットワークを構築できる技術を習得できる。</p>	
図書館司書課程	図書館情報技術論	<p>【科目の概要】</p> <p>情報社会において、情報技術の普及と発達に伴って、図書館における業務・サービスも様々な発展している。本講義では図書館業務・サービスを実施するのに必要な情報技術に関する基礎的な知識を習得するために、図書館における各種の実例を示し、解説する。具体的には、コンピュータとネットワーク、図書館業務システム、データベース、サーチエンジン、電子資料、デジタルアーカイブなどを取り上げる。歴史的・社会的背景や最近の新たな動向にも触れる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>図書館業務・サービスを実施するのに必要な情報技術に関する基礎的な知識を習得する。コンピュータとネットワーク、図書館業務システム、データベース、サーチエンジン、電子資料、デジタルアーカイブなどについての基礎的な技術知を習得する。歴史的・社会的背景や最近の新たな動向についても把握する。</p>	
図書館司書課程	図書館サービス概論	<p>【科目の概要】</p> <p>図書館サービスの考え方と構造を、受講する学生と教員が考えながら行う授業展開をしていきます。主に公立図書館におけるサービスを中心に経験をもとに解説し、各種サービスの意義とその具体的展開、及び問題点と課題を考えることで理解を深めます。また、学生には実際に図書館を訪問し、小レポートを書いてもらう予定です。図書館のさまざまなサービスについての理解を深め、今後も継続的に行っていくなければならないサービスとはどのようなものかを考えましょう。</p> <p>【到達目標】</p> <p>図書館サービスを行う上で、現在抱えている問題を把握し、提供するサービス（資料・利用者）の多様化の視点を持って、今後図書館に求められるサービスを著作権法と障害者差別解消法などの面から考える姿勢を身につける。</p>	
図書館司書課程	情報サービス論	<p>【科目の概要】</p> <p>高度情報社会における図書館の情報サービスの現状を理解できるように、図書館で提供されるサービスの種類や内容を学習する。図書館員から利用者に提供される情報サービスの提供方法とそのプロセスについて理解を深める。さらに情報サービスを提供する上で必要な組織のあり方、情報資源の整備などの管理・運営方法、各種情報源の特徴と利用方法についても学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①図書館の情報サービスの役割とその現状について理解する。 ②情報サービスの種類とその内容について理解を深める。 ③情報サービスの具体的内容と方法、またそのプロセスについて総合的に理解する。</p>	

図書館司書課程	児童サービス論	<p>【科目の概要】 現代の子供たちは、テレビをはじめとする視覚的な情報の占める割合が大きく、今改めて本に触れることの大切さが問い直されている。この講義では、年齢に応じた子どもたちの心身の発達状況を理解し、その中で読書がどんな役割を果たしているか、また、どんな読書環境を創っていく必要があるのかを学んでいく。さらに、情報やコミュニケーションについても理解を深め、適切に情報を処理し、コミュニケーション能力を高めていくために、グループ・ディスカッションや現地調査も実施する。</p> <p>【到達目標】 児童を取り巻く読書環境を理解し、子どもたちが読書に親しみ楽しむことができる環境をどのように創っていくかを提案する。</p>	
図書館司書課程	情報サービス演習 I	<p>【科目の概要】 印刷メディア、電子メディアなどのレファレンスツールを実際に使用して、それらの種類と特性を理解する。レファレンスインタビューの実際、レファレンスコレクションの整備、レファレンスツールの評価、図書館の発信型情報サービスの一つであるパスファインダーの作成にも取り組み、必要な情報を迅速・的確に提供できる技術を身につけられるよう演習を行う。</p> <p>【到達目標】 図書館における情報サービスの中で、利用者の情報探索行動を援助し、また利用者のレファレンス質問に対して適切な情報や資料を提供できるように実践的な学習を進める。実際に資料に基いた調査を行い、その上で記録票を作成、調べた結果をプレゼンテーションできる能力の養成を図ることを目標とする。</p>	
図書館司書課程	情報サービス演習 II	<p>【科目の概要】 高度情報化時代の情報サービスを展開できる能力を養うため、主に情報検索サービスを中心に、検索エンジン、各種データベース、電子ジャーナルなどの各種情報資源を検索する技術について演習問題を通じて実践的に演習を進める。図書館における情報サービス、特にレファレンスサービスの体制作りと利用者による評価の方法を理解し、情報サービスの設計と評価について学習する。</p> <p>【到達目標】 ①図書館における情報サービスの設計から評価にいたる各種業務の内容と流れが理解できる。②利用者の情報ニーズに応じて適切な情報サービスができるように、情報検索の技法を実際の演習を通じて習得できる。③情報源による検索の特徴や検索システムの構造を理解し実践的に活用できる。④情報検索のプロセスや検索結果の評価方法について理解できる。</p>	
図書館司書課程	図書館情報資源概論	<p>【科目の概要】 この授業では、図書館で扱う資料全般についてその類型と特質を学ぶ。それ以外にも図書の歴史、出版と流通、図書館での資料選択、選書ツール、資料の保存・管理についても学ぶ。また図書だけでなく非印刷資料や新しいメディア（電子資料やインターネット上の情報資源など）についても学び、それらの知識の修得を目指す。</p> <p>【到達目標】 図書館で扱う印刷資料や非印刷資料（電子資料、ネットワーク情報資源）、資料の選択・収集・受入・保存・評価及び図書・雑誌の出版・流通など、基本的な事項等を学習し、現場で必要となる知識・技術・方法などを身につける。</p>	
図書館司書課程	情報資源組織論	<p>【科目の概要】 本講義では、図書館において利用者に提供する情報資源をどのように組織化するかの方法論を学ぶ。情報資源の組織化においては目録法と分類法によって書誌情報を作成し、OPACなどを通じて提供している。この一連の仕組みを歴史的観点や最近の動向を踏まえながら概説する。図書館における情報資源の組織化に必要な目録作業と分類作業についての基礎を理解し、情報資源組織の基本知識を習得することを目的として、書誌記述、主題分析、書誌コントロールなどについて総合的な知識を得る。</p> <p>【到達目標】 情報資源組織という概念を理解する。目録法と分類法の基礎知識を習得する。ツールとしての日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表について基本的な理解をして、情報資源組織演習に活かせるようにする。近年の多様化した情報資源の組織化についても理解を深める。</p>	

図書館司書課程	情報資源組織演習	<p>【科目の概要】 図書館において利用者に提供する資料（情報資源）をどのように組織化するのを実習を通して学ぶ。実際にルールブックを開き、調べ、記入するという作業を行う。欠席した場合、プリントは配布するが、演習内容についてゆけなくなる可能性が高いので注意すること。情報資源組織論で学んだ知識をもとに、日本目録規則、日本十進分類法、基本件名標目表などのツールを用いて、書誌データの作成、分類記号の付与、件名標目の適用などの技術を身に付けることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 春セメスターでは、日本目録規則を用いて書誌記述作業に習熟し、目録作成の意義を理解する。秋セメスターでは、日本十進分類法、基本件名標目表を用いて分類作業に習熟し、分類の意義を理解する。</p>	
図書館司書課程	図書館サービス特論	<p>【科目の概要】 図書館サービス概論で学んだことをふまえ、より具体的に、さまざまな図書館の多様なサービスについて考えていきます。特に障害者差別解消法が平成28年4月に施行されたことに伴い、障害者が利用しやすい図書館こそ、すべての利用者が利用しやすい図書館であることを再確認していきます。また国や自治体の子ども読書推進計画なども比較しながら、図書館のサービスのあり方について、子どもの視点から考えていきます。</p> <p>【到達目標】 図書館サービスとは何か、それぞれの学生が自分の言葉で語れるようにしたいと思います。</p>	
図書館司書課程	図書館情報資源特論	<p>【科目の概要】 図書館司書が日常業務の中で備えるべき必要な知識の一つとして図書館資料に関する知識がある。図書館資料の中には、専門資料と呼ばれる資料がある。 この授業では、人文科学、社会科学、自然科学のそれぞれにおける専門分野の特性を理解し、専門主題に関する資料や学術情報の種類と特性、利用などについて学ぶ。主要な一次資料、二次資料に関する知識や、近年、急速に普及してきている電子資料など、図書・雑誌といった紙を中心とした旧来の資料だけでなく、電子媒体による情報資源についても学ぶ。</p> <p>【到達目標】 図書館司書として、現場で必要となる専門資料に関する知識を修得し、図書館資料などを活用して問題を解決する能力などを身につける。</p>	
図書館司書課程	図書・図書館史	<p>【科目の概要】 必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書をはじめとする各種図書館情報資源の形態、生産（印刷等を含む）、普及、流通等の歴史、並びに図書館の歴史的発展について学習する。</p> <p>【到達目標】 図書・図書館史の変遷を学ぶことで、現代における図書館の役割について考える。さらに、将来の図書館のあり方についても考えられるようになることを目指す。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人二松學舎 設置認可に関わる組織の移行表

平成29年度

平成30年度

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
二松學舎大学			
文学部			
国文学科	260	-	1,040
中国文学科	90	-	360
都市文化デザイン学科	50	-	200
国際政治経済学部			
国際政治経済学科	200	-	800
計	600		2,400
二松學舎大学大学院			
文学研究科			
国文学専攻博士前期課程	16	-	32
中国学専攻博士前期課程	16	-	32
国文学専攻博士後期課程	5	-	15
中国学専攻博士後期課程	5	-	15
国際政治経済学研究科			
国際政治経済学専攻修士課程	10	-	20
計	52		114

	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
二松學舎大学				
文学部				
国文学科	300	-	1,200	定員変更(40)
中国文学科	90	-	360	
都市文化デザイン学科	50	-	200	
国際政治経済学部				
国際政治経済学科	160	-	640	定員変更(△40)
国際経営学科	80	-	320	学科の設置(届出)
計	680		2,720	
二松學舎大学大学院				
文学研究科				
国文学専攻博士前期課程	16	-	32	
中国学専攻博士前期課程	16	-	32	
国文学専攻博士後期課程	5	-	15	
中国学専攻博士後期課程	5	-	15	
国際政治経済学研究科				
国際政治経済学専攻修士課程	10	-	20	
計	52		114	